

八 はちじょう 2024  
町制施行 70 周年 記念誌



## 東京都八丈町 町勢要覧

# 「はちじょう 2024」 目次

## 2 協働による未来へ

八丈町長 山下 奉也

## 4 町民憲章 八丈町歌

## 5 八丈町 70 年の歩み

## 18 新しくなった町の公共施設

## 24 八丈町の人口推移

## 28 懐かしい「昭和の夏」

## 31 70 年前は八丈島の転換期

## 37 観光産業のはじまり

## 41 島への交通

## 42 漁業統計に見る八丈島の水産業

東京都産業労働局島しょ農林水産総合センター  
八丈事業所長 堀井 善弘

## 46 写真甲子園 3 年連続本戦出場の快挙

八丈高校写真部 (取材・編集=南海タイムス社)

## 51 八丈の町長、町議選挙

## 54 名誉町民

團伊玖磨生誕 100 年記念「筑後川」IN 八丈島 2024

## 55 町のシンボル 交流

## 56 八丈町基本構想

## 58 ザトウクジラ クロアシアホウドリ

## 61 個性派ぞろい、八丈島温泉郷

## 63 資料編

データで見る「はちじょう」

## 82 1949 年に空から撮影された八丈島



表紙写真

1959 年夏。新築されたばかりの町役場前の通りをバイクが走る。道路の先に見えるのは護神山（南海タイムス社所蔵）



町制施行 70 周年



## 協働による未来へ

八丈町長 山下 奉也

1955年4月に町制が施行され、八丈町は70周年を迎えました。これまで、町民のみなさまのたゆまぬ努力と英知により幾多の難局を乗り越え、基幹産業である、農業、漁業、観光業をはじめ他分野において、今日にいたるまで着実な発展を続けてまいりました。これもひとえに町民のみなさまのおかげと心より感謝申し上げます。

現在、人口減少、気候変動、デジタル化の時代など、これまでになかった新たな課題が次々と発生する中、一番に人口減少によるさまざまな影響を心配する声があります。町民のみなさまに最も身近な基礎自治体である八丈町は、それらの課題に取り組んでいかなければなりません。

八丈町は、2021年度から10年間の基本構想として、町の限りない発展と、明るく平和なまちづくりのために、世代や性別、思想などの多様性を尊重し、「ともに支えあうあたたかい町」を将来像として定めました。

まちは、町民と行政の協働により創り上げるものです。町民のみなさま、地域、企業や団体と行政が協働することで、町制施行80周年、90周年、さらに100周年を迎えた時も「町民一人ひとりが幸せを感じるまち」として輝きに満ちて、発展していけるよう町政を推進してまいります。

町制施行70周年を記念して発行したこの町勢要覧は、昭和から平成、令和へと続く八丈島の70年間の歩みなどを広く知っていただくために制作したものです。町民のみなさまや、八丈島を知らない方々へも八丈島を理解し関心を持ってもらうための一助となれば幸いです。



# 町民憲章

青い海原に囲まれた緑の島山の美しい自然と、古い歴史に恵まれたわたしたちは、この八丈島に住むことを誇りとし、八丈町の限りない発展と、明るく平和な町づくりをすすめることを願い、町民ひとりひとりの道しるべとして、この町民憲章を定めます。

わたしたち八丈町民は

- 郷土を愛し、環境をととのえ、みどり豊かな町をつくりましょう。
- お年寄りを大切にし、子供たちが健やかに育つ、あたたかい町をつくりましょう。
- 伝統をとるとび、教養を深め、文化の香り高い町をつくりましょう。
- はたらくことを喜び、産業の発展につくし、いきいきとした町をつくりましょう。
- きまりを守り、互いに助け合い、人情味あふれる明るい町をつくりましょう。

1984年10月1日施行

## 八丈町歌（八丈町の歌）

作詞 保岡直樹  
作曲 高橋一美

碧い宇宙に 抱かれて  
恵み豊かな 海と島  
燃える太陽 育むいのち  
心やすらぐ わが郷土  
希望と笑顔に 満ちあふれ  
しあわせ彩る 八丈町よ  
緑さわやか フェニックス  
花は優美な ストレチア  
紡ぐ歴史に 綾なす文化  
まねく旅人 湯の香り  
大空みあげて アカコッコ  
平和を奏でる 八丈町よ  
熱い鼓動を はずませて  
夢が燦めく 風と波  
ごらん元気に 羽ばたく魚  
虹を描いて 春を呼ぶ  
力を合わせて たくましく  
未来へ躍進 八丈町よ

### 町歌の誕生

町民のみなさんに末永く愛され、八丈町を元気づけるという願いを込めて、「手作りの町歌」をテーマに作られました。歌詞とメロディーは公募によって寄せられた作品から選考を行い、2014年11月1日の八丈町町制施行60周年記念式典において、大賀郷中学校音楽部とシンガーソングライターのEPOさんが最終候補曲2曲を披露し、会場内の人気投票で八丈町の歌が誕生しました。

# 八丈町 70 年のあゆみ

1955 (昭和 30) 年～2024 (令和 6) 年



町役場庁舎が完成したのは 1958 年 10 月。鉄筋コンクリート 2 階建て、延べ床面積は 237 坪。建設費は 1,310 万円。外観の全体は白、ふちはブルーで化粧された。庁舎右の白い建物は 1960 年に完成した大賀郷岡里簡易水道施設。周辺には水田が広がり、民家らしき建物は見えない  
(南海タイムス社所蔵)

## 昭和30年(1955年)

- 4月 初代町長に小宮山俊一郎氏就任  
八丈村・大賀郷村・宇津木村が合併、町制が  
施行(12,547人)  
町制施行祝賀行事挙行
- 8月 八丈島観光協会発足
- 9月 末吉中学校校舎完成
- 10月 中之郷小学校校舎完成
- 11月 合併功労者表彰式
- 12月 小島・鳥打地区に電話開通

## 昭和31年(1956年)

- 3月 末吉診療所完成
- 4月 檜立小学校校舎完成
- 5月 青ヶ島に電話開通
- 8月 中之郷並木会、檜立並木会街路にビロー植樹

## 昭和32年(1957年)

- 3月 東海汽船株式会社八丈島支店開設
- 4月 檜立登立ヶ原都道開通
- 5月 末吉保育園完成
- 6月 都道舗装工事はじまる  
永郷小学校校舎完成
- 7月 八丈島測候所高層気象観測所完成
- 9月 東京電力中道火力発電所完成
- 10月 町営バス運行開始  
八丈町の紋章制定

## 昭和33年(1958年)

- 1月 中央保健所八丈出張所庁舎完成
- 3月 八丈島電報電話局舎完成  
中之郷簡易水道工事完成
- 4月 小島定期航路町営となる  
世紀の金環食観測
- 8月 七島青年大会(中之郷青年館)

- 9月 永郷地区に電話開通
- 10月 町役場庁舎完成
- 12月 電気、昼夜送電

## 昭和34年(1959年)

- 3月 ねずみ退治にイタチ導入
- 6月 八丈島園芸農協事務所完成
- 7月 法務局中之郷出張所廃止
- 9月 小島に飲料水輸送
- 10月 町営碎石事業、前崎にて操業開始
- 12月 坂下全小中学校で牛乳給食開始

## 昭和35年(1960年)

- 3月 大賀郷岡里簡易水道工事完成
- 5月 登龍都道開通記念式典挙行
- 8月 檜立乙千代ヶ浜プール完成
- 9月 小島宇津木地区に電話開通
- 12月 末吉水海山地区に電話開通

## 昭和36年(1961年)

- 3月 西見、永郷地区に送電開始
- 4月 大越鼻灯台、初点灯
- 7月 町立図書館開館
- 11月 第1回町民体育大会(中道グラウンド)
- 12月 町議会、ロラン設置反対を決議

## 昭和37年(1962年)

- 2月 三原中学校増築工事完成
- 3月 三原診療所完成
- 5月 東京都営八丈島空港供用開始
- 7月 七島青年大会(大賀郷公会堂)
- 8月 都立八丈植物公園開園
- 10月 新聞空輸開始  
第二代町長に池田要太氏就任
- 12月 永郷地区定期バス運行開始



### 八丈島電報電話局舎完成

1958年3月、日本電信電話公社の八丈島電報電話局が設置され、電話交換業務が郵便局から移管された。この年の電話加入世帯数は427世帯。普及率は15.24%。

## 昭和 38 年 (1963 年)

- 1 月 広報「はちじょう」第 1 号発行
- 2 月 真砂保育園完成  
小島航路定期連絡船「昭和丸」進水
- 3 月 三根小学校改築校舎完成
- 8 月 藤田航空機、八丈富士で遭難
- 12 月 国定公園記念切手に八丈富士採用

## 昭和 39 年 (1964 年)

- 1 月 底土接岸港起工  
末吉、中之郷地区を大竜巻が襲う  
檜立、海に近い丘陵で石器・土器の破片発見  
「湯浜遺跡」と命名
- 3 月 南海保育園完成  
裁判所庁舎完成
- 7 月 伊豆七島国定公園が富士箱根伊豆国立公園に編入
- 8 月 ハワイ・マウイ郡と姉妹都市提携
- 9 月 八丈島農業協同組合発足
- 10 月 町制施行 10 周年記念式典挙行
- 11 月 富士銀行八丈島出張所開設

## 昭和 40 年 (1965 年)

- 4 月 八戸・千鳥簡易水道第 1 期工事完成
- 6 月 鳥獣保護区設定
- 8 月 底土接岸港第 1 期工事完成
- 11 月 三原中学校プール完成
- 12 月 NHK 三原山サテライト局完成  
(12 月 26 日、NHK テレビ初放映)

## 昭和 41 年 (1966 年)

- 5 月 町立八丈病院開院  
小島住民移住請願を町議会で採択
- 7 月 第 19 回島嶼青年大会 (大賀郷小学校)
- 8 月 末吉水海山地区に初送電

- 9 月 学校給食センター完成 (学校完全給食実施)
- 12 月 接岸港完成祝賀式典挙行

## 昭和 42 年 (1967 年)

- 2 月 ミカンネモグリ線虫緊急防除区域に指定  
(植物 200 種移動禁止)
- 3 月 第 1 回フリージアまつり
- 4 月 じん芥焼却炉完成 (じん芥収集開始)
- 5 月 八丈老人ホーム開設  
降ひょう被害発生 (損害額 1,500 万円)
- 10 月 町営バス 10 周年記念式典挙行

## 昭和 43 年 (1968 年)



大坂隧道開通式

- 7 月 横間都道改修工事完成 (開通祝賀式挙行)
- 9 月 空港延長工事完成 (延長 1,500 米)  
地籍調査事業に着手
- 11 月 富士中学校増築工事完成
- 12 月 明治百年記念式典挙行 (3 社 167 名が表彰)

## 昭和 44 年 (1969 年)

- 1 月 第三代町長に峯元清次氏就任
- 3 月 八丈小島引揚げ完了 (23 世帯)
- 5 月 全日空 YS-11 型機就航  
三根、大賀郷地区電話ダイヤル化  
町営火葬場完成
- 9 月 末吉小学校改築工事完成
- 11 月 八丈町商工会発足
- 12 月 名誉町民に菊池民一氏選定

### 底土接岸港第 1 期工事完成

島民悲願の接岸港「神湊商港底土岸壁」が 1965 年 8 月に完成。24 日に東海汽船黒潮丸 (496ト) が試験接岸に成功した。26 日には椿丸 (970ト) が 170 人の乗客を乗せて着岸した。岸壁の長さは 54 米、幅 8~15 米、岸壁の水深は 5 米。2 千ト級の貨客船まで接岸が可能となった。「島の表玄関が完成した」と島民は喜びにわいた。



## 昭和 45 年 (1970 年)

- 5 月 全日空名古屋便就航
- 6 月 農協牛乳工場操業開始
- 7 月 第 22 回島嶼青年大会
- 8 月 民放テレビ放送開始  
第 1 回團伊玖磨夏の夜のコンサート
- 9 月 大賀郷中学校プール完成

## 昭和 46 年 (1971 年)

- 3 月 檜立、中之郷小学校並びに大賀郷中学校にへき地集会室完成
- 5 月 三根小学校体育館完成
- 6 月 八丈支庁庁舎、勤労福祉会館完成  
大型客船「ふりいじあ丸」就航
- 7 月 坂上地区電話ダイヤル化
- 9 月 中之郷小学校プール完成  
八丈島警察署庁舎完成
- 10 月 第 11 回町民体育大会 (各地区開催に)

## 昭和 47 年 (1972 年)

- 2 月 坂上老人福祉館完成  
震度 5 の強震襲う (水道管が寸断され自衛隊の応援を求め、給水・災害復旧活動を実施)
- 3 月 三原中学校体育館完成  
末吉小学校へき地集会室完成  
三根公民館完成
- 5 月 ヌードスタジオ建設反対のため、「八丈島の明るい環境を守る会」結成
- 7 月 ヌードスタジオ反対、暴力団追放三根住民総決起大会

## 昭和 48 年 (1973 年)

- 2 月 三根老人福祉館設置 (ヌードスタジオ建物土地買収)
- 3 月 むつみ第 2 保育園完成 (3 歳未満児保育開始)

- 5 月 八丈島漁業協同組合発足
- 7 月 三根小学校プール完成
- 9 月 名誉町民に菊池義郎氏、團伊玖磨氏選定
- 11 月 東京都消防操法大会で八丈町消防団が優勝  
ジェット機騒音調査実施

## 昭和 49 年 (1974 年)

- 3 月 中之郷公民館完成  
大賀郷小学校へき地集会室完成  
消防詰所 (救急) 完成
- 4 月 救急消防業務開始
- 7 月 ハワイ・マウイ島を親善訪問
- 8 月 浜松町に宿泊施設「島嶼会館」完成
- 9 月 黄八丈織物協同組合発足  
名誉町民の菊池民一氏逝去
- 11 月 町制施行 20 周年記念式典挙行  
八丈町のシンボル決定
  - ・木 フェニックス・ロベレニー
  - ・花 極楽鳥花 (ストレチア)
  - ・鳥 アカコッコ
  - ・魚 ハマトビウオ

## 昭和 50 年 (1975 年)

- 3 月 永郷小学校廃校
- 4 月 島しょ保健所発足
- 5 月 八丈島歴史民俗資料館開館  
八丈老人ホーム新築移転
- 10 月 台風 13 号、八丈島を直撃  
(瞬間最大風速 67.8m/s、被害総額 55 億円)  
美濃部亮吉都知事、台風災害視察  
第 15 回町民体育大会中止



### 全日空名古屋便就航

1970 年 5 月 1 日、全日空の名古屋便が初就航した。この年 7 月の全日空ダイヤは八丈 - 羽田が 9 便 (YS11=4 便、フレンドシップ=5 便)、八丈 - 名古屋 1 便 (フレンドシップ) で、1 日 10 便が運航した。

## 昭和51年(1976年)

- 1月 末吉に平川親義顕彰之碑建立
- 3月 檜立公民館完成
- 5月 八丈島空港工事、運輸大臣より許可
- 6月 八丈島警察署創立50周年記念式典
- 10月 八丈島測候所開設以来の豪雨  
(10分間で29.5mmの新記録)  
中之郷・菊池くのさん、八丈島初の満百歳を記録
- 12月 町立坂上歯科診療所、中之郷に開設  
大賀郷小学校新校舎完成

## 昭和52年(1977年)

- 1月 第四代町長に奥山日出男氏就任
- 2月 皇太子殿下ご夫妻、台風13号災害見舞いにご来島  
珍魚ガーデンイールの群棲を横間海岸沖に発見「真珠アナゴ」と命名
- 11月 檜立、湯浜遺跡近くで大量の石器、土器出土  
「倉輪遺跡」と命名
- 12月 都教育委員会、末吉地区文化財の調査開始



島内を視察される  
皇太子殿下ご夫妻

## 昭和53年(1978年)

- 3月 建材事業廃止
- 4月 八丈島物流センター完成  
大型客船「すとれちあ丸」就航

### 大型客船「すとれちあ丸」就航

東海汽船が総工費26億5千万円をかけて建造した大型客船すとれちあ丸(3,700ト)が1978年4月に東京～三宅島～八丈島航路に就航した。「より安全な、より快適な船旅」をコンセプトにした豪華客船で走るホテルとの異名も。当時の東京～八丈島の片道料金は2等2,500円、1等6,120円、特1等7,640円、特等9,260円。



- 5月 八丈島農協パッションジュース工場完成
- 7月 第31回島嶼青年大会(大賀郷小学校)
- 12月 洞輪沢温泉末吉自治会で運営開始

## 昭和54年(1979年)

- 1月 末吉「洞輪沢温泉」オープン
- 2月 ラジオNHK・FM放送「日本の民謡」でシヨメ節、春山節が放送
- 3月 末吉公民館完成
- 4月 茨城県弥平太集落(筑波)移民の子孫一行、161年ぶりに八丈島を訪問
- 6月 三根に大川浄水場完成

## 昭和55年(1980年)

- 1月 八丈富士麓(ふもと)に溶岩洞窟発見  
長さ1,402.8m「八丈風穴」と命名
- 2月 八重根メットウ井戸、都文化財に指定
- 4月 八丈島で初めて宝くじ発売  
富士中学校移転、新築校舎完成
- 7月 都民交響楽団による巡回音楽教室
- 8月 第1回八丈島民大学講座

## 昭和56年(1981年)

- 2月 八丈島測候所開設以来の低温記録  
(氷点下2度、花卉園芸などに甚大な被害)
- 3月 財団法人余暇開発センターがシンポジウム  
(前東洋大学学長・磯村英一氏らが参加)
- 5月 鈴木俊一都知事視察のため来島「タウンミーティング」  
「伊豆諸島東京移管百年史」刊行
- 6月 おがさわら丸、八丈寄港実現 小笠原村を親善訪問
- 10月 都道横間道路改修工事始まる  
東京都消防練法大会で八丈町消防団が優勝

## 昭和 57 年 (1982 年)

- 1 月 南大東島と姉妹島締結
- 3 月 第 1 回フリージアパブリックロードレース
- 4 月 八丈島空港拡張工事完成  
全日空 B737 型機 (ジェット機) 就航  
消防本部飛行場横へ移転  
姉妹島南大東島を親善訪問
- 5 月 「離島振興法」10 ヶ年の延長  
「すとれちあ丸」週 2 便の減便へ  
第 35 回島嶼青年大会 (勤労福祉会館)
- 11 月 天皇皇后両陛下ご来島

## 昭和 58 年 (1983 年)

- 4 月 歴史民俗資料館業務を民間へ委託
- 6 月 北京市より親善訪問団来島
- 7 月 ハワイ・マウイ島を親善訪問
- 8 月 中之郷地区でロベ祭り (ロベ感謝の碑建立)
- 9 月 町議会、米軍の夜間訓練基地に伊豆諸島利用を反対決議
- 10 月 三宅島で噴火  
第 23 回町民体育大会中止

## 昭和 59 年 (1984 年)

- 3 月 町議会議員定数 4 削減を決定 (議員定数は 16 名となる)
- 5 月 環境庁公園区域変更を告示  
伊豆諸島東京移管百年記念「黒潮に生きる東京・伊豆諸島」刊行
- 6 月 都民交響楽団による巡回音楽教室
- 9 月 八丈町防災訓練、末吉・洞輪沢で
- 10 月 町制施行 30 周年記念式典挙行 町民憲章制定  
八丈町総合開発審議会、基本計画を奥山町長へ答申

- 10 月 第 24 回町民統一体育大会 (14 年ぶりに復活、富士中学校で)  
消防総合防災訓練、大賀郷地区商店街で

## 昭和 60 年 (1985 年)

- 3 月 底土に船客待合所完成
- 5 月 大賀郷公民館完成  
すとれちあ丸が八重根港に初接岸
- 7 月 倉輪遺跡から、伊豆諸島で初めて縄文時代の人骨が発見される
- 9 月 宇喜多秀家没後 330 年墓前祭
- 11 月 第 1 回マリンフェスティバル  
南大東島より親善訪問団来島
- 12 月 全日空名古屋便休航

## 昭和 61 年 (1986 年)

- 4 月 ハレー彗星観察のための来島者増加  
ロベ切葉共販推進委員会発足  
特別養護老人ホーム完成  
都市計画道路第 1 期区間 (空港一倉の坂交差点) 開通
- 7 月 都立八丈高校格技棟完成
- 10 月 八重根港供用開始  
第 39 回島しょ青年大会及び第 7 回島しょ P 連研修会の八丈島合同大会

## 昭和 62 年 (1987 年)

- 5 月 5 月 1 日の住民基本台帳ついに 1 万人を割る  
三根小学校新校舎完成  
近藤富蔵没後 100 周年記念事業
- 7 月 八重根漁港工事現場から弥生・古墳時代～奈良・平安期の土器などが多数出土
- 11 月 ハワイ・マウイ郡タバレス首長が来島



### 全日空 B737 型機 (ジェット機) 就航

1982 年 4 月 1 日午前 8 時 40 分、羽田発の全日空 821 便 B737 型ジェット機が八丈島空港に着陸した。同機には記念式典に出席する鈴木俊一都知事をはじめ、名誉町民の團伊玖磨氏、俳優の森繁久弥氏の姿も。1976 年から始まった八丈島空港の拡張工事で滑走路は 1800 年に延伸され、新しい空港ターミナルビルも建設された。

## 昭和 63 年 (1988 年)

- 4 月 横間道路第 1 期改修区間開通
- 5 月 全日空 (ANA) よりエアーニッポン (ANK) へ YS-11 型機路線移管  
ちょんこめ訓練所開設
- 6 月 八丈町防災行政無線の運用開始  
小笠原村と友好都市締結
- 7 月 FM 東京開局
- 9 月 牛角力が姿を消す



横間道路開通記念式典

## 平成元年 (1989 年)

- 2 月 NTT 通話料金引下げ
- 4 月 八丈町富士野球場完成  
全日空よりエアーニッポンへ B737 型機路線移管  
八丈島農業振興青年研究会が内閣総理大臣賞を受賞
- 7 月 鴨川ホテル水路完成
- 8 月 ヘリコプター実験運航
- 9 月 ふるさと創生事業「夜なべ懇談会」  
NEDO が地熱調査開始
- 10 月 東京都島しょ振興公社設立

## 平成 2 年 (1990 年)

- 1 月 ハワイ・マウイ島を親善訪問
- 2 月 名誉町民の元衆院議員・菊池義郎氏逝去  
八丈町総合開発審議会「八丈町基本構想」答申
- 4 月 八丈町 21 世紀開発基本構想報告
- 7 月 三原中学校新校舎完成
- 10 月 富士ゲートボール場完成

## 平成 3 年 (1991 年)

- 1 月 記録的な冷水塊が八丈島周辺を覆う
- 3 月 第 1 回八丈島産業祭
- 4 月 第 4 回伊豆諸島・小笠原駅伝競走大会 (八丈島大会)  
ロベの海外輸出始まる
- 5 月 国土庁長官杯第 6 回全国離島交流ゲートボール親善大会
- 6 月 第 34 回関東・東海地区漁港大会 (八丈島で)
- 8 月 八丈町国際交流員採用
- 10 月 「離島の高齢者福祉を考えるシンポジウム」

## 平成 4 年 (1992 年)

- 1 月 青ヶ島航路「還住丸」就航  
1 月 1 日の住民基本台帳で高齢人口比率が 20% を突破
- 3 月 中国人集団密入国事件発生
- 4 月 東京スプリングゲートボール親善大会
- 5 月 オランダ・フロリアード'92 において八丈島出展のロベが第 1 位を受賞
- 10 月 町役場が完全週休 2 日制実施  
マウイ・カウンティフェア初参加  
八丈ビジターセンター完成  
九州地熱 (温泉) 利用施設視察
- 12 月 ヘルシーフェスタ

### 牛角力が姿を消す

1988 年 9 月、八丈島の観光に大きな役割を果たしてきた中之郷・自由ヶ丘遊園の牛角力が幕を閉じた。かねてから島民の娯楽として親しまれてきた闘牛は、八丈温泉ホテルがオープンしたのをきっかけに観光客向けのショーに変わっていった。1982 年のジェット化を機に土俵や観客席を整備したが、期待に反して入場者は増えず、綱引きの後継者難もあり、廃止に。



## 平成5年(1993年)

- 3月 檜立・中之郷に温泉掘削
- 4月 八丈町給食センター完成
- 5月 東京都八丈農林合同庁舎完成  
カツオ漁獲高史上最高を記録(1,339トン)
- 6月 第1回マウイ郡学生招待事業  
東京電力(株)による地熱開発説明会
- 7月 伊豆諸島ヘリコプター就航記念事業  
第1回八丈島学生海外体験学習
- 8月 末吉小学校新校舎完成  
東京愛らんどシャトル就航
- 9月 八丈町総合開発審議会「八丈町の地熱(温泉)の有効利用について」答申  
第1回八丈島ゲートボール親善大会
- 10月 マウイ・カウンティフェア参加



八丈島空港を基地に運航された東京愛らんどシャトル。使用機材は東邦航空のアエロスペシャル機(乗客9人乗り)

## 平成6年(1994年)

- 3月 中之郷に温泉掘削  
八丈富士に「ふれあいの湯」オープン
- 4月 横間道路開通
- 5月 第2回八丈島ゲートボール親善大会  
町制施行40周年記念町民音楽祭  
ゴミ堆肥化容器無償貸与開始
- 7月 出産祝金支給条例施行
- 8月 第2回マウイ郡学生招待事業  
町制施行40周年記念流人まつり  
第2回八丈島学生海外体験学習

- 10月 マウイ・カウンティフェア参加  
町議会史上初の女性議員誕生  
町制施行40周年記念式典挙行  
檜立向里温泉「ふれあいの湯」オープン  
町制施行40周年記念福祉まつり・健康まつり
- 12月 テレビドラマ「海鳴りやまず」八丈島ロケ敢行

## 平成7年(1995年)

- 4月 中之郷温泉「やすらぎの湯」オープン
- 5月 第8回伊豆諸島・小笠原駅伝競走大会(八丈島大会)  
全国離島振興協議会大会(八丈島で)
- 7月 第3回八丈島学生海外体験学習
- 8月 第3回マウイ郡学生招待事業
- 11月 青島幸男都知事来島、「知事と都政を語る集い」  
「ふれあいの湯」入場者10万人突破

## 平成8年(1996年)

- 4月 「ふれあいの湯 だんらん」「ブルーポート・スパザ・BOON」オープン
- 5月 菅直人厚生大臣視察のため来島  
ハワイ・マウイ郡リンダ・クロケット・リングル首長が来島
- 7月 ISLAND DREAM さだまさしコンサート in 八丈島  
きんさん・ぎんさんが104歳誕生日祝賀会で来島  
第4回八丈島学生海外体験学習
- 9月 椎名誠の映画鑑賞会
- 10月 自治調査会多摩島嶼合同会議・東京都市町村長八丈島視察  
町立八丈病院建設工事起工
- 11月 大賀郷中学校校舎完成



### 檜立向里温泉「ふれあいの湯」オープン

町制施行40周年記念式典が開かれた1994年10月、檜立向里温泉「ふれあいの湯」がオープンした。NEDOによる地熱開発調査によって有望な熱源が確認されて以降、町は温泉開発に着手。檜立、中之郷、末吉に次々と温泉施設を整備していく。

## 平成9年(1997年)

- 2月 第五代町長に笹本直衛氏就任
- 3月 携帯電話の使用開始
- 4月 インターネット機器役場庁舎へ設置
- 6月 掃海艦「はちじょう」八丈島入港
- 8月 第5回八丈島学生海外体験学習
- 9月 ゴミ収集方式が3分別から5分別へ
- 10月 八丈町クリーンセンター完成
- 11月 宝くじスポーツフェア「あなたのまちに名球会がやってくる」
- 12月 飲料容器のリサイクル初出荷

## 平成10年(1998年)

- 4月 新町立八丈病院診療開始
- 7月 第51回東京都島嶼青年大会(八丈島開催)
- 8月 末吉温泉「みはらしの湯」オープン
- 9月 飲料容器のデポジット制度試行開始
- 11月 東京都・八丈町合同総合防災訓練  
末吉中学校50周年記念式典

## 平成11年(1999年)

- 2月 八農振30周年記念式典・祝賀会
- 3月 東京電力八丈島地熱発電所が稼働  
TEPCO八丈島地熱館オープン  
末吉・大の川橋開通  
地域振興券交付
- 4月 金融機関の指定により税金等の払込、口座振替を開始
- 5月 都市計画道路第2期区間(倉の坂交差点一底土交通広場)開通
- 8月 第22回東京都島嶼町村職員大会
- 10月 八丈町職員給与の口座振替を開始  
東京都消防操法大会で八丈町消防団が優勝

## 平成12年(2000年)

- 1月 八丈町保健福祉センター完成
- 2月 町役場のパソコンのインターネット利用開始  
ごみ処理問題協議会
- 4月 石原慎太郎都知事来島
- 5月 第13回伊豆諸島・小笠原駅伝競走大会(八丈島大会)  
三宅島雄山の火山活動始まる  
新島・神津島近海の地震頻発する
- 9月 三宅村住民に島外避難指示  
三宅村避難住民受け入れ開始

## 平成13年(2001年)

- 2月 第六代町長に浅沼道徳氏が就任
- 4月 末吉・芦川橋開通
- 5月 名誉町民の團伊玖磨氏逝去  
社会福祉法人養和会 第二八丈老人ホーム  
増床落成
- 7月 町立図書館開設40周年記念講演会・  
椎名誠の「島のはなし・本のはなし」  
第6回八丈島学生海外体験学習
- 8月 八丈島・夏の夜のコンサート〜團伊玖磨先生を偲んで〜
- 10月 自治調査会15周年記念シンポジウム

## 平成14年(2002年)

- 2月 末吉中学校閉校記念式典
- 6月 島嶼青年大会
- 8月 八丈島サマーコンサート 初開催  
住民基本台帳ネットワーク開始
- 9月 コミュニティーバス「為朝号」運行開始  
八丈島共同福祉作業所開所
- 10月 名誉都民に山下八百子さん決まる

### 八丈島地熱発電所が稼働

東京電力八丈島地熱発電所が1999年3月25日から営業運転を開始した。定格出力は3,300kw。東京電力にとっては初めての地熱発電で、離島における本格的な地熱発電所も全国初。施設が老朽化するなどで、同発電所が廃止されたのは2019年3月。稼働した20年間の累計発電量は2.63億kwh。八丈島の年間発電電力量の約5.4年分に相当するという。新たな地熱発電所はオリックス株式会社が引き継いでいく予定。



## 平成15年(2003年)

- 3月 フィッシングチャレンジカップ  
パラオ共和国大統領が視察のため来島
- 6月 海上保安庁巡視船「するが」体験航海
- 8月 ペットボトル分別収集についての住民懇談会  
大型客船「飛鳥」八丈島寄港  
大型客船「ぱしふいつくびいなす」八丈島寄港  
島しょ・多摩少年少女サッカー交流会  
デポジット制度試行期間終了
- 11月 管理型最終処分場説明会  
管理型最終処分場先進地視察

## 平成16年(2004年)

- 3月 全国離島初のブロードバンド環境が整備される
- 4月 八丈島地熱利用農産物直売所「エコ・あぐり  
まーと」オープン  
コミュニティーバス「はなばな」運行開始
- 5月 町立図書館、コミュニティーセンターへ移る
- 6月 町営温泉入湯者170万人突破
- 9月 八丈島空港滑走路2,000m供用開始
- 10月 町制施行50周年記念式典挙行

## 平成17年(2005年)

- 2月 大賀郷中学校50周年記念式典
- 4月 「八丈島総合ポータルサイト」開設
- 7月 愛らんどリーグ2005 in 八丈島
- 10月 八丈町子ども家庭支援センター業務開始  
全日空大島経由便就航  
飛行機搭乗者+1万人プロジェクトスタート

## 平成18年(2006年)

- 3月 第1回八丈島芸能文化交流会開催  
「足湯きらめき」オープン  
飛行機搭乗者+1万人プロジェクト達成
- 5月 八丈都市計画道路全線開通

- 7月 愛らんどリーグ2006 in 八丈島
- 8月 八丈高校吹奏楽部が東京都高等学校吹奏楽  
コンクールで金賞を受賞

## 平成19年(2007年)

- 2月 中之郷小学校閉校式典
- 3月 檜立小学校閉校式典
- 4月 八丈町南原スポーツ公園供用開始
- 5月 三原小学校開校記念式典
- 10月 ハイビスカスフェスティバル in 八丈2007

## 平成20年(2008年)

- 4月 八丈町農業担い手育成研修センター開所
- 8月 第1回八丈島RAINBOW CUP 2008
- 10月 八丈町新火葬場供用開始  
東京都・八丈町・青ヶ島村合同総合防災訓  
練

## 平成21年(2009年)

- 2月 八丈語(八丈方言)がユネスコにより消滅危  
機言語に分類
- 8月 第1回八丈島ジュニアベースボールクラシ  
ック
- 10月 欠航時対策として「おじゃれクーポン」発行  
全日空大島経由便廃止  
八丈島測候所無人化  
八丈島沖で漁船「第1幸福丸」が転覆 3人  
が奇跡の生還

## 平成22年(2010年)

- 3月 八丈町定期観光バス廃止
- 5月 三根小学校の校庭が芝生化される
- 8月 夏の海水温が過去最高の29.8度を記録する
- 9月 八丈町戸籍電算化開始
- 12月 第1回24時間チャレンジ八丈太鼓



### 八丈町新火葬場供用開始

総事業費4億4千万円をかけた八丈町火葬場が2008年10月に供用を開始した。2基の火葬炉をはじめ、告別ホールや待合ホール、霊安室などを備えている。年々火葬だけではなく通夜、葬儀を同施設で行う人が多くなった。

## 平成23年(2011年)

- 3月 東日本大震災発生(八重根で津波1.4mを観測)  
坂上地域の保育園(真砂・南海・末吉)が閉園
- 4月 中之郷に「あおぞら保育園」が開園
- 7月 町役場新庁舎建設地鎮祭
- 8月 浅沼道徳町長逝去
- 9月 第七代町長に山下奉也氏就任
- 10月 第50回町民体育大会(各地区で開催)

## 平成24年(2012年)

- 4月 南原スポーツ公園野球場供用開始  
八丈町汚泥再生処理センター供用開始  
東京都八丈支庁新庁舎での業務を開始
- 8月 全国離島交流中学生野球大会(八丈島で開催)

## 平成25年(2013年)

- 2月 末吉小学校閉校
- 5月 町役場新庁舎での業務開始  
町役場新庁舎落成式挙行
- 8月 多目的ホール「おじゃれ」一般供用開始  
第44回團伊玖磨記念八丈島サマーコンサート(多目的ホール「おじゃれ」こけら落とし公演)  
東京愛らんどシャトル就航20周年記念式典  
八丈島地熱館リニューアルオープン
- 9月 スポーツ祭東京「ふれあいフットサル」
- 10月 スポーツ祭東京「高等学校軟式野球」  
台風26号伊豆諸島を襲う(大島で土石流による甚大な被害)
- 12月 青ヶ島航路「還住丸」引退

## 平成26年(2014年)

- 1月 青ヶ島航路「あおがしま丸」就航
- 5月 大型客船「かめりあ丸」最終接岸
- 6月 大型客船「橘丸」就航

- 7月 官民協働事業「はちじょう暮らしの便利帳」発刊  
神湊港(底土)船客待合所供用開始  
マウイ郡姉妹都市提携50周年記念交流でマウイ島から太鼓団体来島
- 10月 町議会史上初の女性副議長誕生
- 11月 町制施行60周年記念式典挙行
- 12月 八丈町歌制定

## 平成27年(2015年)

- 1月 パブリックロードレースにマウイ郡招待選手2名来島
- 2月 明治大学・早稲田大学八丈島サッカー合同合宿
- 4月 八丈プラザ公園開園
- 7月 八丈町プレミアム商品券発行(～11月)



明治と早稲田のサッカー部の合同合宿。長友ロートン選手も参加。

## 平成28年(2016年)

- 1月 パブリックロードレースにマウイ郡招待選手1名来島
- 3月 八丈町おしごと掲示板開始  
「八丈島スポーツ親善大使」を木場克己氏に委嘱  
八丈町基本計画(2016～2020年度)策定  
八丈町人口ビジョン 八丈町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定
- 10月 防災の日スペシャル ～八丈町×阿南市×女川町～  
八丈島熱中小学校開校  
東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー 歓迎セレモニー

マウイ郡姉妹都市提携50周年記念交流  
2014年7月、マウイ郡姉妹都市提携50周年記念交流でマウイ島から前進太鼓のメンバーら52人が来島した。



## 平成 29 年 (2017 年)

- 3 月 オリックス株式会社と八丈町地熱発電利用事業協定を締結
- 6 月 八丈町に初の地域おこし協力隊着任
- 7 月 離島住民航空割引カード発行開始  
「自然とマナー。八丈島大使」を哀川翔氏に委嘱
- 8 月 愛らんどリーグ 2017 in 八丈島
- 10 月 ハワイ大学 カピオラニ コミュニティ カレッジ・東京都立八丈高等学校間の高大連携協定調印式
- 11 月 東京都・八丈町・青ヶ島村合同総合防災訓練



八丈高校で行われた東京都・八丈町・青ヶ島村合同総合防災訓練

## 平成 30 年 (2018 年)

- 1 月 ふるさと村で火災発生
- 4 月 三根公民館竣工式
- 6 月 歴史民俗資料館 八丈支庁展示ホールに再オープン
- 8 月 リトアニアより国際交流員 1 名着任  
東京アイランドモーターショー

- 11 月 リトアニア・ドヴァリヨナス音楽学校  
FRIENDSHIP CONCERT
- 12 月 伊豆諸島ウォーク in 八丈島



国際交流員・マンタスさんの母国リトアニアの女子合唱団「VIVA VOCE (ヴィヴァ・ヴォーチェ)」によるコンサート

## 平成 31 年 (2019 年)

- 3 月 東京電力株式会社 八丈島地熱発電所廃止  
町議会史上初の女性議長誕生

## 令和元年 (2019 年 5 月 1 日より)

- 8 月 愛らんどリーグ 2019 in 八丈島  
第 50 回團伊玖磨記念 八丈島サマーコンサート
- 12 月 末吉地質展示室オープン

## 令和 2 年 (2020 年)

- 4 月 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令 (4/7~5/25)
- 7 月 第 65 代ミス八丈島発表会 (オンライン)
- 9 月 八丈町表彰式を対象者の自宅訪問により実施
- 10 月 オンラインユニバーサルキャンプ



2020 年 5 月、新型コロナウイルス感染症の緊急経済措置による定額給付金 10 万円の受け付け風景 (多目的ホール「おじゃれ」)

### 新型コロナウイルス感染症がまん延

2020 年になると新型コロナウイルスのまん延で社会生活が大きく変わった。感染防止対策では密閉・密集・密接の 3 つの密を避けるためのソーシャルディスタンス(社会的対人距離)を保つことが大切とされた。小中学校は一時期休校となり、例年行われているイベントや官民の行事も多くが中止になった。島内の経済活動は大幅に縮小された。

## 令和3年(2021年)

- 1月 八丈島パブリックロードレース オンライン2021  
新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令(1/7~3/21)
- 4月 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令(4/23~9/30)
- 6月 八丈町基本構想(2021~2030年度)・基本計画(2021~2025年度)策定
- 7月 東京2020オリンピック聖火リレー
- 9月 八丈町おしごと掲示板 掲載申請オンライン化
- 10月 リトアニアより国際交流員1名着任

## 令和4年(2022年)

- 3月 「温泉で気持ちよく。マナーでさらに気持ちよく。八丈島」大使を原田龍二氏に委嘱  
八丈町Twitterアカウント「ロベレニくん」開設  
定住促進のための情報を集約した「八丈物語」を八丈町公式サイトで公開
- 7月 八丈町、みずほ銀行、みずほリサーチ&テクノロジーズ「サステナビリティ及びDX推進に関する包括連携協定」締結
- 9月 「東京都八丈町と七島信用組合との連携に関する協定」締結

## 令和5年(2023年)

- 1月 東京都離島住民航空割引カード 手続きオンライン化  
二十歳のつどい(旧成人祝賀式)
- 5月 新型コロナウイルス感染症 感染症法上の位置付けが5類感染症へ移行  
島じまん2023(5年ぶりに竹芝で)
- 6月 第39回小笠原親善訪問(4年ぶり)
- 8月 八丈島を舞台とした映画「名探偵コナン 黒鉄の魚影」上映会

- 11月 ハワイ州・マウイ郡における大規模火災に伴う災害義援金を送金  
町立八丈病院 明治薬科大学と包括連携協定締結
- 12月 温泉で顔パス実証事業(2月まで)

## 令和6年(2024年)

- 2月 中之郷埋め立て処分場で火災発生
- 3月 新八丈町クリーンセンター完成
- 7月 「八丈島公式観光アプリ」リリース



第69代ミス八丈島の浅沼和海さん

- 10月 温泉事業30周年 入湯者数475万人突破
- 12月 ホールウォッチングカメラ運用開始



櫻立・ふれあいの湯で2人の大使とともに町営温泉入湯者475万人を祝う



### 2人の大使 等身大パネルに

八丈島公式観光アプリのリリースに合わせて、「自然とマナー。八丈島大使」の哀川翔氏と「温泉で気持ちよく。マナーでさらに気持ちよく。八丈島」大使の原田龍二氏の等身大パネルを作成。空港や船客待合所のロビー、各温泉などに配置して、八丈島観光のPRに一役買ってもらうことに。

# 新しくなった町の公共施設

## ● 三根公民館

### 空調完備、バリアフリーも



新しい三根公民館が完成し竣工式が行われたのは2018年4月でした。建設に向けた準備委員会を2014年度から立ち上げ、地域住民や利用者の意見を集約して設計に反映させるというこれまでにない手法を採用しました。建設費は概算で5億円です。

鉄筋コンクリート2階建て、建築面積は896平方メートル。集会室(271平方メートル)は暖かい柑子色の壁を採用、広々とした空間を確保し、中央は大きなカーテンで仕切ることができます。空調設備も完備された、みんなが利用しやすいバリアフリー設計です。

ゆったりとした廊下をはさんで、入り口近くに厨房があり、奥に21帖と18帖の和室2間、34平方メートルの会議室(図書室)を配置しました。玄関横のトイレは24時間利用することができ、公衆トイレとしての役割も

果たしています。三根出張所を含めて、主要な機能が1階に集中しており、2階は防災用品や地域の備品の倉庫として使用しています。



三根公民館の竣工式

## ● 八丈町消防本部／東京都八丈島空港消防所



東京都から八丈町が委託を受けている空港消防業務および自治体消防である八丈町消防本部の拠点となっている空港消防所（事務所・車庫、建築面積 417.29 平方メートル）は、2017 年 2 月に東京都が建て替えを行いました。そこに勤務する消防士は 2024 年 9 月現在で 28 名（うち女性消防士は 2 名）。3 交替制で業務を兼務しています。

現在配備している消防関係車両は 10 台。火災現場での消火活動・交通事故などの救助活動に対応するポンプ車（900ℓの水と薬液を積載）が 1 台。災害現場に人員・資機材の搬送や、消防本部との活動状況報告を行う指揮車が 2 台。病気やケガをした人の搬送を行う救急車両が 2 台。空港内の航空機火災に対応する化学消防車が 2 台。航空機火災における人員・資機材の搬送を行う指令車が 1 台。さらに、火災現場に水を搬送する散水車が 2 台あります。

災害現場においては、地域防災の要であり、地域に密

着した活動を幅広く続けている八丈町消防団と協力して、消火・救助活動などを行っています。2024 年 4 月現在の消防団員数は 223 人です。

八丈町消防本部は 2024 年 4 月に緊急消防援助隊に登録されました。今後は、他地域の災害発生時に職員を派遣することになります。



2022 年 3 月に配備された最新の化学消防車。水 10,500 ℓ、薬液 880 ℓ、粉末消火剤 300 キロを積載できる。放水量は毎分 5,200 ℓ



## ● 八丈町クリーンセンター

# ごみ適正処理の中核施設



八丈町クリーンセンター

◎工期 2021年1月～2024年3月

◎総事業費 約40億円

◎鉄骨造一部鉄筋コンクリート造

◎建築面積 1,682.70平方メートル

◎焼却施設処理能力

12トン/8h (6トン/8h×2炉)

◎機械化バッチ式ストーカ炉

◎マテリアルリサイクル推進施設

0.58トン/5h

町民が八丈島の豊かな環境と調和した暮らしを送るためには、地域で排出されるごみを適正に処理していく必要があります。それには大きなコストがかかり、また、排出者である住民の協力も必要です。自治体のごみ行政は、地域住民の生活と最も深く関わる分野です。八丈町では、これまでも住民参加のごみ処理問題協議会を設置してごみの減量化やリサイクルのルール、方向性を決めてきました。そうした島内ごみの適正処理を行うための中核施設が2024年4月に供用を開始した新しい八丈町クリーンセンターです。

旧クリーンセンターの竣工は1997年10月。稼働から20年以上が経過すると故障や修繕が必要な箇所も増えました。2015年からは大規模改修を重ねてきましたが、改修だけでは将来的にごみの適正処理を維持していくことは困難なことから、並行して後継の新クリーンセンター整備計画を策定いたしました。

新しいクリーンセンターは、ごみを適正かつ長期間安定的に処理する能力と機能および経済性を備え、ま

た、現行法令の性能指針を遵守し、公害防止にも十分配慮した施設となっています。

同施設でのごみ処理の流れは、収集されたごみがプラットホームに運び込まれ、ごみピットに投入・貯留されます。プラットホームの出入り口にはエアカーテンが設けられ、臭気漏れを防いでいます。ごみピットでは、クレーンによってかくはんしてごみ質を均一化してから、焼却炉へ送ります。炉内では可動式ストーカにより自動的にごみを送り、また燃焼空気量などを制御することで安定的に850度以上の高温で燃焼させ、ダイオキシン類の発生を抑制します。

燃焼処理で発生した排ガスは、薬剤を吹き込んだ後、ろ過式集じん器でダイオキシン・ばいじんなどを捕集し、クリーンなガスとして煙突から排出します。

マテリアルリサイクル推進施設では、缶類、発泡スチロール、白色トレイ、そして有害ごみなどを選別、圧縮処理して、それぞれ島外リサイクル施設などへ搬出します。

## ● 八丈町大川浄水場

# 耐震性高め、膜ろ過方式に



大川の表流水日量 2,030 立方メートルを八丈町三根、成沢山地点の取水せきから引き込み浄水する。日量 1,800 立方メートルを、根田原浄水場からの日量 770 立方メートルと合わせて、一日最大 2,570 立方メートルを、第 1 配水池、第 3 配水池、片瀬ヶ首配水池に送水し給水区域に配水している

坂下地域に配水される水道水の約半分をまかなう大川水系。2021 年に着工した「大川浄水場」の建て替え工事が 2024 年 2 月に完了し、稼働を開始しました。総工費は約 11 億円でした。

大川水系は、標高約 386 メートルにある水源の取水施設で集めた表流水を、約 1.6 キロメートルの導水管で大川浄水場に引き込み、ろ過、浄水した水を配水池を経て三根および大賀郷地域に送水しています。

水源の取水施設は水力発電を行っていた昭和 20 年代の施設を町が譲り受けたもので、耐用年数の 60 年を過ぎていました。落ち葉などで取水口がつまりやすい構造で、町職員や委託業者による日常的な清掃作業が欠かせない状態でした。浄水場までの導水施設の一部も水力発電の名残です。管の破損などによる漏水箇所があり、耐震管路への更新なども必要でした。

急速ろ過システム（凝集・沈殿処理及び急速ろ過）を採用していた旧施設の浄水設備は、着水井と凝集・沈殿を行う沈殿池がいずれも築造から 40 年以上経過しており、近年では浄水不良や機器故障が度々発生していました。2010 年度に実施した耐震簡易診断では、いずれも耐震性が「低い」との結果が出ました。

地震などの災害に強く、将来的に安定した浄水処理を継続するために、町企業課では 2017 年度から施設の更新計画策定に着手。既存施設の稼働を続けながら



どのような工事手法が可能なのか、安全性、処理性、コスト、維持管理・メンテナンスの容易さなどを含めて総合的に検討し、施設を更新しました。敷地が急峻な斜面のため、浄水方法も狭い敷地で安定的に行える「膜ろ過方式」へ変更しています。

安全な飲料水の安定供給を担う水道事業は、町民にとって最重要のライフラインの一つです。人口が減少すれば、おのずと水道収益は減収となりますが、安定給水を維持するためには、老朽化施設の建て替えや、敷設水道管の耐震管への更新など、増収に結びつかない設備投資を続けていかななくてはなりません。今後もより効率的な事業運営を行いながら、長期的な視点で水道インフラを維持していきます。

## ● 八丈町プラザ公園

旧東京都農業試験場跡地を利用して2015年に町民にも観光客にも楽しめる八丈都市計画公園としてオープンしました。公園全体は三原山から八丈富士に向かって広がる面積約2万6,000平方メートルのなだらかな傾斜地にあります。八丈島のほぼ中央に位置し、三原山のふもとの自然豊かな樹林帯と隣接する平坦な敷地で、公園内には雨水や流出土砂などによる周辺地への被害を防ぐための水路や浸透池も設置されています。

明るくゆったりとした芝生広場がベースで、トイレ



や四阿（あずまや）、すべり台、スプリング遊具、テーブル・ベンチ、キャンプ用の炊事施設などが各区面に配置されています。散策だけではなく、親子連れ、キャンプ目的の観光客など、幅広い層が利用可能な開放的な公園となっています。

### 多くのヤシ類を植栽

特徴の一つが四季折々に楽しめる園内の多彩な植栽です。80本を越えるケンチャヤシをはじめ、ピローヤシ、チャメロプス、フェニックス・ロベレニーなど、八丈島でおなじみのヤシ類や、ハイビスカス、シャリンバイ、トベラなどの樹種。カブツ、シマバナナなどの果実類なども植えられています。



春に公園を彩るのが桜。カワツザクラをはじめ、カンヒザクラ、ソメイヨシノ、ヨウコウザクラと、開花時期がずれる樹種を植栽しており、長い期間桜が楽しめる

## ● 町営バス事務所と車庫



都道神湊八重根港線の改修工事にともない、2023年10月に移転整備された町営バスの事務所と車庫。RC造の建物の面積は577平方m。バス3台が納車可能な車庫をはじめ、事務所、応接室、運転手控室、ガイド室、整備室、研修室、給湯室、部品庫、倉庫などがある。施設内も広く、明るくなった

町営バスは2024年4月現在、運転手8人、ガイド5人、事務職3人の体制で、乗合4台、貸切7台のバス車両を保有しています。

コロナ禍前の数年間、インバウンド需要で全国的に観光バスが不足し、貸切バスの団体ツアーに追い風が吹き、需要は増えていきました。2020年からのコロナ禍で観光客はいったん途絶えましたが、2022年度になると回復しました。スマホで購入でき、2日間乗り放題・温泉入り放題の「バ・ス・パ」も好評です。

公式ホームページでは町営バススタッフによるおすすめプランとして「路線バスで巡る！ 歴史を感じる八丈島」「あなたのセンスが光る旅!!」「伝統芸能と手作り雑貨のコース」「満喫！ 八丈島を一番長く楽しむバス旅!!」の4つのプランを紹介しています。

町営バスの伝統となっているのが、バスボディのラッピング。観光の貸切バスは波の上をトビウオが飛ぶシンプルなデザインになっていますが、路線バスは利用者に親しみを持ってもらいたいと、八丈の花やグリーン、特産品などを描いた楽しい図柄です。島民から募集した絵柄のラッピングもあります。



古くなったバスのボディに園児がマジックで自由に絵を描いた「お絵かきバス」。ふるさとのバスに愛着を持ってもらえればと、町営バスが発案（2017年6月）

# 八丈町の人口推移

昭和30年 **12,344人** → 令和2年 **7,042人**

2020年10月1日の国勢調査による八丈町の人口は7,042人で、5年前(2015年)の調査時から571人減少しました。

過去の国勢調査によると八丈町の人口のピークは1950年の12,887人(同年の住民基本台帳は13,359人)です。終戦の年(1945年)には前年の強制疎開などでいったん6千人以下にまで減少しましたが、戦後の疎開者の帰島や、外地に出征していた人、小笠原・南洋諸島へ移住していた人たちの引き揚げ、島の人口は膨れあがりました。

戦後すぐは第1次ベビーブーム(1947年～1949年)で出生数が爆発的に増え、しばらくは人口が1万2千人台という高水準をキープしました。

その後は、社会経済事情、就職状況の好転、上級学校

への進学などで、若年層の転出が増え、また、出生数も落ち着き、人口は減少傾向に入りました。

1970年代を迎えると人口は1万人台、1980年代の後半には9千人台となり、2000年以降はさらに人口減少が加速していきました。

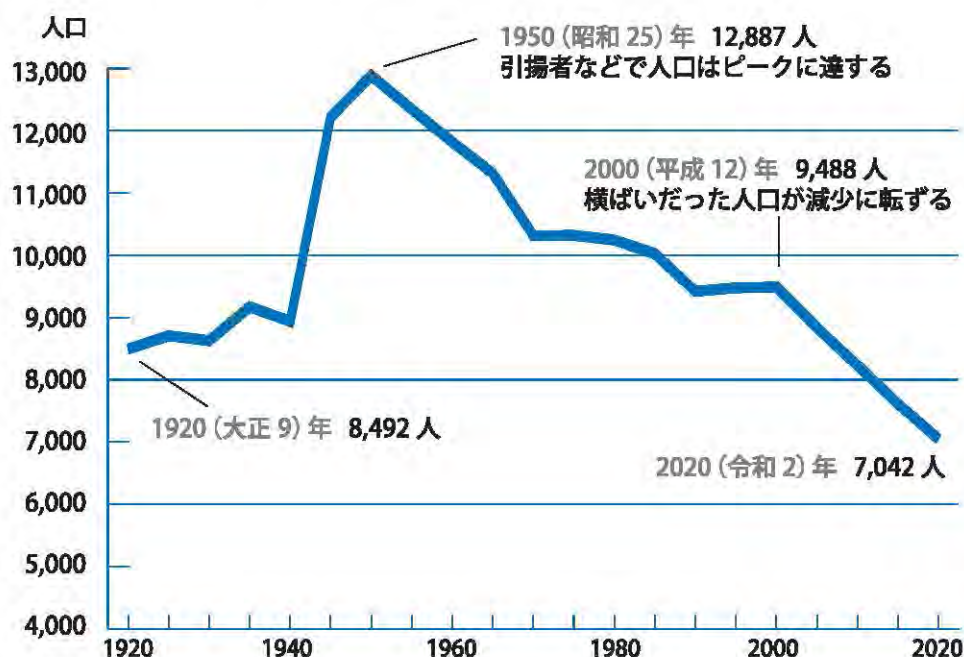
## 「2035年 5,309人」の衝撃！

2008年12月、厚生労働省内の政策研究機関、国立社会保障・人口問題研究所が全国の市区町村別の将来人口推計値(2035年まで5年ごと)を発表しました。同推計によると八丈町の2035年の人口は5,309人。2009年1月1日の町人口は8,458人でしたから、25年後に約4割近い3,000人の人が減るといふ衝撃的な

年 (年号)	人口
1920 大正9	8,492
1925 大正14	8,707
1930 昭和5	8,626
1935 昭和10	9,170
1940 昭和15	8,939
1947 昭和22	12,218
1950 昭和25	12,887
1955 昭和30	12,344
1960 昭和35	11,818
1965 昭和40	11,315
1970 昭和45	10,316
1975 昭和50	10,318
1980 昭和55	10,244
1985 昭和60	10,024
1990 平成2	9,420
1995 平成7	9,476
2000 平成12	9,488
2005 平成17	8,837
2010 平成22	8,231
2015 平成27	7,613
2020 令和2	7,042

## 国勢調査による八丈町の人口推移

(1920～2020、国勢調査を基に作成)



数字でした。

この推計値は、2000年と2005年の国勢調査の人口動態を基本に、出生や死亡による自然増減、移動による社会増減を合わせて単純計算したもので、各自治体における行政施策や民間の動向など、社会的な要因を反映したものではありません。しかし、2000年以降に急激に進行していた人口減少を考えると、「実感できない未来像」とは言えませんでした。

## 八丈町人口ビジョン策定

こうした事態を受けて、町では人口推移の現状と将来の姿を分析し、人口問題に関する基本認識の共有を図るために、2016年3月に「八丈町人口ビジョン 八丈町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。5年後の2021年には改訂版となる「第2期総合戦略」を策定しています。国の長期ビジョンに示された目標人口や、各種施策の実現可能性を加味し、2040年度に人口6,000人、2060年度に4,500人を目標に、安定した人口規模の維持を目指すための戦略です。

## 定住促進へ向けた取り組み

「八丈町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を機に、町は定住促進へ向けた具体的な取り組みも進めてきました。

2015年度から八丈島内の求人情報を集約・発信することで安定した雇用環境を形成し定住を促進する「八丈町おしごと掲示板(Web)」を創設。翌2016年度には八丈町への移住定住に関する情報を集約したサイトを構築しています。2022年度には、移住・定住情報サイトをリニューアルし「八丈物語」として、定住までのプロセスを8つに分けて紹介しています。



どこの離島にとっても、人口減少をどう食い止めていくかは、大きな課題となっています。島外で行われる「島じまん」や「アイランダー」、「ふるさと回帰フェア」などのイベントでも、各島が移住者を誘致するためのブースを設けるなどPR活動が盛んに行われるように

なり、八丈町も積極的な発信を行っています。

2021年度には八丈町おしごと掲示板のオンライン申請と八丈町空き家情報登録制度(空き家バンク)を開始しました。



2015年度に島しょ振興公社と株式会社オール・ピー・アイが実施した就業体験事業(ワーキングホリデー)の一環で制作した「農活」のポスター。島の若い農業者がモデルに

## 農業後継者求む!

後継者不足に悩む農業の分野でも新規参入を後押ししています。産業観光課のまとめによれば2013年度から2023年度までの新規就農者は113人。前半の5年間で27人だったのに対して、後半6年間は毎年コンスタントに2桁の就農がありました。就農者のうち1ターンは25人、Uターンは22人で、島外から移住して農業を始めた人が約4割もいます。

新規就農の作目は野菜・イモ類をはじめ、ロベ、ルスカス、レモン、レザーファン、ヒサカキ、アシタバ、グアバ、肉用牛など、幅広い作物を生産しています。販売形態も従来の市場出荷だけではなく、島内個人向けの販売や島内外の店舗や施設との契約販売。また、ネットなどを活用した島外消費者への通信販売など、流通の在り方も多様化してきています。

2008年に開校した農業担い手育成研修センターではこれまでに15人の研修生を受け入れるなど、農業後継者育成の中核的施設としての役割を担っています。

# 2022、2023年 転入者が、転出者上回る

人口減少の大きな流れはストップできないものの、ここへきて小さな光明も見え始めました。2020年以降の町の人口増減を見ると、2022年、2023年と転入者数が転出者数を上回りました。短期的なことでもあり、またその要因も明らかになってはいませんが、実数でも転入者が増えていることがわかります。

## 八丈町の人口増減の内訳 (2020～2023年)

年	転入者数	転出者数	出生者数	死亡者数
2020	390	400	43	133
2021	370	374	45	136
2022	409	395	30	117
2023	424	382	31	156

# 「自立持続可能性自治体」に

2024年4月、民間有識者グループ「人口戦略会議」は、国立社会保障・人口問題研究所の推計をもとに20代から30代の女性の数「若年女性人口」の減少率を市区町村ごとに分析し、自治体の持続可能性を分析したレポートを公表しました。

その結果、2020年から2050年までの30年間で、若年女性人口が半数以下になる自治体は全体の40%超に当たる744自治体で、「消滅可能性自治体」としました。一方、2050年までの若年女性人口の減少率が20%未満にとどまる65の自治体は「100年後も若年女性が5割近く残っており持続可能性が高いと考えられる」として「自立持続可能性自治体」としました。八丈町は2020年の若年女性人口が481人で減少率は19.5%と、わずかながら20%を下回り、「自立持続可能性自治体」に分類されました。

ここは東京都、八丈島  
羽田から55分の楽園

親子の時間∞

東京から約286km、太平洋に浮かぶ伊豆諸島のひとつ、八丈島。二つの山がくっついたひょうたん型の八丈島は、八丈一周道路で一周約45kmと山手線内とはほぼ同じ距離。山と山の間に空港があり、空港を中心に町が広がっています。島の中心からどこへ行くにも車で5～15分、一番離れたところでも30分程度と究極のコンパクトシティとも言えます。公共機関もスーパーも、職場も学校も保育園もぜんぜんお近く、満員電車での長時間の通勤とも無縁。その外、豊かな自然の中で、家族との時間を増やせます。

生活インフラ∞

東京で買える取巻山やカフェなど多岐、どこへ行くにも便利なコンパクトシティ。スーパーマーケットは何軒もあります。緑地の確保率は100%!

子育て支援∞

東京の島で唯一の病院である「町立八丈病院」には小児科と産婦人科があります。八丈町は子育て多ターナルで支援しています。詳しくはPBをご覧ください。

ネットインフラ∞

高速インターネットが島内全域をカバーしており、ネットもスマホ、複数端末生活やリモートワークも増えています。

飛行機(ANA)は1日3往復

羽田 → 八丈島	八丈島 → 羽田
07:30 - 8:25	09:00 - 09:55
12:05 - 13:00	13:45 - 14:40
16:00 - 16:50	17:25 - 18:25

大型客船は1日1往復

竹芝 → 八丈島	八丈島 → 竹芝
22:30 - 08:55	09:40 - 19:40

2024年9月にリニューアルした「八丈町 移住・定住ガイドブック」。八丈町企画財政課企画係内の八盛隊(八丈町地域おこし協力隊)が中心となって制作

## 子育てのゴールデンタイムを八丈島で!

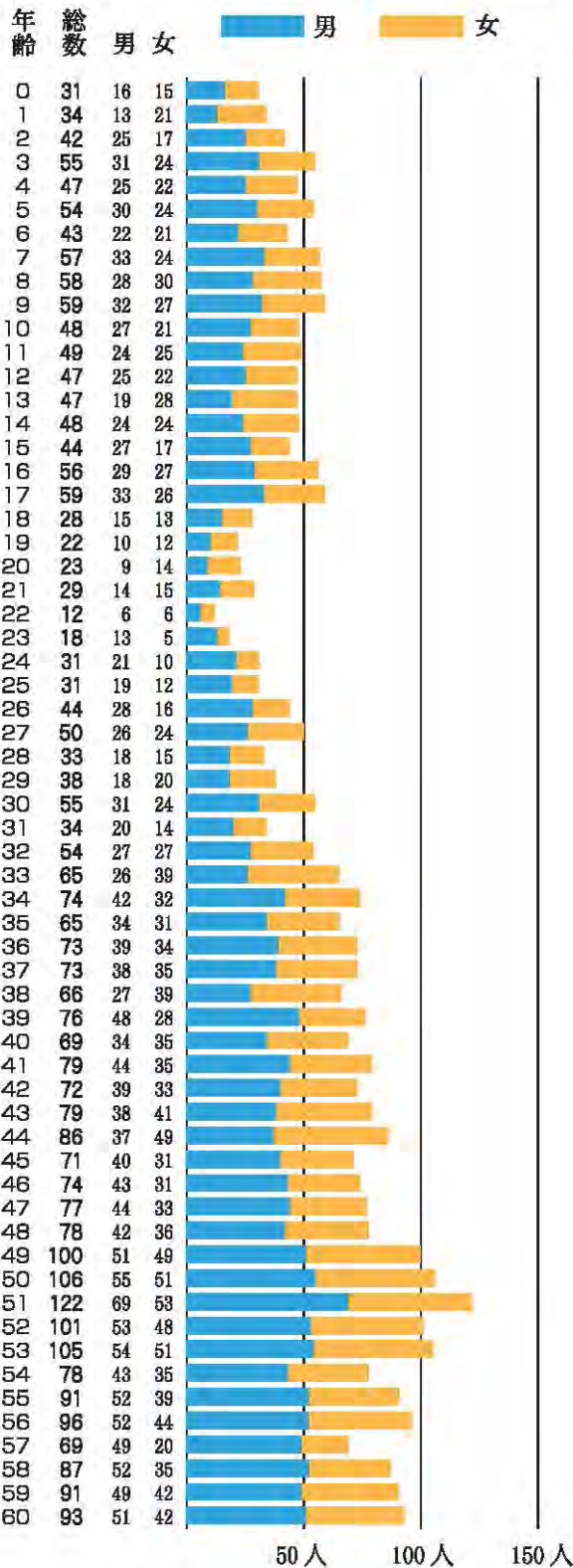
移住を検討している人に向けて配る新しいガイドブックのコンセプトは「子育てのゴールデンタイムを八丈島で!」というものです。八丈島での子育ては、満員電車での長時間の通勤時間とは無縁です。若い世代にターゲットをしばって、職場をはじめ公共機関、学校、保育園、病院、スーパーなど、生活インフラが近接した究極のコンパクトシティでありながら、海と山に囲まれた豊かな自然の中でゆったりと子育てができる八丈島の環境をアピールしています。

# 同級生 何人いますか？

2024年4月1日の町人口6,795人（男3,402人、女3,393人）を年齢別に示したグラフです。最も多いのが戦後復興期の第1次ベビーブーム（1947年～1949年）に生まれた「団塊の世代」で、75歳から77歳のグループです。

もう一つのピークは1970年代前半に生まれ、50代

八丈町住民基本台帳年齢別人口（2024年4月1日）



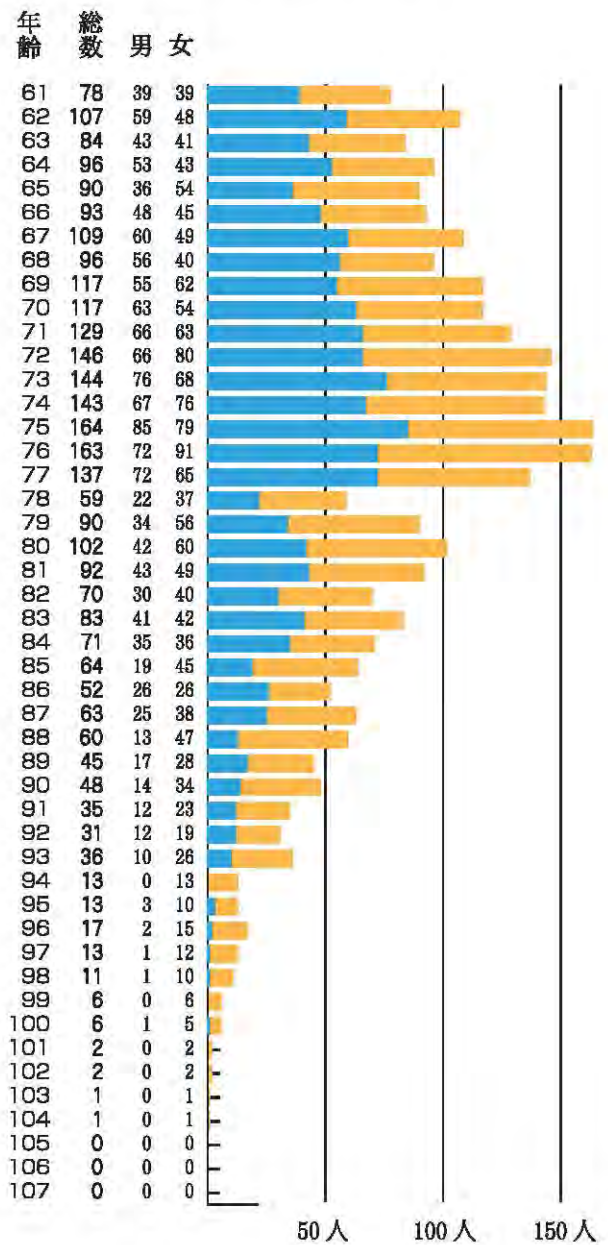
にさしかかった「団塊ジュニア」で、同年代で100人以上になるのはこの世代です。

極端に少ないのが、18歳から25歳の若年層。多くの方が八丈高校を卒業して島外へ進学、就職するためですが、0歳から2歳の人口も50人を切っています。

# あなたは 何世代？

「団塊の世代」以降は、いろいろな世代の呼称が生まれました。「新人類世代」は1950年代後半から1960年代生まれ。「バブル世代」は1965年～1969年生まれです。そして「就職氷河期世代」は1971年から1984年と長い期間続いています。「ゆとり世代」は2002年から2010年まで実施された「ゆとり教育」が由来で、1987年から2004年に生まれた人が該当するそうです。

最近よく聞く「Z世代」は、1990年代半ばから2010年にかけて生まれた人たちで、デジタルネイティブ、SNSネイティブとも呼ばれます。生まれた時からインターネットが身近にある世代です。



# 懐かしい「昭和の夏」

気象庁は2024年の夏(6~8月)の全国の平均気温が平年より1.76度高く、1898年の統計開始以来最高だった2023年と並び、1位タイとなったと発表しました。八丈島の夏も、7月末に観測史上初の猛暑日(最高気温が35度以上の日)を記録しました。8月は30度を超える真夏日が27日もあり、ほぼ連日酷暑が続きました。気象の専門家は「長期的な地球温暖化が気温を底上げしていることは否めない。特にここ2、3年は海面水温が高い。以前と比べて気温が上がりやすい状況は続くのではないかと指摘しています。日本の夏、八丈島の夏はこの先どうなるのでしょうか。

# 最高気温 35.5℃

## 2024年7月、八丈島初の猛暑日！

70年前と現在の島の暮らしを比べて大きく変化したものの一つが夏の暑さです。八丈島の「昭和の夏」は昼間の日差しは強いものの、ちょっと木陰に入れば心地よい風を感じることができました。蒸し暑い夏の日の夕方には走り雨が地面をぬらし、人も畑の作物もひといきつけました。エアコンはなくても夜は涼しく、過ごしやすかったです。しかし、特に令和になってからの夏の暑さは、当時とはまったく別のものになりました。

気象庁の観測地点「八丈島」で2024年7月30日に記録した最高気温は35.5度。統計期間(1906年6月~2024年8月)を通して八丈島にとって最も暑く、唯一の「猛暑日」となりました。また、同地点での最高気温上位10のうち、半数の5つを2024年の7、8月の記録が占めています。同年の夏がいかに酷暑だったかを示しています。

## 70年前と比べると

八丈町が誕生した70年前の八丈島の気象はどうだったのでしょうか。気象庁の観測データで観測地点「八丈島」における70年前の10年間(1955~1964年)と、

### 八丈島の日最高気温 2024年7・8月

日	7月	8月
1	27.9	31.3
2	25.9	31.4
3	28.1	31.5
4	27.1	31.2
5	28.9	31.8
6	28.8	31.6
7	29.2	33.3
8	28.5	33.0
9	27.4	32.0
10	26.2	32.2
11	27.4	33.6
12	26.7	34.0
13	30.3	32.9
14	30.0	33.1
15	30.7	27.2
16	31.0	28.2
17	30.5	31.3
18	30.8	31.8
19	30.4	32.0
20	30.1	31.3
21	30.5	30.6
22	31.4	30.4
23	30.9	32.0
24	30.8	32.1
25	31.2	31.4
26	32.1	31.4
27	32.4	30.6
28	32.1	30.8
29	34.1	30.4
30	35.5	29.1
31	32.7	29.5



かつて八丈島は「常春の島」と称されましたが、21世紀になって町の観光パンフレットには、首都圏のすぐ近くにある南国を印象づける「東京都亜熱帯区八丈島」のキャッチフレーズが使われるようになりました。ここ数年の夏は連日40度に迫る猛暑やゲリラ豪雨が全国で頻発しています。「亜熱帯化」は八丈島だけでなく、日本全国で進んでいるようです。

最近10年間(2015~2024年)の7、8月の最高気温を比較してみました。

70年前の10年間は7月の最高気温の平均が28.1度、8月は29.6度。8月に最高気温が30度を超えた真

## 7、8月の最高気温（平均）

1955年～1964年			2015年～2024年		
	7月	8月		7月	8月
1955	29.1	29.2	2015	28.4	29.9
1956	28.4	29.8	2016	27.9	29.3
1957	27.8	30.1	2017	29.3	30.0
1958	27.3	29.3	2018	30.0	29.7
1959	27.8	29.5	2019	27.4	30.6
1960	27.6	29.3	2020	27.1	30.9
1961	29.5	30.4	2021	27.6	29.3
1962	27.1	29.4	2022	28.6	30.6
1963	28.2	28.6	2023	29.1	30.5
1964	28.4	29.9	2024	30.1	31.4
平均	28.1	29.6	平均	28.5	30.2

夏日の日数は合計で123日でした。

一方、最近10年間は7月の最高気温の平均が28.5度、8月は30.2度。8月の真夏日の日数も189日と、70年前より大幅に増えています。

八丈島測候所が2004年6月に発行した「八丈島の気象100年」では、梅雨時期から夏場の八丈島の気候について「前線が三宅島付近まで北上すると南から非常に湿った暖かい空気が流れ込んで島の周辺だけが低い雲に覆われることがある。島ではこのことを『島曇り』と呼び、一旦島曇りが発生すると数日続くことが多く、航空機の運航に大きな影響を与える。このころ『カビ』の繁殖が盛んとなり、また白蟻も大量発生し、一年を通

じ最も過ごしにくい時期となる。梅雨明けと共に連日青空が広がるが、日最高気温は30℃を超える真夏日は年間15.0日程度（東京は45.6日）で、東京の1/3しかない」と説明しています。20年前より、暑さが厳しくなっていることがわかります。

## 熱中症から命を守る

2024年の夏、町はたびたび防災行政無線で町民に熱中症予防の注意喚起を行いました。東京都も「熱中症対策のお知らせ」を配布し、命を守る行動を呼びかけました。

そもそも「熱中症」という言葉は昔はありませんでした。強い日ざしに長く当たることで発生する「日射病」や、高温多湿な環境で仕事をしていて起きる「熱射病」などの呼ばれ方をしました。これらを総称して「熱中症」と呼びはじめたのは2000年ごろからです。

熱中症は約4割が住居内で発症しています。予防にはエアコンを適切に使用したり、十分な水分をとり、睡眠とバランスの良い食事を心がける必要があります。八丈町でも年々、患者が増えています。



東京都がタウンメールで町内全戸に配布したチラシ

## 自然災害への備え 防災行政無線デジタル化 ハザードマップ

地球温暖化や世界規模の気象異変はこの先大きな災害を起こすとされており、自然災害に対する備えはますます重要になっています。

八丈町では災害の発生時に町民へ迅速で確実な情報伝達を行うために1988年に八丈町防災行政無線を開局しました。防災行政無線システムは町役場に親局を設置し、三原山中継局を経て電波を発射し、島内に設置している屋外拡声受信機や屋内戸別受信機によって、町民のみならず各種の情報を伝えるシステムです。非常時には災害情報や復旧情報を、平常時には行政情報や各種行事のお知らせなども伝え、今では町民の生

活になくはない情報伝達手段になっています。

ここ数年は、全国的に防災行政無線のデジタル化が進められており、八丈町でも2020年度から2024年度まで5



屋外拡声子局



デジタル戸別受信機

カ年の継続事業で、親局設備、中継局設備、再送信子局設備のほか、屋外拡声子局 48 基のデジタル化工事を実施しました。各世帯へ配布している戸別受信機も順次交換を行い、2024 年 12 月 1 日以降はデジタルのみの運用となり、従来のアナログ受信機は使用できなくなりました。

また、防災行政無線が聞き取りにくい地域をフォローするために SNS でも情報発信を行っています。

### 3 種類のハザードマップを作成

八丈町では 2017 年度に地域防災計画を全面改正し、2019 年には東京都の土砂災害警戒区域指定に基づ

き、「八丈町土砂災害ハザードマップ」を作成しています。そのほかにも「津波浸水ハザードマップ」「火山防災ハザードマップ」を作成しました。

いずれも「わが家の防災対策」の小冊子とともに町のホームページで閲覧できます。



八丈町土砂災害ハザードマップ

## 富士山頂気象レーダー もしかしたら八丈富士だった…

1961 年 6 月 18 日の南海タイムスに

### 「八丈富士に気象用レーダー 気象庁内で駿河の富士と対立」

の見出しの記事が掲載されています。

東日本を襲う台風観測の守りを固めるために駿河の富士山頂か八丈島の八丈富士に気象用レーダーを設置しようという計画があり、八丈町議会も誘致の声を上げていているという内容です。

記事によると、「南方洋上の鳥島が理想だが、そこはあまりに遠く、故障の場合に難があるので、八丈富士に大型台風用レーダーを設置すべきだ」という構想が強まってきた」と伝えています。一方、富士山頂の案は「利用範囲が広い」というのが根拠としていますが、機材を人力で運び上げ、建設するのは難工事で、また、冬季のレーダー保守が難しいという声もあると伝えています。

7 月 2 日の紙面では「今、来週中に結論 台風レーダー八丈が有力」との見方が、当時の測候所長の談として掲載されました。

そして、7 月 16 日の紙面では「富士山に軍配 台風レーダー八丈島見送り」の見出し。「両論が検討されたが、八丈島は技術的問題が未解決のため」と理由が説明されています。

翌 1962 年 5 月 13 日号には「また、台風レーダー候補に 八丈の場合 三原山有力」との記事が掲載されました。駿河の富士のレーダー計画が予算の都合で取りやめになったため、有力候補に八丈が再び浮上したとの内容です。八丈富士が三原山になった



のは山頂への道路がないためでしたが、結局、この案も実現しませんでした。

1964 年に建設された富士山レーダーは、従来の気象レーダーの 3 倍以上、約 800 ㎞先まで探知でき、南海上から日本に迫ってくる台風の進路や勢力の予報に威力を発揮しました。気象衛星などの発達により、1999 年 11 月にその役目を終えています。

富士山頂のレーダー設置の難工事は石原裕次郎や勝新太郎らが出演した映画「富士山頂」(1970 年)にもなりました。

台風の通り道に位置する八丈島は古くから気象観測の要衝とされてきました。中央气象台附属測候所として観測を始めた 1906 (明治 39) 年 6 月から 1 日も欠かさず気象観測を続け、地震・津波観測、予警報業務を担い、町民に防災情報を提供してきた八丈島測候所も、自動観測システムの整備により、2009 年 10 月から段階的に無人化されました。

# 70年前は八丈島の転換期

八丈町が誕生したのは終戦から10年後の1955(昭和30)年。日本は終戦直後の混乱がようやく落ち着き、戦後復興から高度経済成長期へと歩み始めた頃です。東京-八丈島間に民間の航空路線が開設され、東京まで定期船で14時間かかっていたのが1時間20分に短縮されました。当時の島は三原山のすそ野に水田が広がり、農業と染織・養蚕業が中心の伝統的な島民の暮らしが色濃く残っていましたが、エキゾチックな観葉植物の植栽や、営業を開始した2つの常設映画館、軒を並べる専門店など、古いものの中に新しいものが混在する独特な雰囲気を醸し出していました。そして1958年、金環食の観測地として全国紙で注目を浴びると、その後始まる大型ホテルの建設ラッシュ、観光ブームへとつながっていきます。昭和30年代は八丈島の大きな転換期だったのです。

## 東京まで1時間20分

八丈町の誕生と共に、島にとって大きなできごととなったのが、定期航空路の開設でした。当時は、東海汽船の黒潮丸(496ト、定員125人)が毎月6回、3と8のつく日に運航していました。

民間航空による航空路の幕開けは1953(昭和28)年4月。青木航空のセスナ機が初めて八丈島空港に飛来し、翌1954年5月には青木航空による不定期路線が開かれました。定期路線は1955年4月、日本ヘリコプター輸送(全日空の前身)の11人乗り双発DHダブ機が、東京-八丈島間を週2便、1時間20分で飛ぶようになりました。この年の空路旅客数は1,837人、提供座席数に対する利用率は75.7%でした。

島の産業は、第一次産業が主体でした。1955年の産業別の就業者数は農業が2,780人で、全就業者の54%を占めていました。林業が324人、漁業が278人。他の分野では建設業144人、製造業267人、卸・小売業333人、金融10人、運輸・通信172人、サービス490人、公務366人です。

## そさい 蔬菜生産から花卉園芸へ

島の農業も時代と共に変化しています。戦後は、引き揚げ者によって人口が急増したこともあり、小麦や大麦などの穀物類に代わってキャベツやレタス、セロリなどの野菜を栽培し、島外へ大量に移出するようになります。1952年には政府から「蔬菜特産地」に指定され、翌1953年には進駐軍からも野菜の契約栽培を求められるほどでした。1955年はこうした移出野菜総

生産額が4,546万円とピークを迎えましたが、石炭から石油へと転換する「エネルギー革命」で、全国にビニールハウスが普及するにつれて、八丈島は温暖な気候を利用したの端境期出荷というメリットを急速に失います。その後の農業は、競合産地のない切葉・切花の栽培が、島民の経済を支えるようになります。

1958年度の農林水産物の総生産額は約5億1,500万円(農業は54%の2億8,000万円、漁業は36%の1億8,500万円、林業が10%の5,000万円)でした。農業生産の内訳は花卉園芸が44%、畜産物が22%、養蚕は5%。この統計は、当時の島の暮らしが、米や麦、自家用や移出用の野菜を育て、花卉園芸を行う多角的経営であったことを物語っています。

農家の6割は家畜を飼っていました。牛が多く、乳牛788頭、役牛815頭を飼育しています(ほかに豚317頭、めん羊71頭、やぎ299頭、鶏6,875羽、うさぎ13羽、あひる279羽)。養蚕農家は390戸もありました。

戦後急速に成長したのが漁業生産ですが、内訳はトビウオ55%、テングサ21%、ムロアジ15%などです。動力漁船の数は5ト以上が28隻、5ト未満が73隻。無動力漁船は104隻ありました。

林業生産は木炭57%、薪その他が40%。製炭業は戦時中の軍による乱伐と戦後の木炭需要の増大による過伐などで原木が不足したことや、石油の普及による需要の減退によって、斜陽化していきました。

## 島民悲願の昼夜送電

70年前は電気や電話、水道、空港・港湾、そして島内の幹線道路などの基本インフラの整備が本格化し、島民の暮らしが大きく変わる転換期でした。



日本遊覧航空のDHダブ機（八丈支庁所蔵写真）



大賀郷の水田の奥にあった毛串山水力発電の施設（八丈支庁所蔵写真）

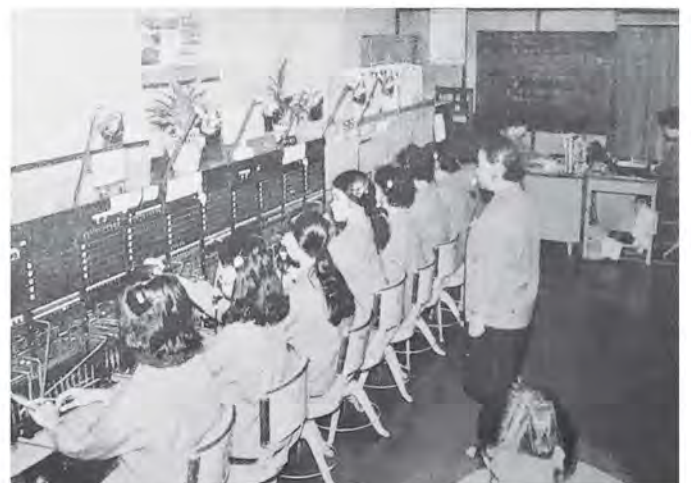
町民のくらし

<p>世帯人口 1世帯に 3.9人</p>	<p>町税 1世に 2,390円 1世帯に 9,992円</p>	<p>町職員 189人 65人に 1人</p>	<p>電話 993台 3.3世帯に 1台</p>
<p>医師 7人 1751人に1人</p>	<p>病院・診療所7施設 1751人に1施設</p>	<p>教員 131人 小学生22人に1人 中学生16人に1人</p>	<p>消防団員393人 31人に1人</p>
<p>出生年 177人 1ヶ月 14.8人</p>	<p>婚姻年 81組 1ヶ月 6.8組</p>	<p>死亡年 99人 1ヶ月 8.3人</p>	<p>店舗 192店 16世帯に 1店</p>
<p>乗用車 84台 145人に 1台</p>	<p>軽自動車 1,344台 9人に 1台</p>	<p>交通事故 71件 1ヶ月に 5.9件</p>	<p>耕地46,176アール 農家1戸当り 37.5アール</p>
<p>ラジオ 2329台 1.1世帯に 1台</p>	<p>テレビ 547 4.6世帯に 1台</p>	<p>プロパンガス 1752世帯 総世帯の 73%</p>	<p>たばこ消費量 成人1人 年 3086本</p>

町制施行から10年後、東京オリンピックが開催された1964年に八丈町が発行した「町制10周年記念 八丈町勢要覧」の巻末には、当時の町民の暮らしぶりがうかがえる20項目のデータが、イラストとともに収録されている



旧八重根港で沖合の貨物船から、船で荷物の積み下ろしを行う。島で生産された蔬菜類は多くが移出されていた（八丈支庁所蔵写真）



八丈島電報電話局内の電話の取り次ぎ風景（八丈島電報電話局開局20周年記念冊子より）

## 「今日より明日はよくなる」

2005年に公開された映画「ALWAYS 三丁目の夕日」は建設中の東京タワーや初めて家にやってきた白黒テレビなど、1958年の東京下町の風景や暮らし、人間模様をノスタルジックに描いた作品です。映画に先立って1990年代には昭和レトロブームが起こり、全国各地で昭和の街並みを保存したり、ミュージアムとして整備する動きがありました。昭和はたびたびブームになります。リアルに昭和を知る人も知らない人も、なぜか懐かしく感じるのが昭和の時代です。

終戦直後は激しいインフレと食糧難などによって日本は混乱を極めました。1950(昭和25)年に勃発した朝鮮戦争の特需により、経済は戦前の水準に回復しました。そこから復興が確かな歩みとなり、1956年には経済白書に使われた「もはや戦後ではない」という言葉が流行語になりました。

庶民の暮らしも大きく変わっていきました。「三種の神器」と呼ばれた電気洗濯機、電気冷蔵庫、テレビ(白黒)など、電化製品が一般家庭に普及、消費革命が訪れました。衣食住を満たしたいという欲求から市場は膨張を続け、高品質なものを作れば必ず売れるという時代でした。重化学工業や家電メーカーで大量の労働力需要が生まれ、農村から都市への人口移動が起きました。「金の卵」と呼ばれた若者が集団就職で都会へと向かいました。また、旅行をはじめとする「レジャー」が大衆化したのもこの時代です。

1955年から1972年を高度経済成長期と呼びますが、年平均の経済成長率が10%近くありました。1959年「皇太子ご成婚」、1964年「東京オリンピック」と大きな国家的イベントがあり、高速道路や東海道新幹線が開通するなど、日本の姿が大きく変わりました。

昭和30年前後には映画が黄金時代を迎え、石原裕次郎や吉永小百合ら銀幕のスターが誕生しました。八丈島がロケ地に選ばれ、トップスターが飛行機に乗ってロケで八丈島を訪れることもありました。

相撲は「栃若」(栃錦・若乃花)、「柏嶋」(柏戸・大鵬)、プロ野球はON(王・長嶋)がヒーローでした。1958年にプロレスがテレビ中継がされるようになると、テレビのある家庭に近所の人たちが集まり、熱狂しました。

庶民の生活はまだ貧しかったのですが、誰もが「今日より明日は良くなる」と、将来に対して明るい見通しを持っていた時代でした。

現在と最も違うのが電気事情だったかも知れません。八丈島での発電は1927(昭和2)年、八丈島電気株式会社が設立され、毛串山110kV、鳴沢70kVの水力発電が開始されたのが最初です。この事業は1942年に関東配電に吸収され、1951年に東京電力に統合されました。

1955年当時の南海タイムス紙面には「全島明るくなります 鳴沢発電所85kVに増強」「あと一息で昼間にラジオも」など、安定した昼夜送電を切望する島民の思いが再三取り上げられています。

東京電力は1957年、三宅島内燃力発電所からディーゼル発電機(出力120kV)を八丈島に移設、翌年にはさらに火力発電(認可出力800kV)を追加設置し、1958年から、島民悲願の昼夜送電が開始されました。

1964年には認可出力が1,780kVにまで増えました。東京電力によれば、当時島内には三種の神器とされたテレビが547台、冷蔵庫1,045台、洗濯機1,321台がありました。その後、エアコンが急速に普及するなど電力需要は増加し、内燃力発電所の出力は最大1万5,100kVにまで増強されています。

## 簡易水道施設はできたものの

八丈町が合併するまでは水道事業は各村で行われてきましたが、1956年から町による簡易水道の整備が進められ、1960年には八丈町全域の簡易水道施設が一応の完成を見ました。当時は合併町村に対する国や都からの支援が拡大されており、事業化が進みました。

しかし、町村合併で坂下地域に人口が集中し、水の絶対量、配水管の供給能力が不足しました。坂上地域でも同様に水不足は深刻な課題でした。

1972年2月と12月、八丈島は二度にわたってマグニチュード7クラスの大地震に襲われました。水源からの導水管や各地域の配水管が破壊されました。この災害復旧が緊急課題となり、結果的にはこの復旧事業で町の水道施設が再整備されました。

## 交換手が電話の取り次ぎ

現代は、インターネットによって、世界と瞬時に情報を共有できる時代になりましたが、70年前はまだ電話が一般家庭に普及しおらず、伝えたいことは、直接会って話すか、手紙を書いていた。急用時は電報も利用しました。

島内の各郵便局が電話交換業務を開始したのは1933(昭和8)年です。この年から島民は自宅に電話が設置できるようになります。開局時の電話加入数は八丈島局22、三根局11、中之郷局8、末吉局7の合計48回線。通話料金は3分間5銭、坂下～坂上間では3分間10銭でした。

1958年には八丈島電報電話局が開局し、それまで各

郵便局が担っていた交換業務を引き継ぎました。発足時の加入者数は384件でした。手動式電話の時代で、相手の電話番号を交換手に告げてつないでもらいましたが、交換手泣かせだったのが相手の名前や屋号、会社名で申し込む人が多かったこと。「火事はどこだ」「誰それが亡くなったのか」と交換手に聞く人もいたそうです。加入者数が1,000件を超えたのは1964年でした。

坂下地域の電話が手動からダイヤル式になったのは1969年5月。全国4,700地域へ、直接ダイヤルで電話がかけられる便利な時代がやってきました。申し込んでから平均1時間かかっていた東京への電話が即時通話となりました。八丈島に割り当てられた市外局番は「04996」、市内局番は「2」。坂上地域のダイヤル化は2年後の1971年7月。中之郷と榎立には「7」、末吉に「8」の市内局番が割り振られました。

電話加入件数はその後も増え続け、普及率が100%を超えたのは1980年のことです。1985年に日本電信電話公社が民営化。電話機はダイヤルから数字のボタンを押すプッシュホンに変わり、ファックスも普及しました。1990年代には外出中も連絡が取れるポケベルが流行、その後、まもなくして携帯電話が普及します。

1990年代後半から2000年代にかけては情報技術(IT)が急速に発達し、インターネットの利用が人々の生活を大きく変えることとなります。

## 東京五輪でテレビが普及

日本でのテレビ放送の始まりは1953年です。2月にNHKが、同年8月には民放局(日本テレビジョン放送網株式会社)が開局しました。当時の白黒テレビは20万円前後。サラリーマンの月収が1万5千円ほどの時代で、気軽に買えるものではありませんでした。

八丈島でのテレビ放送は八丈島無線(超短波)中継所で電波試験を行うため、本放送の2年前から実験放送を受信していました。この中継所に多くの人が集まったのは本放送開始から1年後の1954年2月22日、初のプロレス中継が放送されたときでした。東京蔵前国技館での「プロレスタッグマッチ 力道山・木村政彦対シャープ兄弟」の実況で、建物の中に人が入りきれず、テレビを外に出してこの興業を観戦しました。

テレビの普及が本格化したのは東京オリンピックが開催された1964年。翌年にはNHKが三原山にサテライト局を開局。民放4社が三原山に中継放送局を開局したのは1970年でした。

## 映画館は島民の憩いの場

三根に常設の映画館、八丈島会館(320席、松竹・大映・東映系)と共映劇場(224席、日活・東宝系)が相次いで開館したのは1957年です。作品は2本、3本立てで昼夜2回上映、週3回のペースで作品が入れ替わ

るほど、映画館は島民の最大の娯楽の場となります。坂上のファンのためにバスを配車、ハイヤーが観客を乗せて走り回りました。観客席のイスはゆったりして、町の成人式や、婦人会など各種団体の総会の会場にも使用されていました。

映画館ができる前も、三根護神天草倉庫や大賀郷公会堂、中之郷青年館、榎立公民館、末吉の保育園などで、フィルムリレー式に巡回して映画を楽しんでいました。定期航空路が開かれていた八丈島は、ロケ地に選ばれることも多く、映画の撮影で数多くの人気スターが飛行機に乗って八丈島を訪れています。

八丈島を唄った歌謡曲が盛んに作られるようになるのは1960年代から。離島ブームの走りの頃でした。トップを切ったのは、島倉千代子が歌った「八丈すみれ草」です。松山恵子の「雨の竹芝棧橋」が売り出されると、竹芝では数年間、八丈行き船の出港時にこの曲を流しました。ほかにも「夢の八丈」(唄・守屋浩)、「八丈おじゃね節」(唄・島山みどり)「夜の八丈島」「八丈恋唄」(唄・朝丘雪路)など、数多くの歌謡曲が発表されました。

## 通り沿いには専門店が

現在と大きく変化したのが、街並みです。70年前の坂下地域の大通りには、鮮魚、豆腐、パン、うどん、カツオ節などさまざまな食料品店のほかに、メーカー別の時計店、文具、靴、レコード、カメラ、ラジオ、自転車などの専門店も建ち並び、賑やかでした。昔ながらの傘、下駄、布団、畳、鍛冶屋もありました。

当時は販売だけではなく、製造も自前で行い、修理を兼ねている店が多く、物はなんでも大切に長く使われていました。呉服、洋品店も数多くありましたが、各家庭がミシンを所有して家族の服を自分でデザインして作っていた時代で、商店は需要の多い布や糸、毛糸を豊富に取り揃えていました。

1965年は料亭やバーを含む飲食店だけで102軒もありました(「八丈支庁管内概要」)。ほかに、喫茶店13軒、菓子製造15軒、豆腐製造10軒…などでした。

当時も専門店に混じってさまざまな商品を取り扱うよろず屋的な商店はあったのですが、1970年代になると、大きな店舗を構え、食料品から日用雑貨まで大量の商品を扱うスーパーマーケットが誕生します。

## 新聞空輸を陳情

島に毎日飛行機が飛んでくると、町民からは郵便物や新聞の空輸を求める声が高くなりました。当時の新聞は5~6日に1度の船便で運ばれてくるため、ほぼ1週間分をまとめて読まなくてはなりませんでした。



昭和 30 年代の三根通り（左）と大賀郷通り（右）。  
（南海タイムス社所蔵）



牛の背に乗ってゆったりと通りを行く人  
（南海タイムス社所蔵）



町制施行 20 周年記念誌に掲載された 1970 年代前半の三根通り



八丈島会館と共映劇場（南海タイムス社所蔵）



1957 年に町営化されたバス事業



河口から八重根方面、弁天山を望む。1956 年ごろ（南海タイムス社所蔵）

1961年4月16日の南海タイムスには町議会が政府などに重要案件を陳情する記事が掲載されていますが、「5日分の郵便と新聞が船便で運ばれ一度に配達され、期限付きの紹介書、照会書、期限の過ぎた郵便で島民は困惑している」と、不便な実情を訴え、航空輸送の実現を強く要望しています。待望の新聞空輸が実現したのが翌1962年から。それまで飛行機の積載能力の関係で延び延びになっていましたが、藤田航空がフレンドシップF27を毎日午前中に就航させることになり、積載が可能になりました。

## オートバイの次は自動車

戦前から民間が運営していたバスの運行が再開されたのは1948(昭和23)年です。三根・末吉間を1日2往復し、翌年には1日4往復に増便されました。道路はまだ舗装されておらず、夏には砂ぼこりが舞い上がり、梅雨や台風の雨で悪路になり、たびたび通行に支障をきたしました。

このバス事業を民間から町が引き継いだのは1957年10月です。運転手5人、バスガイド3人が新たに採用され、バスガイドは「はとバス」で研修を受けました。翌年には初の島内観光バスが運行されました。この年に八重根～神湊間全長5,189mの都道の舗装が完成。道路整備も着々と進みました。

自動車の台数も増加し1955年は120台だったのが、1960年は482台、1965年には2,201台と増えま

した。この年の内訳は、乗用車が145台(営業車55、自家用車90)、バス22台、トラック309台、小型三輪46台、軽自動車473台、原付自転車1,206台です。自家用車は100台未満で、ほとんどが仕事で使う営業車でした。また、総数の半分は二輪車でした。

一般家庭では、お父さんが最初に自転車を買ひ、雨の日も雨合羽を着て仕事に通いました。少し余裕ができると次はオートバイを手に入れました。四輪の自家用車まではなかなか手が届かなかった時代でした。

高度経済成長期を経て八丈島もマイカーブームを迎え、1981年には5千台を超え、6千台(1986年)、7千台(1991年)、8千台(1996年)と増えていきます。一家に1台から、一人1台の時代になります。狭い島では長い距離を走るわけではありません。燃費がよく、税金が安い軽自動車が人気です。総保有台数のピークは2003年の8,975台で、その後は緩やかに減少に転じています。

1967年には町営バスが10周年を迎えました。発足当時は6台だったバスは一般乗合バス10台(大型)、観光貸切バス10台(大型8、マイクロバス2)の合計20台にまで増えました。当時の交通機関としてバスの役割が大きかったことがうかがえます。

民間事業者によるタクシーも1971年に15事業者102台あり、朝方までタクシーが走る便利な島でした。その後、事業者の廃業などで、2023年にはタクシーが5業者15台にまで減少しました。

## 八丈小島の引き揚げ

1954、1955年に八丈島の5村、八丈小島の2村が合併し、八丈町が誕生しました。このころ八丈小島は、生活条件は向上したものの過疎化が進み、水資源もないこともあって開発計画は行き詰まり、住民も100人を割ってしまいました。

高齢化した住民の間では、医療面で不安を抱く人も増えていました。このようななかで全員離島の話が持ちあがり、1966年3月全員離島を訴え、八丈町議会に請願書を提出しました。

請願を受けた町議会は、1966年6月20日、小島の実情調査を行い、同月22日にこれを採択しました。

請願内容を要約すると、

1. 電話・水道・医療の施設がない
2. 生活水準格差の増大
3. 人口過疎の傾向が甚大である
4. 子弟の教育のあい路

これにより、1969年1月より都や町の援助で全員が引き揚げ、無人島となりました。

## 離島までの経緯

- 1966年 3月 小島住民全員離島決意、八丈町議会に対し、「移住促進、助成に関する請願書」提出  
6月 八丈町議会「請願」採択  
7月 八丈町議会、小島引き揚げ対策協議会設置
- 1967年 9月 八丈町、都に「八丈小島住民の全員離島の実施に伴う八丈町に対する援助」陳情
- 1968年10月 土地収価格(在住者坪当たり93円、不在者60円)などについて、住民との協議成立
- 1969年 1月 離島開始  
6月 鳥打小・中学校、宇津木小・中学校廃校。全員離島する。24世帯人口91人



# 観光産業のはじまり

戦後、八丈島の新たな産業として観光立島をめざす気運が高まりましたが、その前提となるのが海と空の航路の充実でした。海路は1947年に東海汽船の新造船・黒潮丸(496ト)が建造され、毎月6回東京-八丈島間を定期運航するようになりました。航空輸送は1954年4月、青木航空による東京-八丈島間の不定期航空路が正式認可され、5月5日には記念すべきビーチクラフト一番機が飛来しました。当時の東京-八丈島間の片道運賃は4,400円でした。

空路が開設されると観光目的で島を訪れる人も増えてきました。当時の八丈島は花卉園芸が急成長し全国的に大きな注目を集めていました。植物公園整備の要望が高まり、町立公園を建設することになりました。1956年8月には町立公園設立記念祝典が挙行政され、公園鑑入式が行われました。八丈島園芸農協主催の「ミス八丈コンテスト」「熱帯植物祭」「牛相撲大会」など島を挙げての一大イベントが行われ、空では日本遊覧航空が招待飛行を行うなど、祝典ムードを盛り上げました。

1958年には伊豆七島国定公園観光開発の一環で、東京都が町立公園に地上権を設定し、「八丈亜熱帯植物公園」としての整備を始めました。そして4年後に「都立八丈植物公園」が開園しました。

八丈島の存在が全国に広く知られ、観光のターニン



「島空前の祭典絵巻」の見出しが躍る1956年8月26日の南海タイムス。下は1958年4月、「金環食」で押し寄せた観光客が神湊漁港でバスに乗る風景(写真は毎日新聞社撮影)



グポイントになったのが、1958年4月19日の「金環食フィーバー」です。20世紀最後の金環食（日食）を観測しようと、日本中から多くの科学者やアマチュア天文愛好者、観光客が来島しました。定期便だけでは乗り切れず、飛行機や船をチャーターしてくる団体もあり、港や飛行場はかつてないにぎわいとなりました。これを追って、各新聞社、テレビ放送局、ニュース映画社などの報道陣が総勢100人余り押しかけました。報道各社は、「世紀の天文ショー」とともに、地元・八丈島の風物や風景も合わせて紹介し、八丈島が観光地としても脚光を浴びることになりました。宿泊施設は旅館だけの時代でしたが、このできごとが観光開発の契機となり、外部資本による大型ホテルの建設計画も次々にスタートしました。

「八丈島に温泉が出現し、名実ともに日本のハワイになる日も間近」と、南海タイムスが報じたのは1959年3月1日の記事です。樫立・湯浜でのボーリング調査で温泉湧出が確認され、ホテルの建設計画が発表されたと伝えています。そして10月には「八丈温泉ホテル」が開業しました。

翌1960年6月には、都営第三種空港として八丈島空港の整備が完了し、全日空はダグラスDC3型機（31人乗り）の就航を発表し、観光発展の追い風になりました。この年、底土に島で初めての高層建築（8階建て）となるホテル・ローヤルの建設に着工、1963年8月に開業し、八丈島の新しい名所となりました。

1964年にはオリンピック東京大会が開かれましたが、その時の代々木選手村の男子食堂だった「富士」をそのまま八丈島に移設したのが「国際観光ホテル」で、1966年にオープンしました。

当時の船便は沖合に停泊し、乗客は艇で乗り降りしており、接岸港の整備は島民の悲願でした。1964年には底土港の整備が始まり、翌年8月に一部が完成し、椿

丸が接岸しました。その後も引き続き棧橋の延伸が行われ、1971年には大型船の接岸が可能になりました。

空港や港湾の整備、そしてホテルをはじめとした島内観光施設の充実により、観光で八丈島を訪れる人は増えてきました。1965年の来島者数は、船便が1万3,876人、航空路が3万5,160人で、合計4万9,036人でした。

八丈島の観光が大きく発展したのは1960年代の後半に起こった「離島ブーム」がきっかけでした。それまで伊豆諸島では交通の利便性が高い伊豆大島に観光客が一極集中していましたが、交通機関などが改善されたため、若者を中心に観光客が八丈島をはじめ、他の島へも訪れるようになりました。

この機を生かそうと、1967年には八丈島観光協会主催で「第1回フリージアまつり」を開催しました。八丈島の春を彩る特産のフリージアの花と香りを島の観光宣伝にと、黄八丈姿のフリージア娘を派遣して、都内各所でフリージアの花を配ったほか、大手旅行会社やマスコミなどを訪問し、観光客誘致をアピールして話題になりました。このキャンペーンは「フリージアキャラバン」として現在も続いています。

当時は戦後すぐに生まれた団塊の世代が適齢期を迎えるところで、新婚旅行の需要が急増しました。熱海や宮崎が有名でしたが、憧れのハワイへは行けないものの、当時はまだ珍しかった飛行機で行ける「日本のハワイ」へと、八丈島を訪れる新婚のカップルも少なくありませんでした。民宿が急増したのもこの時代でした。



1958年4月の金環食フィーバーでにぎわう八丈島。八丈島空港に飛来した日本遊覧航空のチャーター便（毎日新聞社撮影）

初期のころのフリージアまつり。銀座で花をプレゼントするフリージア娘



八丈町と八丈島観光協会で作成したパンフレット。YS機が運航していた頃で、1日の運航便数（往復）は東京に7便、名古屋に1便

観光パンフで紹介された底土海水浴場



高度経済成長期に入ると観光・レジャーが大衆化し、国内宿泊旅行が右肩上がりに急成長しました。1968年に8万7,757人だった来島者数は翌1969年に12万4,849人と、初めて10万人の大台を超えました。YS-11型機(64人乗り)が就航したのもこの年です。翌1970年5月には全日空の名古屋便が初就航。東京に8便、名古屋に3便の合計11便が運航しました。この年の全日空八丈島路線の利用率は全国1位になるなど、「ドル箱路線」と呼ばれました。

当時の夏の最大レジャーといえば海水浴でしたが、島には大勢の観光客を受け入れる海水浴場がありませんでした。1971年4月、八丈町の要請を受けて、約60人の自衛隊員が来島。ブルードーザーやダイナマイト

で海岸の岩盤を破碎して撤去、底土海浜運動公園として、現在の底土海水浴場の原型をつくりました。

1971年6月、「ふりいじあ丸」(2,286トン)が観光団約500人を乗せて底土港に初接岸。7月から東京～三宅島～八丈島定期航路の専用船として運航しました。1973年には来島者数が21万3,532人となり、初めて20万人を超えました。10万人を超えてから、たった4年の間に観光客が倍増したもので、八丈島観光のピークといえる時期でした。

1978年には「ふりいじあ丸」に変わる大型貨客船「すとれちあ丸」(3,708トン)が就航。1982年4月には八丈島空港の1800m滑走路が供用開始となり、B737型機(126人乗り)が就航しました。

海空路の整備は進みましたが、1980年代になると、海外旅行費が引き下げられ、海外旅行ブームが到来します。また、観光需要の多様化などで一時の八丈島観光ブームも去り、来島者数が減少する傾向が続ききました。

航空路も機材のジェット化、大型化が進む中、1日の就航便数が減り、また、航空運賃の値上げなどで、八丈島観光は低迷しました。なんとか八丈島観光の復活をと、船舶・航空会社とも協力しながら、新たな観光施策を行うもの

東京より南へOCEAN-WAY  
291km黒潮洗う八丈島



1800m滑走路が延伸された八丈島空港のパンフレット



八丈町観光商工課 八丈島観光協会

カラー印刷になった初期の八丈町の観光パンフレット



すとれちあ丸就航時の東海汽船のパンフレット

の、以前のような輝きを取り戻すことはできませんでした。

三宅島の噴火などで伊豆諸島の風評被害があった2000年に来島者数は15万人台を割り込みました。

観光客数を増やすために、八丈町が全日空に運賃値下げを訴え続ける中、2005年7月、全日空は東京-八丈島間の片道運賃1万2,250円を10月から半年間、1万200円に試行的に値下げする案を示しました。ただし半年後以降も値下げを継続するためには、同期間中の利用者数を前年比10%（約1万人）増やすという条件が付けられました。プラス1万人の達成に向け、半年間、町民は一丸となり、利用者数を増やすキャンペーンを展開しました。そして、半年後、プラス1万人はみごと達成され、値下げは継続されました。

それから2年後の2008年にはリーマンショックによる世界的な経済冷え込みの影響で来島者数は11万人台へ。航空運賃の値上げと消費税があった2014年には10万5千人と減少しています。

国内の観光需要をみると、2015年に訪日外国人客数が1,973万人を記録し、大阪万博が開催された1970年以来、45年ぶりに入国者数が出国者数を上回りました。翌2016年には2,000万人を、2018年には3,000万人を突破するなど、インバウンド客が、東京や京都をはじめ国内主要観光地にあふれる状況になりました。

八丈島はいきなり外国人客が急増するようなことはありませんでしたが、外国人ツアー客の増加で全国的に観光バスが不足し、行く先を探す国内ツアーの需要が増え、内地と同じように観光（貸切）バスが足りなくなるほどでした。

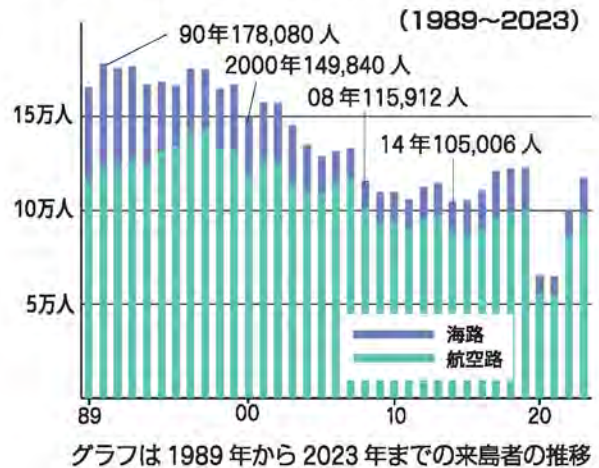
この頃からテレビの旅番組やネットで離島が多く取り上げられるようになり、再び島の観光へ注目が集まりました。「プチ離島ブーム」と言われるほど、伊豆諸島全体で来島者数が回復する傾向が見られました。

2017年春からは不定期ですが、機体が鮮やかなカラーのジェット機が八丈島空港にたびたび飛来するよう



2018年7月、70人ほどの外国人ツアー客であふれかえる底土船客待合所。こうした光景が日常になる日がくるのか…

## 平成から令和へ 来島者数推移



機体がイエローのFDA機

になりました。静岡県に本社を置く株式会社フジドリームエアラインズ（FDA）によるチャーター便です。使用機材の定員は80人程度ですが、全国各地から多くのツアー客を運ぶようになり、新たな集客ルートとして期待されています。

順調だった観光の流れを一変させたのが、2020年の新型コロナウイルス感染症のまん延でした。世界規模で観光がストップし、一時は壊滅的な状況に追い込まれました。航空会社も大幅に運航便を減らさざるを得なくなり、八丈島でも2020年7月には全日空便が1日1往復しか飛ばないという非常事態になりました。

新型コロナウイルス感染症が収束した2022年からは再び観光客も増加しています。

SNSの普及など社会構造がめまぐるしく変化する時代になり、観光客が旅に求めるニーズや価値感も刻々と変わります。八丈町では多様化する旅のスタイルに柔軟に対応しながら、八丈島の地域ブランド力を活かして持続発展できる観光地づくりをめざしてまいります。



2024年7月、新たに導入された八丈島公式観光アプリ

# 島への交通

八丈島への空路は、東京・羽田空港より全日空のジェット機が55分で結んでいます。また、東京愛らんどシャトルが八丈島を基地にして青ヶ島、御蔵島、三宅島、利島、大島とアクセスしています（毎日就航）。海路は、東海汽船の大型客船が東京・竹芝桟橋から毎日就航しています。竹芝を夜に出発し、三宅島・御蔵島を経由して10時間25分で八丈島に到着します。



## 八丈島海路の沿革

1910 (明治43) 年		東京湾汽船会社と八丈島有志代表浮田鉄吉氏、山田喜代吉氏が毎月1回以上の航海契約を結ぶ（芙蓉丸96トン）
1922 (大正11) 年	5月	八丈丸（345トン）三宅島・八丈島就航
1925 (大正14) 年	4月	八丈丸、三根沖で暴風雨のため遭難沈没（船員13名死亡）
1926 (昭和元年) 年	4月	三宅島・八丈島、東京府知事の命令航路となる
1930 (昭和5) 年	10月	東京から八丈島寄港、小笠原父島・母島に至る定期航路開始。主として桐丸（531トン）が就航
1941 (昭和16) 年		戦時下、桐丸の月6回の就航が萩丸月3回の就航になる
1945 (昭和20) 年		戦時下、4月16日東光丸撃沈される（約120名死亡）
1947 (昭和22) 年	6月	黒潮丸（496トン）東京-八丈島間就航
1948 (昭和23) 年	3月	第3旭丸、八丈島壺ヶ江港で遭難
1957 (昭和32) 年		東海汽船八丈島代理店を直営に切り替え、八丈島支店を設置
1965 (昭和40) 年	8月	神湊港底土岸壁完成、年間通して約90%の接岸が可能となる
1968 (昭和43) 年	10月	貨物船弥栄丸（330トン）三宅島・八丈島間に就航
1971 (昭和46) 年	6月	ふりいじあ丸（2,286トン）が就航
1978 (昭和53) 年	4月	すのれちあ丸（3,708トン）が就航
1983 (昭和58) 年	3月	ふじしま丸（149トン）八重根港入港
2002 (平成14) 年	5月	さるびあ丸（4,973トン）が就航
2012 (平成24) 年	2月	八重根港船客待合所供用開始
2014 (平成26) 年	6月	橘丸（5,681トン）が就航
2014 (平成26) 年	7月	神湊港（底土）船客待合所供用開始
2020 (令和2) 年	6月	さるびあ丸（3代目・6,099トン）が就航

## 八丈島空路の沿革

1953 (昭和28) 年		青木航空就航（不定期）
1954 (昭和29) 年	5月	飛行場開設、青木航空セスナ機就航
1955 (昭和30) 年	4月	日本ヘリコプター輸送（株）の双発機（11人乗）週2回就航
1956 (昭和31) 年		青木航空が日本遊覧航空と社名変更 日本ヘリコプター輸送（株）の双発機（11人乗）週4回就航
1957 (昭和32) 年	12月	日本ヘリコプター輸送（株）が全日本空輸（株）と社名変更
1958 (昭和33) 年	12月	八丈島空港（第3種空港）設置許可
1959 (昭和34) 年		日本遊覧航空のヘロン機（15人乗）が就航するようになり、初めて客室乗務員が乗るようになる
1960 (昭和35) 年	6月	全日空DC-3型機（30人乗）週2回就航 日本遊覧航空のヘロン機が名古屋へ就航 日本遊覧航空が藤田航空と社名変更
1961 (昭和36) 年	5月	八丈島空港供用開始
1962 (昭和37) 年	8月	藤田航空ヘロン機、八丈富士に激突（19名死亡）
1963 (昭和38) 年	11月	藤田航空、全日空と合併し、八丈空路は全日空の運行となり、フレンドシップ機（40人乗）就航
1969 (昭和44) 年	4月	YS-11型機（64人乗）就航
1972 (昭和47) 年	6月	滑走路延長1,200mから1,500mへ供用開始
1973 (昭和48) 年	3月	名古屋定期路線開始
1975 (昭和50) 年	12月	第2次拡張計画決定
1982 (昭和57) 年	4月	滑走路1,800m×45m供用開始 B737型機（126人乗）就航、ターミナルビル供用開始
1985 (昭和60) 年	5月	エア・ニッポンにYS-11型機路線移管 11月30日をもって名古屋定期路線休航
1988 (昭和63) 年	4月	エア・ニッポンにB737型機路線移管
1989 (平成元年) 年	8月	ヘリコプター第1回試験運行（8/12~8/19）
1993 (平成5) 年	7月	八丈島-東京間のジェット化促進
	7月	ヘリコプター-運航管理事務所及び格納庫完成
	8月	ヘリコプター-運航開始
2000 (平成12) 年	7月	B737-400型機（170人乗）就航
2004 (平成16) 年	10月	滑走路2,000m供用開始
2005 (平成17) 年	10月	エアバス320型機（166人乗）就航
	10月	大高経由便運行
	10月	大高経由便廃止
2009 (平成21) 年	10月	エア・ニッポン、全日空と合併し、八丈空路は全日空の運行となる
2012 (平成24) 年	4月	B737-800型機（166・167人乗）就航
2017 (平成29) 年	9月	特定有人国境離島地域社会維持交付金を利用した空路運賃低価格化が開始
2022 (令和4) 年	12月	AW139型機（9人乗）が就航



### 八丈島における 70年間漁獲量トップ10

魚種	累計漁獲量(トン)
トビウオ	37,510
ムロアジ	26,754
カツオ類	20,546
キンメダイ	8,442
メダイ	4,804
マグロ類	4,270
アオダイ	2,922
ハマダイ	1,856
カジキ類	1,746
ヒメダイ	702
総水揚量	130,120

※ 集計期間：S30～R5

## 漁業統計に見る八丈島の水産業

堀井 善弘 東京都産業労働局  
島しょ農林水産総合センター八丈事業所長

八丈島周辺の海は、海底火山に起因する複雑な海底地形が存在し、加えて、世界三大海流の一つである黒潮が流れているため、日本有数の好漁場となっています。この豊かな漁場を有している八丈島では、漁業活動が盛んで、伊豆諸島の島々の中でもトップクラスの水揚げを誇り、水産業は、島の経済を支える基幹産業として営まれています。

そこで、東京都が発行している統計資料『東京都の水産』を基に、八丈町における水産業の70年について振り返ってみます。

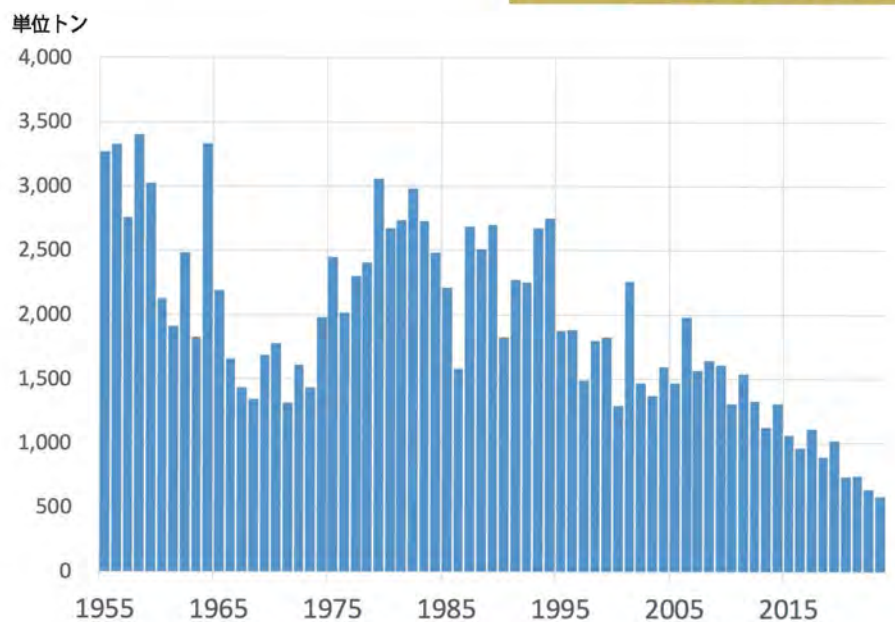


図1 八丈島における水揚量の推移

### 【八丈島における水揚量の推移】

八丈島では、豊かな海を背景に、春は春トビ、カツオ、初夏にはテングサやトコブシなどの磯根資源、夏から秋にかけてムロアジやアオダイ、冬にはマグロやカジ

キ類など、季節に応じた水産物を漁獲してきました。また、八丈島における水産物の水揚量は、昭和30年代には年間3,000トン前後、昭和50年代後半から平成初めに





ムロアジの水揚げ



水揚げされたカツオは樽に入れて出荷

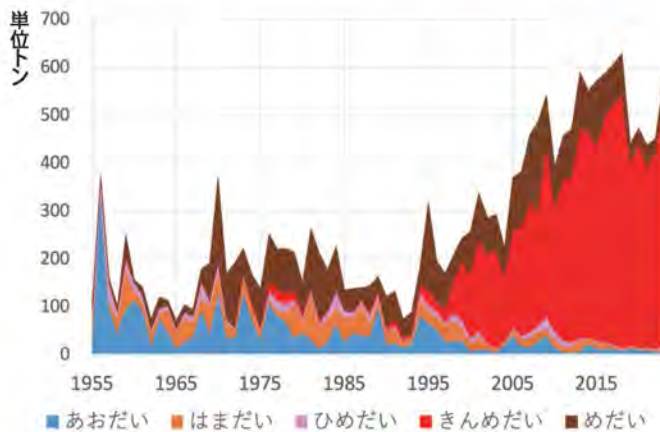


図3 底釣漁業の水揚量推移

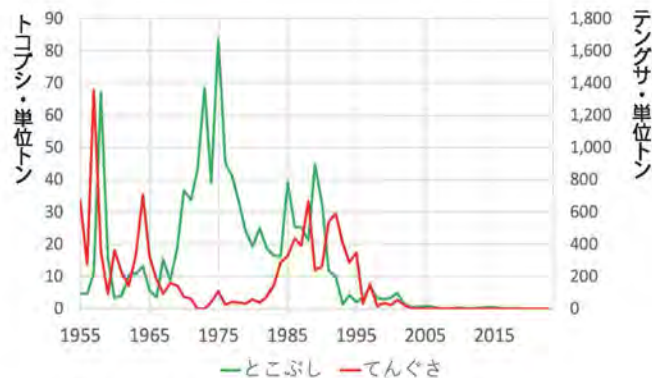


図4 トコブシ・テングサの水揚量推移

年代から棒受網漁業では、島内の加工可能量および島外への出荷可能量を勘案して、作業前に1隻当たりの漁獲制限を設けて作業するという先進的な取り組みが進められてきました。しかし、現在、加工業者の減少に加え、海洋環境の変化により水揚量は低い状態となっています。

一方で、春に作業するトビウオ漁の不漁に伴って、少ない人数でも作業できる曳縄(ひきなわ)漁法によって漁獲されるカツオが徐々に増加してきました。八丈島で水揚げされるカツオは、年の初めに獲れる初カツオで、曳縄漁法によって一本ずつ丁寧に漁獲され、船上での血抜き、さらには氷詰めした樽の中に頭を下にして市場に出荷するなど、漁獲から流通までの鮮度保持技術が確立され、『八丈樽カツオ』というブランドとして、数ある国内産地よりも高値で取引されていました。そのため、平成10年代までは、2月後半から5月上旬には、八丈島島内にある漁船のほぼ全船が、カツオの曳縄漁に出漁するという時代でもありました。

しかし、平成20年代に入り、日本の各産地でカツオの漁獲量が急激に落ち込む傾向があり、八丈島でも例外ではありませんでした。全国的な規模でカツオの不漁が続く中で、八丈島では、これまでアオダイやハマダイを漁獲するのに用いてきた底釣(そこぶり)漁法によるキンメダイが主流となっていきます。

#### 【底釣漁業での魚種変化】

底釣漁業は、一本の縄の先に対象魚種によって異なりますが10~50本の先端部に釣針を結んだ釣糸を等間隔に付けた漁具を投入して、海底付近にいる魚を漁獲する漁法です。この漁法は古くから八丈島で作業されており、昭和30年代には、水深80~120m前後に棲息するアオダイ(あおぜ)を中心に、水深200~300mに棲息するハマダイ(おなが)も漁獲していました。昭和40年代に入り、メダイの漁獲も多くなっています。さらに、平成10年代後半からは、水深500mよりも深いところに棲息し、資源量の多いキンメダイが漁獲対象となり、現在では、八丈島における年間水揚量の約6割前後を占める重要な魚種となっています。(図3)。

なお、底釣漁業での作業水深は、深くなる傾向にあり、キンメダイ漁業では、水深750m付近でも作業しています。全世界の漁船漁業における作業場所の平均水深は深くなっているとの報告もあり、八丈島における底釣漁業も、対象魚種の資源状態や漁船の性能や漁具・作業技術の向上により、同様の傾向を示しています。

#### 【磯根資源の漁獲動向】

かつては、八丈島の沿岸では、フクトコブシ(あぶき)やギンタカハマ(めつとう)、そして、テングサなどを漁獲する潜水漁業が実施されていました。50代を超える方々には、とても親しみのあった水産資源だと思

ます。

フクトコブシは、昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけて多く漁獲され、昭和50年には、年間で約83トンの水揚げが記録されていました。また、昭和60年代から平成の初めにも40トン前後の水揚げが2回記録されていましたが、その後急激に減少しており、現在の水揚量は数キロレベルとなっています(図4)。

また、寒天の原料となるテングサも昭和30年代、昭和60年代から平成初期には多く漁獲されており、島内各地にテングサ干しの風景が見られました。しかし、フクトコブシの水揚量から遅れて平成8年頃に急激に減少し、現在では水揚げがない状態になっています。

### 【海洋環境の変化と漁業】

令和6年7月30日に八丈島で観測史上最高気温となる35.5度を記録しました。かつては、八丈島では、ひと夏で30度を超える日が数日しかなかったのですが、最近では30度を超える日が連日続く状態となり、「地球温暖化」を肌で感じるようになってきました。実は、海の中でも温暖化ともとれる現象が起きています。

島しょ農林水産総合センターでは、神湊漁港にある堤防の先端に水温計を設置し、365日常時水温を観測しています。そこで、昭和30年以降の年間平均水温の推移を見てみますと、年によって増減があるものの、全体の傾向として1年に約100分の1度ずつ上昇しています(図5)。10年で0.1度というわずかな上昇ではありますが、かつて海藻が生えていたところでは、サンゴに置き換わるという現象もみられています。

また、日本の太平洋岸で漁業や海洋環境に大きな影響を与えている黒潮大蛇行は、令和6年8月現在で継続期間が8年目となり過去最長記録を更新し続けています。八丈島でも、黒潮大蛇行により八丈島近海の水温は平年よりも高い状態で推移しています。黒潮の北側と南側で水温や潮位(海面の高さ)、植物プランクトンの量などが大きく変わるため、黒潮の流れ方も八丈島周辺の海洋環境に大きな影響を与えています。さらに、海洋環境の変化は、そこに住む生物の分布にも影響を与えており、結果として、漁業対象種の変化にもつながっていると考えています。

このように、八丈島の水産業は、時代の変化に対応し、漁法や対象魚種を変えながら発展し、八丈島の経済を支えてきた産業です。また、クサヤなどの水産加工品や、八丈島漁協女性部による新たな加工品生産なども含めて、八丈島の豊かな食文化を育んできた産業とも言えるでしょう。八丈島の水産業がこれからも時代の潮流に柔軟に対応し、持続可能で力強い産業として営まれていくことを祈念するとともに、試験研究の面から下支えしていきたいと考えています。



1988年8月、末吉・洞輪沢漁港内に台風の波で切れた大量のテングサが流れ込み、同地区の漁業者約20人が岸壁や堤防から網ですくいあげた。この日は主婦も総出でテングサ干しに大忙し。出荷量は推定で4トンになった

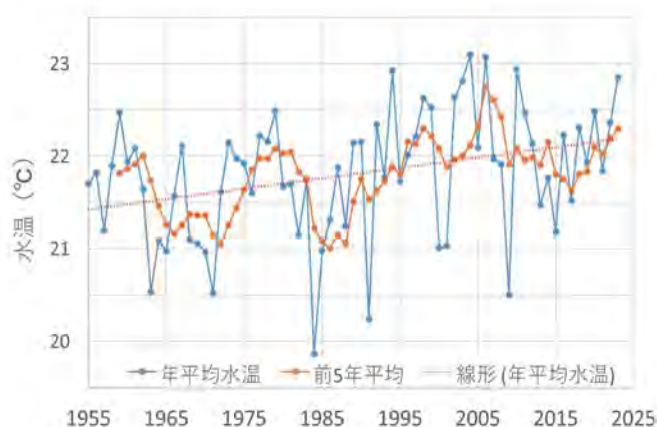


図5 神湊漁港定地水温(年平均)の推移



底土の海底に広がるサンゴの森  
(写真提供=レグルスダイビング・加藤昌一さん)

## 写真甲子園

# 3年連続本戦出場の快挙

歴代最多の全国604校の高校写真部がエントリーした「写真甲子園2024」。八丈高校写真部は3年連続で北海道東川町で開催された本戦大会に出場し、優勝、準優勝に続く、優秀校（5校）に選ばれた。高校球児があこがれる甲子園と同じように、毎年夏に開かれる本戦大会に出場することは容易ではない。八丈高校の3年連続出場の快挙は全国の高校写真部をはじめ、写真業界全体からも高く評価され、注目を集めた。

（取材・編集＝南海タイムス社）



## 写真＋言葉 異色のプレゼン

本戦大会出場までは長い道のり。初戦は5月、エントリーした全国の高校写真部・サークルが、共同制作による作品（6～8枚の組写真作品）を提出。審査委員によって全国11のブロック審査会へ進出する80校が選抜された。6月のブロック審査会は、初戦応募作品の制作意図やねらいをオンラインでプレゼンテーションする。本戦への出場枠は18校。八丈高校は10校が進出した東京ブロックで本戦出場の2枠に入り、3年連



本戦大会に出場した選手の沖山美唯沙さん（3年）、中川一瑠さん（2年）、後藤稲さん（1年）、そして監督の田崎公理主幹教諭（写真左から、学年は当時）

続3回目、本戦行きのチケットを手にした。

本戦大会は夏休み中の7月30日～8月2日。各校から選手3人と指導者1人の4人が出場できる。3日間で5回の撮影会が行われ、ファースト、ファイナルの2回の審査会で採点を行い順位が決まる。全参加チームが同一機材・同一条件での作品制作となり、撮影からセレクト（提出作品は8枚の組写真）までを3人1組のチームで行うため、総合力が問われる。

撮影会はクジ引きで決められたバスで移動。目的地を巡回するバスを途中乗降して撮影を行う。撮影後は2時間の「セレクト会議」で、大量の撮影データから8枚を選ぶ。この間の20分間だけ監督がアドバイスできるが、組写真の途中段階の感想やアドバイスは伝えら

## 写真甲子園とは

高校写真部やサークルに新しい活動の場や目的、そして出会い・交流の機会を提供しようと「写真甲子園」（全国高等学校写真選手権大会）が始まったのは1994年。高校生らしい創造性や感受性の育成と活動の向上をもって、学校生活の充実と特別活動の振興を図ることが目的。本戦大会は毎年夏に北海道の東川町で開催される。大会参加の交通費や宿泊費（ホームステイ）はすべて主催者が負担する。

れても、タイトルやプレゼンについて言及する時間はなく、作品の最終決定はすべて3人で行うことになる。

ファースト審査会に向けては、2カ所の撮影エリアを3人で一緒にまわって撮影した。撮影前から、迫力のある色を出そうと話し合い、カメラの設定も変えた。3人揃っていれば、良い被写体に出会ったとき、一人が被写体と会話しながら自然な表情を引き出し、他の2人が別々の構図で撮影するなどの役割分担ができる。提出した組写真のタイトルは「<sup>ともしび</sup>灯火」。印象的な「赤」を表現することができた。

ファイナルに向けての撮影会では、3人が別々に行動した。より多くの被写体に向き合う作戦だ。プレゼンのスタイルは各校とも違い、それぞれに特徴が出るが、八丈高校写真部のプレゼンは特に異色だった。3人それぞれが撮った写真から8枚をセレクトし、そこに中川さんが即興で紡ぎ出した言葉（詩）を乗せて、3人で推敲して仕上げる手法だ。バラバラに撮った写真なのに、あらかじめシナリオや伏線があって、意図的に撮影したような印象を与える。写真だけではなく、総合的な表現力が評価され、2022年に続いて2回目の優秀校に選ばれた。

3人にとって本大会の本戦大会の1週間は忘れられないものになった。特に全国から集まった同世代の写真部員との交流は、島にいただけでは得難い経験で、視野が広がった。審査会で発表された他校の作品も刺激的で、「モノクロの写真なのに表現が豊かで、色がない分、吸い寄せられた」「写真のコントラストや深みのある印影など、技術力がすごい」と影響を受けた。また、選手の緊張をほぐそうと声をかけてくれる大会スタッフや関係者、被写体として快くリクエストに応じてくれた現地の人たちの温かさにも感動した。

3年連続で出場した田崎監督は「本戦は素晴らしい舞台。実際にその場に立った人にしかわからない経験で、私も含めて、生徒の人生にとって大きな意味を持つ時間でした。そんな大会を運営してくださっている方々に心から感謝しています」と話している。



## ファースト公開審査提出作品「灯火」

生命の灯火、そう表現されることがある。

それらはどの瞬間、人物、空間、  
すべてに存在している。  
なのに、いつも気づかない。  
それらを見つけて、初めて感じるようになる。

ころころ変化する表情、  
あの時の視線、

見えやすい所にしかないと思うかもしれない。  
しかし、もっと無数に存在している。

その掴む手も、進む足も  
灯火の温かさに溢れているというのに。



## ファイナル公開審査提出作品「編む」

ねえ、覚えてる？あの日のこと。

大好きだったおばあちゃんの温かさ。  
風薫る今朝の百合の花。

それが織りなす波が私に届く。

きっとこのことも、いつかは忘れて  
楽しいことも悲しいことも無くなってしまおうのだろう。  
そしてどうしようもなく寂しくなってしまう。

でもあの瞬間は嘘ではない。  
だから今この場所で、もう一度。

ファイナルの1枚には、前年本戦で被写体  
にしていた赤ちゃんが偶然写っていた。大会公式ホ  
ームページに作品が紹介されて、家族から大会本  
部に「写真がほしい」と連絡があり、初めて気付  
いたという。連続出場したからこそその縁。「だから  
今この場所で、もう一度。」プレゼンの最後のフ  
レーズが再会を予期していたかのようにも…。

本戦に出場した全校の写真がご覧になれます。  
写真甲子園公式ホームページ <https://syakou.jp/>



## ブロック審査「世界に触れたい」

写真はいつだって私と世界を結びつける。

私が見る世界とあなたが見る世界。  
昨日の景色、今日の景色。  
私たちは同じものを見ていると思っている。  
けれど、同じ世界はどこに行っても  
どこを探しても見当たらない。

雨の日の明け方、骨にこたえるほど香るストレチアの花。  
秋露が滴る森林の中で樹木が蠢く鼓動、  
木々のくぐもった質感。  
秋晴れの夕映えの空に駆け出し、宙を舞う浮遊感。  
堤防で屹立する高波の前で、膝が震える感覚。  
溶けだしてしまうほど柔らかく、  
私をやさしく包み込む海の肌触り。

目に見えていた世界をつかまえたくて、  
記憶の中の景色を追いかけたくて、言葉にしてみても、  
その瞬間に大切なものがこぼれ落ちる。

カメラのファインダー越しに見える景色は、  
プリントで映し出されるその世界は、  
色鮮やかでどこか幽玄で少しまがましい。  
だけど私の目には現実世界よりも現実に見える。

写真は記憶を補完する。  
それは私の中で忘れかけていた身体感覚を蘇らせる。  
写真は記憶を共有する。  
それはあなたの見ていた世界が目の前に現れる。

だから私は写真を撮る。  
もっと世界に触れたくて。

## 「運のいい人になって」

写真甲子園の戦いは前年の12月ごろから始まる。全部員で来年のコンテストへ向けて漠然とテーマを話し合い、撮影に入る。3月には大枠のストーリーを決定し、各部員が撮った渾身の1枚を選出する。エントリー締め切りの5月下旬を目標に、4月からは本格的に組写真作成をスタート。ゴールデンウィークは毎日撮影にあて、テーマの確定、プレゼン原稿の作成も開始する。連休明けは不足写真の撮影、組写真調整、選出写真のレタッチ、印刷、プレゼン原稿推敲といった作業を応募直前まで繰り返す。

部の発足当初はテーマや対象を最初に決めて撮影し、作品に仕上げるスタイルでやっていたが、直近3年間は日常的に撮影した写真の中からこれはというものを集めて、後からテーマを作っていくパターンになってきた。結果としてこちらのほうが、八高写真部には合っているようだ。

ここ数年は島内でも八高写真部の認知度が高まり、島民から声をかけられる機会も増え、相乗的に部員の「やる気」も高まった。大会が近づくと部員以外の生徒や地域の人にモデルを頼むこともあるが、多くの人が協力的で以前より抵抗なく応じてくれるようになった。部員と地域の人たちが一緒に楽しみながら盛り上がっていく雰囲気が出来てきた。ゴールデンウィー

クには写真甲子園を経験した卒業生が島へ帰ってきて、後輩たちをバックアップしてくれるのも恒例になった。

本戦に出る3人は初戦作品を応募するときに決める。選考基準は「情熱を持ち続けながら作品を制作してきたか」。部員数が多い高校ではこの選抜に苦労するが、幸い部員数が少なく、3年生にとっては夏休みは大事な時期で、個々の都合もあったりするので、これまではずんなりと3人を決めることができた。

「いくら技術があっても運がよくないと本戦大会にはいけない」と田崎教諭はいう。だから、生徒には「運がいい人になって」と、繰り返し伝えてきた。それは、漫然とただ幸運を待つことではない。運を良くするために行動量を最大化し、できることは主体的にすべてやって、運をたぐりよせる。人格を磨き続け、これからの人生をいかに幸せに生きるかについて探究してほしいという願いを込めてだ。

## はじめは「写真同盟」

八丈高校写真部が写真甲子園への挑戦を始めたのは2018年から。その年に赴任してきた田崎教諭が、担任した1年生のクラスで写真甲子園の話をしたのがきっかけだ。4月の終わり、何人かの生徒が興味を示し、とにかく応募してみようということになった。当時、八丈高校に写真部があったわけではなく、生徒有志の「写真同盟」として参加した。

ブロック大会の締め切り（5月18日）まで時間がなかった。撮影場所を「めゆ工房」に決め、2回の撮影会



を行った。現場で一眼レフカメラの使い方を講習しながら、いきなり本番の撮影だ。田崎教諭は「アングルや構図を気にするより、ふっと心が揺れたときにシャッターを押すのが大事」と伝えた。

組写真は撮ること以上に、選ぶことが難しい。8枚をどう選ぶかで物語はいくらでも表情が変わるからだ。幸い直感で選ぶのが得意な生徒がいた。写真を上手くプリントしたりレイアウトする技術はなかったのだから、撮ったままの写真を提出したが、逆に素直な感じが出せたのがよかった。

この年の写真甲子園には全国から513校がエントリー。東京ブロックには44校が応募し、5校がブロック審査会に残ったが、八丈高校もその1校だった。6月9日、東京港区での審査会には生徒3人が出場し、初めてプレゼンの場を経験した。本戦へは進めなかったが、ここで他校の作品やプレゼンを目の当たりにして、大きな刺激と衝撃を受けた。それが、今につながった。

それからも挑戦を続けたが、ブロック大会の壁は厚く、本戦には届かない。田崎教諭にとっても前任校（都立橋高校）時代の3年間を合わせて、ブロック予選落ちが7年続いた。「自分の力では本戦は無理かな」と感じた2年前の2022年、選抜枠での本戦出場が決まった。「それまでは無意識でもどういう作品が評価されるかを考えてきました。あきらめて生徒に全部託そう、八高生だからこそ撮れる島の写真を楽しんで撮れば力と力が抜けた時でした」と田崎教諭。



八高写真部は3年連続の写真甲子園本戦出場という実績で、全国の高校写真部、写真業界からも注目される存在になった。大手カメラメーカーから新しい機材が提供されたり、写真雑誌やネット媒体で取り上げられることも増えた。地元在住の写真家の話を聞いたり、プロのカメラマンがわざわざ島に来て指導してくれる機会にも恵まれた。

部活動はコンテストが近づくと毎日行すが、通常は週に2〜3日。学校から行事の撮影やSNSに使う写真を撮ってほしいという依頼も増え、実践で部員が経験

を積み、技術を磨く機会も得ている。使うカメラは基本的に生徒自身のものだが、メーカーからの提供機材もあり、全部員が使える台数のミラーレス一眼レフは揃っている。

写真部には毎年数人がコンスタントに入部するようになり、部員数は1〜3年生を合わせて10人前後を維持している。卒業生には写真の道を志して進学する生徒もいる。2024年夏には、「八高写真部に入って活動するために、離島留学制度を使って島へ来たい」と希望する島外の中학생も現れた。

## 銀座エプサイトギャラリーでコラボ写真展



2024年11月29日から12月26日まで、有楽町の銀座エプサイトギャラリーで、人気YouTuber・ゆ〜とびさんと八丈高校写真部のコラボ写真展が開かれた。写真雑誌『CAPA』の人気企画「高校写真部応援プロジェクト」の一環。ゆ〜とびさんが八丈高校へ指導に訪れた際に撮り下ろした作品と、八高写真部員の新作が展示され、多くの来場者に、写真を通して八丈島の魅力を伝えた。

会場には一般来場者にまじり、八丈出身の在京者、写真家や著名人、そして写真甲子園で切磋琢磨した他校の生徒も見学に訪れ、写真を通して島の空気を感じとっていた。「八丈島に行ってみたくなった」という感想も多かった。

12月14日には、八丈高校写真部員が揃って上京し会場を訪問。集まった写真部OBらと、大判サイズにプリントされた大迫力の写真に見入りながら、感動をかみしめていた。





# 歴代町長と在任期間



初代町長  
小宮山 俊一郎

在任期間  
1955年4月～1962年10月



第2代  
池田 要太

在任期間  
1962年10月～1969年1月



第3代  
峯元 清次

在任期間  
1969年2月～1977年1月



第4代  
奥山 日出男

在任期間  
1977年2月～1997年1月



第5代  
笹本 直衛

在任期間  
1997年2月～2001年1月



第6代  
浅沼 道德

在任期間  
2001年2月～2011年8月



第7代  
山下 奉也

在任期間  
2011年9月～

## ◎ 町長選

執行日、当選者名、立候補者数、  
有権者数、投票率(%)

執行日	当選者名	立候補者数	有権者数	投票率(%)
1958年10月18日	小宮山 俊一郎	3	6,837	92.56
1962年10月19日	池田 要太	2	6,966	92.13
1966年10月7日	池田 要太	1	6,822	無投票
1969年1月31日	峯元 清次	2	6,899	86.93
1973年1月19日	峯元 清次	2	7,353	87.61
1977年1月21日	奥山 日出男	2	7,396	86.68
1981年1月23日	奥山 日出男	2	7,499	81.29
1985年1月22日	奥山 日出男	1	7,415	無投票
1989年1月25日	奥山 日出男	2	7,351	74.41
1993年1月12日	奥山 日出男	2	7,269	84.99
1997年1月12日	笹本 直衛	2	7,477	83.98
2001年1月14日	浅沼 道德	2	7,516	85.68
2005年1月16日	浅沼 道德	2	7,393	76.06
2009年1月25日	浅沼 道德	2	7,073	74.08
2011年9月25日	山下 奉也	2	6,858	77.06
2015年9月13日	山下 奉也	1	6,598	無投票
2019年9月15日	山下 奉也	1	6,268	無投票
2023年9月17日	山下 奉也	3	5,882	63.97

# 町議会議員定数

## 26人から12人へ

町議会議員選挙は本選挙が17回、再選挙が1回、補欠選挙(定数減などで町長選に合わせて実施される)が4回執行されています。1967年の再選挙は前年の町議選で選挙違反があり、当選議員8人の失格が確定したために行われました。

町議選で大きく変わってきたのが議員定数です。第1回選挙時の26人から、現在は12人と半数以下になっています。

1970年10月の町議選では定数が一挙に6人削減され、20人となりました。大幅な定数削減は町民の間で議論を呼びました。同年8月9日付の南海タイムスでは「20議席の波紋どう響く」との見出しで、2カ月後の町議選を展望しています。定数削減への反対意見では「ポスト化のおそれがある」「新人育成の場がない」「民意の反映には多い方がよい」などの声がありました。一方、賛成意見では「人口が1万人を割ろうとしており、議員もそれに見合う数に」「少数精鋭主義でいくべき」「歳費がうく」「親戚票だけで当選できなくなる」などの

声が掲載されています。この年の町議選は、定数20議席に32人が立候補する大激戦となり、現職16人、元職3人、新人1人が当選しました。

その後も1986年10月に4人減、2006年10月に2人減と定数削減が行われました。2018年10月の選挙では、定数14人に対して立候補者も14人で、町議選史上初の無投票選挙となりました。2022年10月には定数が2人減り、現在の12人になりました。



1994年の町議会議員選挙までは立候補者が選挙期間中に500枚までポスターを貼ることができ、島のあちこちが立候補者のポスターで埋め尽くされた。1997年9月に新たに条例が制定され、それ以降は、町長選、町議選ともにポスターの掲示は町が設置した掲示板(島内24カ所)などに制限されている

### ◎ 町議選

執行日、定数、立候補者数、有権者数、投票率(%)、備考(再選挙・補欠選挙)

執行日	定数	立候補者数	有権者数	投票率(%)	備考
1958年10月18日	26	34	6,837	92.56	
1962年10月19日	26	32	6,966	92.13	
1966年10月7日	26	28	6,822	91.95	
1967年5月19日	8	11	6,734	83.37	再選挙
1969年1月31日	2	3	6,899	86.93	補欠選挙
1970年10月8日	20	32	7,013	89.83	
1974年10月8日	20	23	7,405	89.06	
1978年10月5日	20	26	7,435	91.67	
1981年1月23日	1	2	7,499	81.29	補欠選挙
1982年10月5日	20	21	7,475	88.31	
1985年1月22日	2	3	7,415	59.22	補欠選挙
1986年10月1日	16	18	7,419	88.91	
1990年10月4日	16	18	7,304	87.25	
1994年10月4日	16	20	7,337	89.57	
1998年10月4日	16	18	7,487	85.80	
2002年10月20日	16	18	7,483	84.85	
2006年10月15日	14	17	7,247	82.02	
2010年10月17日	14	16	6,902	80.24	
2014年10月19日	14	17	6,624	78.67	
2018年10月14日	14	14	6,360	無投票	
2019年9月15日	1	1	6,268	無投票	補欠選挙
2022年10月16日	12	15	5,970	67.57	

## 名誉町民

八丈町出身者および、八丈町の関係者で、広く社会文化の興隆に功績のあった人を名誉町民として、その功績と榮譽をたたえるものです。



菊池 民一

1969年12月18日選定

1933年、東京市会議員当選以来、一貫して都政発展のために尽力されました。特に、恵まれない離島の窮状を訴え、島嶼の産業開発ならびに経済活動の強化に精進し、1951年には高潔なる人格と豊かな政治経験により、東京都議会議長に就任、多大の貢献をされました。(1887年7月13日～1974年9月7日)



團 伊玖磨

1973年9月28日選定

国際的に著名な作曲家で1963年6月から八丈島に別邸を構え、優れた作品を多く作曲されました。文筆においても随筆集「パイプのけむり」を著すなど、その幅広い芸術活動により、数々の権威ある賞を受けられ、1973年12月、芸術院会員に選出されました。毎夏、一流の声楽家、コーラスグループ、演奏家を八丈島に招いてコンサートを開き、町民をはじめ観光客の方々に深く敬愛されました。(1924年4月7日～2001年5月17日)



菊池 義郎

1973年9月28日選定

1947年初当選以来、衆議院議員当選8回の実績が示すとおり長く国政に従事されました。開発途上国の発展に尽くし、国内においては離島問題に心血を注ぎ、離島振興法を成立させるなど、全国離島の経済文化の興隆に尽くされ、今日の発展に大きく寄与されました。(1890年4月10日～1990年2月4日)



### 團伊玖磨生誕100年記念「筑後川」IN 八丈島 2024

2024年9月29日、八丈町多目的ホールおじゃれで、町制施行70周年記念事業の一環として「團伊玖磨生誕100年記念「筑後川」IN 八丈島 2024」が開催されました。島内外の合唱団や合唱愛好家約120人が團先生の混声合唱組曲「筑後川」(1968年)を大合唱しました。

# 町のシンボル



## 町の紋章

この紋章は「躍進八丈」の意義を表現しています。八丈の文字をそのまま鳥形に意匠することにより、八丈が希求する永遠の平和と未来永劫やむことなき進展とを象徴したものです。1957（昭和32）年10月制定。

島内外に積極的にPRし、町の産業振興緑化推進及び自然保護等に努めるため、一般公募による以下①～④のシンボルが1974（昭和49）年11月24日に決定、同26日に行われた町制施行20周年記念式典において発表されました。

### ①町の鳥／アカコッコ

ツグミの一種で伊豆諸島とトカラ列島だけに生息します。翼長平均12センチほどの小鳥で、広葉樹林などに巣を作り昆虫や木の実などを好んで食べます。

### ②町の花／ストレチア

南アフリカ喜望峰が原産地で学名はストレチア・レギネ。ばしょう科に属し、花は葉のつけねから極めて優美華麗な長い花茎を出し、その形から“極楽鳥花”とも呼ばれます。

### ③町の木／フェニックス・ロベレニー

和名は“シンノウヤシ”で、原産はインドシナ。八丈島では大正10年に雌雄2本の移入からはじまり、太平洋戦争で一時中断するも、戦後、花き園芸が復興するなかで、文字通り「不死鳥」のようによみがえり、世界でも有数の栽培地となりました。

### ④町の魚／ハマトビウオ

八丈島では「ハルトビ」と呼ばれ、ハルトビ漁は明治時代から盛んに行われ、羽根のあるおめでたい魚とされてきました。ハルトビは鮮魚のほか、塩干し、くさや、燻製などに加工され、土産品として珍重されています。春先になると、産卵のため伊豆諸島南方から島伝いに北上することから、別名「春告魚」ともいわれています。



## 交流



### ①姉妹都市／ ハワイ州・マウイ郡

かつて日本のハワイと呼ばれた八丈町は、気候風土や基幹産業など、共通点の多い島同士として1964（昭和39）年8月10日にマウイ島においてマウイ郡と姉妹都市提携の調印式を行いました。

### ②姉妹島／沖縄県南大東島


1900（明治33）年に八丈島民が開拓を開始した南大東島とは1982（昭和57）年1月23日に姉妹島提携を結びました。

1月23日は八丈島からの開拓者が上陸の一步を印した記念日で、南大東島には八丈島にゆかりのあるものが多く残っています。

### ③友好都市／ 東京都小笠原村

小笠原諸島返還記念日の1988（昭和63）年6月26日に八丈町と小笠原村とが友好都市提携を結びました。

毎年6月には八丈町からの小笠原親善訪問が行われています。



## 「ともに支えあうあたたかい町」

基本構想に掲げた八丈町の将来像は「ともに支えあうあたたかい町」です。世代、性別、思想などの多様性を尊重し、町民、地域、企業や団体、行政が協働することで、相互の知恵を結集し、新たなまちの魅力や価値を共に創りあげる「共創」の未来を目指します。

## 八丈町基本構想（令和3年度～12年度）

### まちづくりの基本方向

八丈町民憲章に基づき、「住民が主役の町」、「島を生かす町」、「歴史と文化を生かす町」、「クリーンアイランドを目指す町」の4つの柱をまちづくりの基本方向として掲げ、豊かな地域社会の実現を目指すため、「持続可能な開発目標」の考え方を取り入れました。

#### ● 住民が主役の町

私たち町民は、文化、福祉、環境などの様ざまな活動に対して、活発に参加してきました。住民の主体的な活動は、これからのまちづくりにおいてもその中心に位置付けられるものです。

#### ● 島を生かす町

八丈島の先人たちは、古くからこの広大な太平洋の領域に雄飛し、山や森や海の恵みを、暮らしの豊かさに変えてきました。島の魅力を生かすことは、八丈町の未来を照らすことに繋がります。

#### ● 歴史と文化を生かす町

八丈島の各地に残る遺跡、伝承されてきた歴史、有形無形の文化は、全て私たち町民のかけがえのない財産です。これらの歴史と文化の探求は、八丈島の貴重な財産としての価値を一層高め、八丈町の発展に繋がっていきます。

#### ● クリーンアイランドを目指す町

八丈島の美しい自然環境や景観は、町民や八丈島を訪れた人の心と体を癒すだけでなく、自然エネルギーとして無限の恩恵をもたらす可能性を秘めています。また、自然環境の保護と活用や、環境負荷の低減は、町民の暮らしの豊かさを育むものです。

# 島周辺の海に回遊

## ザトウクジラ

2015年冬、八丈島の海岸からブロー（潮吹き）やブリーチ（ジャンプ）を行うザトウクジラの群れが相次いで目撃され、SNSには目撃写真や動画がアップされました。八丈島のザトウクジラはテレビ報道でも取り上げられ、「陸上からクジラが見える島」として大きな話題になりました。

八丈島周辺を回遊するザトウクジラが「どこから来たのか」「どんな個体なのか」を解明するために2016年度から八丈町、八丈島観光協会、そして東京海洋大学が協力し、生態調査を続けています。回遊頭数や群れの構成、個体識別のための写真撮影などのサンプル数を積み重ねることで、環境条件と来遊傾向の関連性、八丈島周辺にザトウクジラが来遊する要因や目的などの解明につながることを期待されています。

八丈島では毎年11月下旬から4月上旬のシーズンになれば、高台や海岸から手軽にザトウクジラを見たり写真や動画に収めたりすることができます。大海原を見渡せる末吉の「みはらしの湯」の露天風呂や、中之郷藍ヶ江の「足湯きらめぎ」からは、湯につかりながらの贅沢なホエールウォッチングが楽しめます。また、シ

ーズン中は島内の海岸付近6カ所に設置したライブカメラの映像でその姿を確認できることもあります。

民間の事業では漁船の上から大迫力のザトウクジラを間近で観察できる「ホエールウォッチングツアー」、陸上の観察ポイントをバスで巡る「八丈島クジラバスツアー」も立ち上がるなど、八丈島の冬の新たな観光資源として注目されています。



ザトウクジラは北半球にも南半球にも生息し、地域ごとに集団を形成する。北半球では、夏にカムチャツカ沖などでオキアミや小魚などを大量に捕食。冬はハワイや沖縄・小笠原など、温かい海域に移動して、求愛、交尾、出産など繁殖活動に専念し、春になると再び、極方向に回遊する。体長12~14m、体重25~30t。ブリーチングとよばれる大きなジャンプや、胸びれ、尾びれで水面を打つスラップなど、多様な行動が特徴。妊娠期間は11カ月で、出産サイクルは2年に1回以上。平均寿命は30~40年

● 協力=八丈島観光協会・東京海洋大学鯨類学研究室

# 八丈小島が最北限の繁殖地に クロアシアホウドリ



全長 68~74<sup>キロ</sup>、体重 3~4<sup>キロ</sup>、翼長 2<sup>メートル</sup>ほど。夏季はベーリング海やアラスカ湾、アリューシャン列島周辺に渡り、冬季はハワイ諸島、マーシャル諸島などで繁殖する。日本では釧路(むこ)島列島、鳥島、尖閣諸島で繁殖が確認されている。夏は海の上で生活し、子育てを行う11月頃に繁殖地に戻る。1回の産卵で産む卵は1つ。親鳥は交替で子守りと餌とりを行い、5月中旬にヒナを残して営巣地を飛び立つ。それから約1カ月間、ヒナは飲まず食わずで体重を減らし、3<sup>キロ</sup>を切る頃に巣立ちする。若鳥は数年は海上で暮らし、次に陸に降り立つのは繁殖準備を始める5~7歳の頃

八丈小島・鳥打で30羽ほどのクロアシアホウドリの群れが確認されたのは2013年4月のことです。4年後の2016~2017年のシーズンには3羽がふ化、2羽が巣立ちました。初の「小島生まれのヒナ」の誕生により、八丈小島は世界最北の繁殖地となりました。以降、産卵数、巣立ち数ともに順調に増加しています。

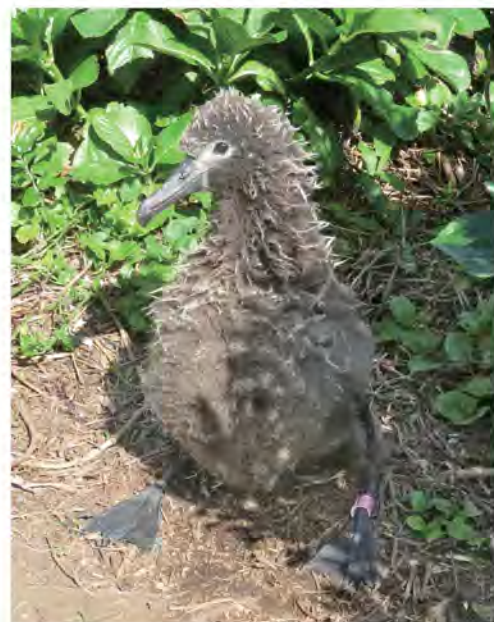
無人島であり、伊豆諸島で唯一、イタチやヘビがいないことなどに加えて、クロアシアホウドリが八丈小島を繁殖地を選んだ要因の一つが、八丈町が実施したノヤギの捕獲事業でした。2001年度から7年間で1,137頭を捕獲し、八丈小島のノヤギが根絶されました。それにより小島全域の植生が回復したことで、海鳥の繁殖地としての良好な環境条件が整いました。

クロアシアホウドリが初めて飛来した2013年当初から地道に保護研究活動が続けてきたのが、専門研究者と地元有志からなる伊豆諸島自然史研究会です。環境省グリーンワーカー事業による継続したモニタリング調査に加え、2023年からは山階鳥類研究所の協力を得て、繁殖生態研究として巣立ちの成否、その後の移動や帰還などを調査する目的で、ヒナに足環を装着する事業も行われています。

猛禽類やカラスによる襲撃被害があったり、また、最近では飛来数が増えたことで営巣地が混み合うなどマイナス要因もありますが、2023~2024シーズンには

115羽の巣立ちが確認されました。

鳥島など他の繁殖地は人間が簡単に訪れることができず。その点、八丈小島はアクセスが容易で、将来的に繁殖が安定すれば環境教育やエコツーリズムの分野でも活用できると期待されています。



2023、2024年の4月、各60羽のヒナに足環を装着した

協力||伊豆諸島自然史研究会 写真提供||森由香さん



## 八丈島文化フェスティバルに 2年連続で作品展示

ザトウクジラの回遊、そしてクロアシアホウドリの飛来は、島に暮らす私たちにとって予期せぬできごとで、町民の受け止め方もさまざまでした。八丈島文化協会が主催する「八丈島文化フェスティバル」の作品展部門に、このできごとを題材にした「とりがあ」の企画作品が2年続けて発表されました。

第34回文化フェスティバル作品展部門（2024年1月19～21日開催）には、プラスチックや発泡スチロールなどの海洋ごみを持ち寄って、大きなキャンパスの下絵に貼り付けて制作したザトウクジラの絵が登場しました。背景の彩色には、家庭で不用になった絵の具などが使われました。会場を訪れた人が、さらに海洋ごみを貼り付けたり、名前やメッセージ、感想などを書き込むことで完成する作品でした。

企画したメンバーが「とりがあ」のタイトルに込めたのは「作った人、見た人の行動のきっかけに」という思

いでした。展示に共感した来場者がSNSなどで拡散して大きな反響を呼んだことから、翌週に開催された「八丈島産業祭」（1月27、28日）の会場にも、引き続き同作品が展示されました。

翌年度の第35回作品展部門（2024年10月26、27日）にも、「とりがあ」の作品が展示されました。新たに選ばれたテーマはクロアシアホウドリ。「素材はなるべく買わない」という条件で、企画に賛同した人がそれぞれに作品を制作しました。絡まり合ったロープや網をほどいたもの、家庭内にたまった結束バンドを材料にしたアホウドリが展示され、その下では海ごみの中で、アホウドリのヒナが育つ様子も表現されました。

ザトウクジラやクロアシアホウドリが手が届くほど身近な距離に存在するという日常は10年前には想像できないことでした。自然のダイナミックな営みがもたらしてくれた新しい出会いです。



前年のザトウクジラに続いて海洋プラスチックごみを使ったクロアシアホウドリのシルエット作品も展示された

八丈町町制施行 70 周年  
温泉事業 30 周年

# 愛されて 30年

八丈町は令和 7 年 4 月に町制施行 70 周年を、  
令和 6 年 10 月に温泉事業 30 周年を迎えます。  
これを記念いたしまして、  
島民のみなさまに温泉利用優待券を広報 10 月号にてお配りします。  
ぜひこの機会にご利用いただき、八丈島温泉の魅力をお楽しみください。

八丈町町制施行 70 周年  
温泉事業 30 周年を記念したポスター



やすらぎの湯

裏見ヶ滝温泉

洞輪沢温泉

ふれあいの湯

みはらしの湯

足湯きらめき

東京都八丈町



町制施行 70 周年

# 個性派ぞろい、八丈島温泉郷

1989年に八丈島内でNEDO（新エネルギー産業技術総合開発機構）による地熱開発促進調査がスタートしました。1992年には三原山南部地域で有望な地熱貯留槽層が確認されました。翌年、八丈町が掘削した榎立向里、中之郷尾越で温泉の湧出が確認され、本格的な温泉開発事業に着手しました。

1994年10月、最初にオープンしたのが榎立向里温泉「ふれあいの湯」です。その後、中之郷温泉「やすらぎの湯」（1995年4月）、「ブルーポート・スバザ・BOON」（1996年4月）、末吉温泉「みはらしの湯」（1998年8月）と、事業を拡大しました。

泉質は基本的にナトリウム・塩化物温泉ですが、お湯の色（透明度）や肌触りは各温泉で微妙に違います。また、立地場所もさまざまで、海辺の高台の露天風呂からはザトウクジラが泳ぐ太平洋の雄大な展望が、緑に囲まれた峡谷の露天風呂からは野趣溢れる滝の流れや水音が満喫できます。それぞれ異なる魅力を楽しめる個性派ぞろいの「八丈島温泉郷」は、町民の健康増進、癒しスポットとしてだけでなく、八丈島の観光にとってもなくてはならない存在です。

町の温泉事業が2024年10月で30周年を迎え、また、利用者数が450万人を突破したことを記念して、町民のみなさまに温泉利用優待券を配布させていただきました。これからも町民や観光客に愛される島の温泉を守り、発展させていきます。

# 心と体を癒やす地球の恵み 温泉



**標立向里温泉スタンド**  
 標立向里温泉・ふれあいの湯・ふれあいの湯だんらん

**A**

至大賀郷 都道215号線 至中之郷  
 大坂トンネル 教職員住宅 標立温泉前 三島神社

**A** 標立向里温泉スタンド  
 標立向里温泉(ふれあいの湯・ふれあいの湯だんらん)

至標立 中之郷 都道215号線 至末吉  
 裏見ヶ滝遊歩道 中之郷尾越温泉スタンド **E**  
**B** 中之郷温泉・やすらぎの湯 **C** 裏見ヶ滝温泉  
**D** 足湯きらめき 藍ヶ江港

**B** 中之郷温泉 (やすらぎの湯)

**C** 裏見ヶ滝温泉 **D** 足湯きらめき

※男女混浴のため水着着用  
 ※せっけん・シャンプー使用不可  
**E** 中之郷尾越温泉スタンド

洞輪沢温泉 **G** 洞輪沢漁港 至中之郷 都道215号線 **F** 末吉温泉・みはらしの湯 八丈島灯台

**F** 末吉温泉 (みはらしの湯) **G** 洞輪沢温泉

※せっけん・シャンプー使用不可

詳しくは八丈町HPをご覧ください。

# はちじょう 2024 資料編



データで見る「はちじょう」

## ■地勢

		八丈島	八丈小島	その他岩礁等	八丈町
面積		69.11km <sup>2</sup>	3.07km <sup>2</sup>	0.06km <sup>2</sup>	72.24km <sup>2</sup>
位置	北緯	33°06'46"	33°7'32"		
	東経	139°47'21"	139°41'18"		

※面積：令和6年全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院)を基に八丈町が作成

※位置：市区町村の役所・役場及び東西南北端点の経度緯度(国土地理院)、地理院地図(国土地理院)を基に八丈町が作成

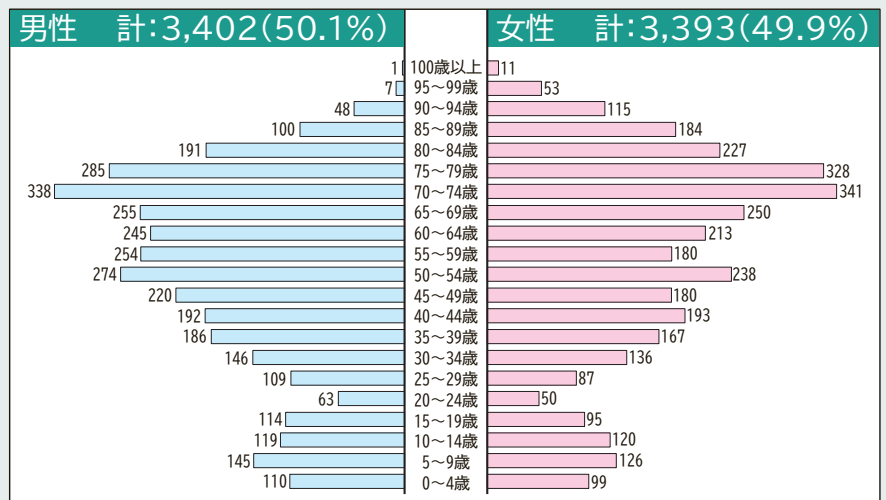
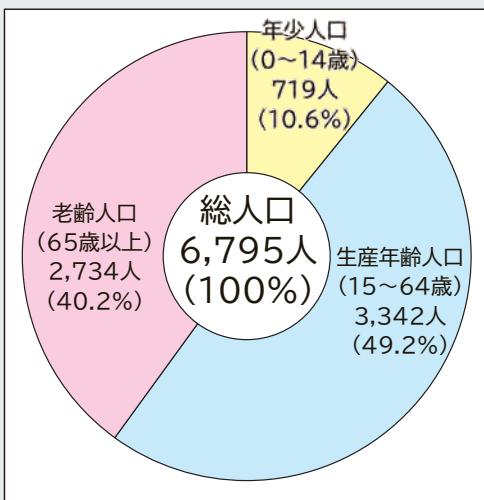
## ■気象概況(1991年1月1日～2020年12月31日の30年間平均)

主要気象		八丈町	東京
気温(℃)	年平均	18.0	15.8
	最寒月平均	1月 10.1	1月 5.4
	最暖月平均	8月 26.5	8月 26.9
	日最高気温の最暖月平均	8月 29.6	8月 31.3
	日最低気温の最寒月平均	2月 7.4	1月 1.2
年降水量(mm)		3,306.6	1,598.2
年日照時間(時間)		1,445.0	1,926.7
年平均湿度(%)		79	65
年強風日数	(10m/s以上)	112.4	16.3
	(15m/s以上)	16.3	0.4

※過去の気象データ(気象庁)を基に八丈町が作成

※年強風日数において、10m/s以上の日数は15m/s以上の日数を含む

## ■年齢別人口構成(2024年4月1日 住民基本台帳)

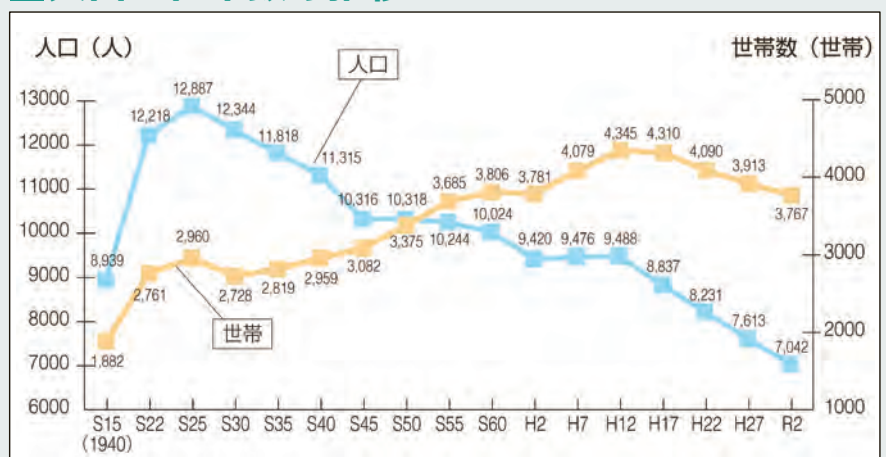


## ■地域別世帯数と人口

(2024年4月1日 住民基本台帳)

	世帯数	人口
三根	1,950世帯	3,304人
大賀郷	1,339世帯	2,237人
檜立	260世帯	439人
中之郷	343世帯	582人
未吉	160世帯	233人
計	4,052世帯	6,795人
八丈町における外国人人口		123人

## ■人口・世帯数の推移



※国勢調査を基に八丈町が作成

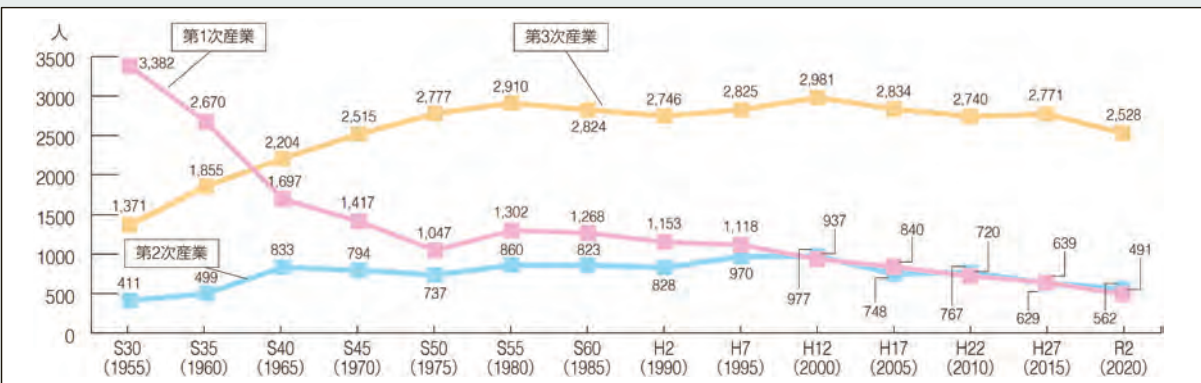
## 産業別就業者数

※令和2年国勢調査を基に八丈町が作成

就業者数:3,700人 15歳以上人口:6,242人 労働力人口:3,777人

第1次産業 491人 (13.3%)		第2次産業 562人 (15.2%)		第3次産業 2,528人 (68.3%)					
農業 404人 (10.9%)	建設業 435人 (11.8%)	卸売業、小売業 393人 (10.6%)	宿泊業、 飲食サービス業 364人 (9.8%)	教育、 学習支援業 220人 (5.9%)	医療・福祉 455人 (12.3%)	サービス業 (他に分類されないもの) 241人 (6.5%)	公務 (他に分類されるものを除く) 311人 (8.4%)		
漁業 84人(2.3%)	林業 3人(0.1%)	製造業 127人(3.4%)	電気・ガス・熱供給・水道業 21人(0.6%)	運輸業・郵便業 149人(4.0%)	情報通信業 23人(0.6%)	生活関連サービス業、娯楽業 115人(3.1%)	複合サービス事業 101人(2.7%)	学術研究、専門・技術サービス業 57人(1.5%)	
						不動産業、物品賃貸業 53人(1.4%)	金融業、保健業 25人(0.7%)		分類不能の産業 119人(2.9%)

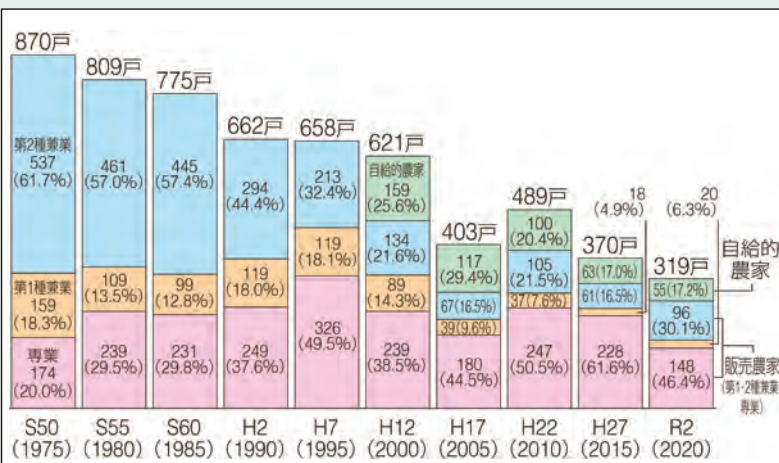
## 産業別就業者数の推移



※国勢調査を基に八丈町が作成

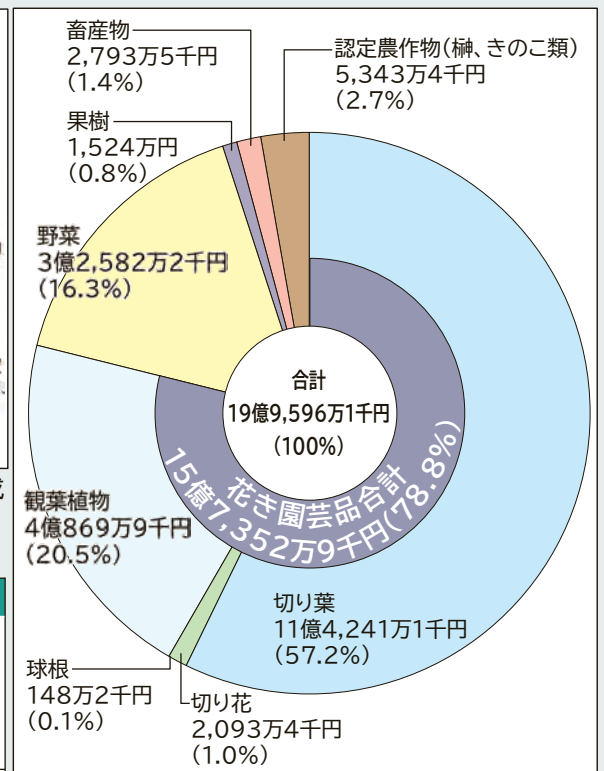
## 農業 AGRICULTURE

### 農家数の推移



※農林業センサスを基に八丈町が作成

### 農林業生産額 (2023年1月~12月)

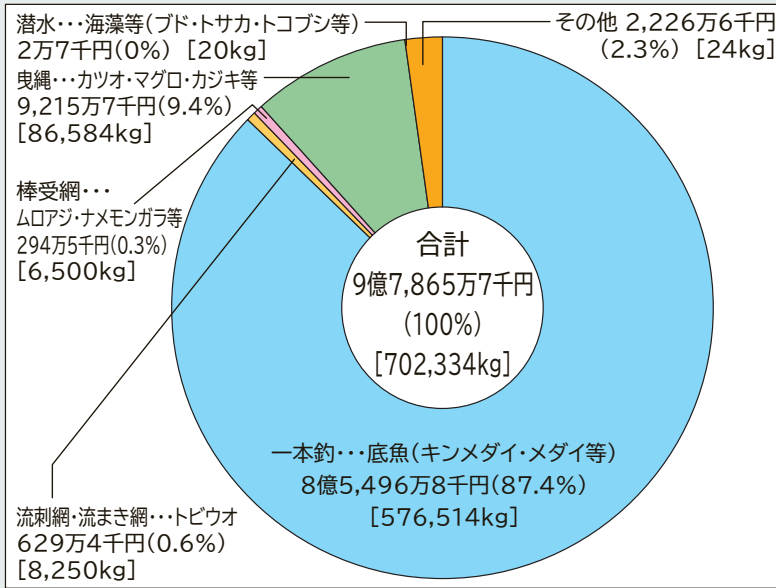


### 経営耕地・作物別作付面積 (2023年1月1日)

作物		面積		割合
花き園芸	フェニックス・ロベニー	203ha	51.1%	
	球根類	1ha	0.3%	
	鉢物	16ha	4.1%	
	その他の花き	48ha	12.1%	
野菜	あしたば	56ha	14.1%	25.4%
	その他の野菜	45ha	11.3%	
果樹		6ha	1.5%	
認定農作物(柿・きのこ類)		22ha	5.5%	
計		397ha	100.0%	

## 漁業 FISHERY

### ■ 漁業生産額 (2023年1月～12月)



### ■ 漁種別漁獲量順位 (2023年1月～12月)

順位	種名	漁獲量
1	キンメダイ	518,715kg
2	マグロ類	59,277kg
3	メダイ	37,748kg
4	カツオ類	26,934kg
5	ハマダイ	8,877kg
6	トビウオ	8,250kg
7	カンパチ	7,838kg
8	アオダイ	6,799kg
9	ムロアジ	6,498kg
10	サワラ	2,634kg

### ■ 漁港の状況 (2024年4月1日)

漁港名	種別	指定日	管理者	対象船舶	漁港施設		
					長さ		面積
					防波堤	岸壁	
神湊漁港	第4種	1951年7月10日	東京都	20ト	901m	1,028m	5,380㎡
八重根漁港	第4種	1951年7月10日	東京都	20ト	886m	752m	4,455㎡
中之郷漁港	第1種	1952年6月23日	東京都	20ト	251m	105m	3,748㎡
洞輪沢漁港	第1種	1952年6月23日	東京都	20ト	523m	229m	3,315㎡

※東京都八丈支庁調べ  
※いずれの防波堤にも照明施設一式あり

### ■ 漁船数 (2023年4月1日)

トン数規模	漁船数
3ト未満	36隻
3ト～10ト未満	59隻
10ト～20ト未満	13隻
20ト以上	0隻
<b>計</b>	<b>108隻</b>

※東京都八丈支庁調べ  
※官公庁船を除く

## 商業 COMMERCE & MANUFACTURING INDUSTRY

### ■ 加工業製品生産調べ

品目	生産額
くさや類 (2023年1月～12月)	4,306万7,924円
農畜産物 (2023年1月～12月)	2億1,501万3千円
黄八丈 (2023年4月～2024年3月)	1億1,088万7,607円
焼酎 (2023年度)	約2億12百万円

※くさや類：八丈島水産加工業協同組合調べ

## 観光 SIGHTSEEING

### ■主な行事

(2023年1月～12月)

パブリックロードレース	1月
産業祭	2月
フリージアまつり	3～4月
夏まつり	7月
浜遊び	中止
納涼花火大会	8月
RAINBOW CUP2023 (フットサル大会)	9月
24時間チャレンジ八丈太鼓	11月
ユニバーサルキャンプ	中止
タコスカップ (サーフィン大会)	12月

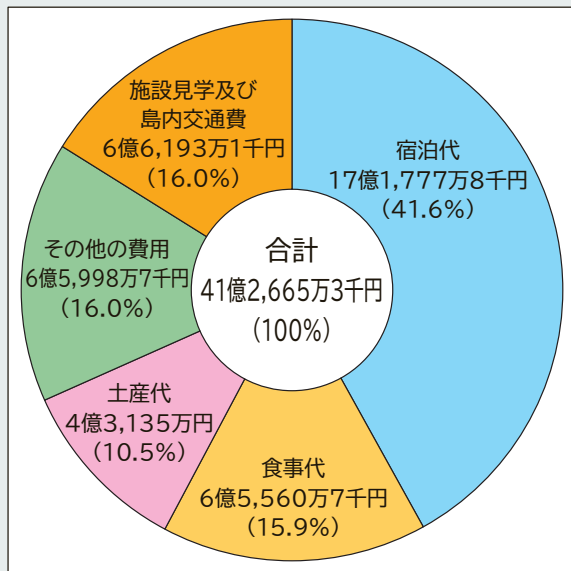
### ■宿泊施設 (2024年1月)

(休業中は含まず)

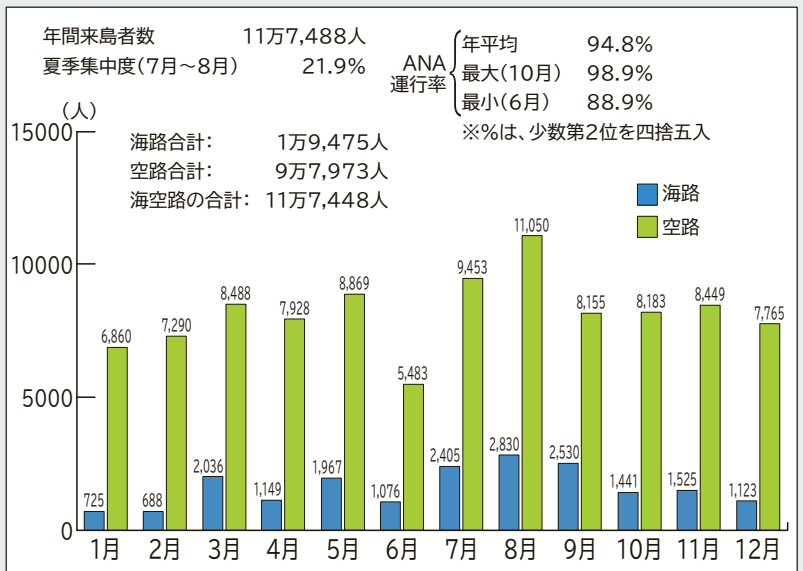
地域名	ホテル・旅館		民宿・ペンション		総数		キャンプ場	
	軒数	登録定員	軒数	登録定員	軒数	登録定員	施設数	張数
三根	2軒	233人	35軒	846人	37軒	1,079人	1ヶ所	80張
大賀郷	1軒	200人	26軒	484人	27軒	684人	1ヶ所	20人
檜立	0軒	0人	0軒	0人	0軒	0人	0ヶ所	0張
中之郷	0軒	0人	3軒	98人	3軒	98人	0ヶ所	0張
末吉	0軒	0人	2軒	29人	2軒	29人	0ヶ所	0張
計	3軒	433人	66軒	1,457人	69軒	1,890人	2ヶ所	80張

ホテル	1泊2食付 約13,500円～	旅館	1泊2食付 約8,600円～
ペンション	1泊2食付 約8,600円～	民宿	1泊2食付 約8,600円～

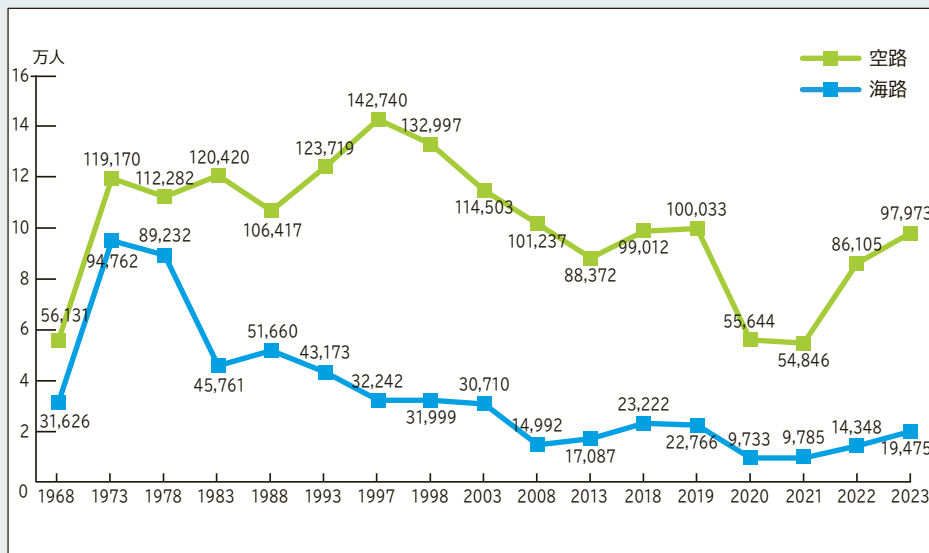
### ■観光客消費額推計 (2023年1月～12月)



### ■航路別来島者数の月別推移 (2023年1月～12月)



### ■航路別来島者数の年別推移



期間	来島者数(人)		
	空路便	船便	総数
2010	93,989	15,519	109,508
2011	89,729	16,282	106,011
2012	95,379	17,077	112,456
2013	88,372	17,087	105,459
2014	97,214	16,634	113,848
2015	86,301	18,832	105,133
2016	89,990	20,652	110,642
2017	95,889	24,913	120,802
2018	99,012	23,222	122,234
2019	100,033	22,766	122,799
2020	55,644	9,733	65,377
2021	54,846	9,785	64,631
2022	86,105	14,348	100,453
2023	97,973	19,475	117,448

## 保健 HEALTH

### 医療機関などの施設状況(2024年4月1日)

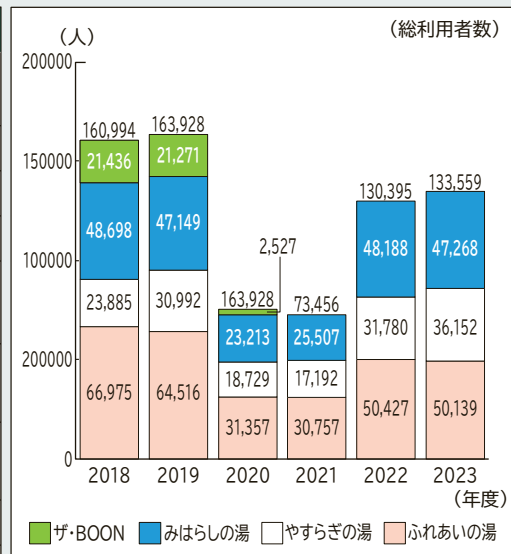
施設区分	施設数
町立病院	1ヶ所
保健所	1ヶ所
診療所	1ヶ所
歯科診療所	6ヶ所
施術所 ・あんまマッサージ ・指圧師 ・はり師 ・柔道整復師	6ヶ所
薬局	3ヶ所
医薬品特例販売店	5ヶ所
歯科技工所	1ヶ所

※東京都島しょ保健所八丈島出張所調べ

### 集団検診数(2023年度)

検診の種類	人数
胃がん検診 (バリウム胃部X線)	297人
肺がん検診(胸部X線)	870人
肺がん検診(喀痰)	55人
大腸がん検診(検便)	516人
乳がん検診 (マンモグラフィ)	302人
子宮頸がん検診 (内診・細胞診)	319人
特定健康診査(国保) 健康診査(後期)	809人
骨粗鬆症検診	422人
計	3,590人

### 温泉利用者数



## 福祉 WELFARE

### 高齢人口

(八丈島:2024年9月1日  
/市町村部・東京・全国:2024年9月15日)

	八丈島	市町村部 (多摩・島しょ)	東京	全国
高齢人口 (65歳以上)	2,706人	1,096万人	3,118万人	3,625万人
比率	39.5%	26.4%	23.5%	29.3%

※東京・市町村部:2024年「敬老の日にちなんだ東京都の高齢者人口(推計)」(東京都)を基に八丈町が作成  
※全国:「統計からみた我が国の高齢者」(総務省)を基に八丈町が作成  
※%は、少数第2位を四捨五入

### 高齢者祝金の状況(2023年度)

種別	人数	金額
90歳祝金	47人	94万円
100歳祝金	9人	90万円

### 社会福祉協議会の状況

会員数	259件	(2024年4月1日)
事業予算	1億1,780万3千円	
法人運営事業	2,749万4千円	
地域福祉事業	2,432万2千円	
受託事業	1,693万6千円	
居宅介護事業	4,804万円	
応急小口資金特別会計	100万1千円	
歳末たすけあい特別会計	1万円	

※八丈町社会福祉協議会調べ

### 介護保険要介護認定者数(2024年4月1日)

	要支援		要介護					計
	1	2	1	2	3	4	5	
人数	99人	72人	99人	81人	65人	82人	85人	583人

### 児童手当支給状況(2023年度)

	児童手当	児童育成手当
受給対象児童数	6,147人	1,551人
支給金額	6,861万5千円	2,114万2,500円

### 生活保護扶助別実施状況(2023年度末)

世帯数	217世帯
人員	236人

	生活	住宅	教育	介護	医療	生業	葬祭	出産	計
金額	1億2,439万7,314円	5,497万705円	36,892円	1,447万8,251円	1億7,146万1,690円	21万5,378円	212万770円	0円	3億6,768万1,000円

※東京都八丈支庁調べ

### 保育園状況(2024年4月1日)

施設数	3箇所	措置数	70.23%
定員	299人	職員数	29人
実員	210人		〔保育士 24人〕 〔調理員 5人〕
事業費	2億7,050万8,750円		
	〔国費 6万8千円〕		
	〔都費 4,232万1千円〕		
	〔町費 2億1,668万2,280円〕		
	〔住民負担 784万2,370円〕		
	〔その他 359万5,100円〕		

## 障害者手帳交付状況 (2024年3月31日)

障害区分	人数
視覚	24人
聴覚	13人
肢体	142人
平衡	2人
言語	7人
そしゃく	1人
内部障害	103人
計	292人

※障害の重複あり

## 愛の手帳交付状況 (2024年3月31日)

年齢	人数
18歳未満	16人
18歳以上	39人
計	55人

## 精神障害者保健福祉手帳交付状況 (2024年3月31日)

交付数	76人
-----	-----

## 老人クラブの状況 (2024年4月1日)

クラブ数	18クラブ
会員数	784人
クラブ助成金額	484万4,016円

## 国民年金加入状況 (2024年3月31日)

種別	人数
第1号被保険者数	913人
第3号被保険者数	282人
任意加入被保険者数	19人
計	1,214人

## 国保保険給付費支払状況 (2023年度)

種別	金額	
高額療養費	9,286万1,324円	
一般被保険者分	0円	
退職被保険者分	0円	
種別	件数	金額
出産育児給付	5件	242万円
葬祭費	15件	75万円

## 後期高齢者医療被保険者証交付状況 (2024年4月1日)

被保険者数	1,471人
-------	--------

## 国民年金受給権者数 (2024年3月31日)

種別	人数
老齢基礎年金	2,421人
老齢年金	89人
通算老齢年金	12人
障害基礎年金	128人
遺族基礎年金	7人
障害年金(旧)	4人
寡婦年金	2人
福祉年金	0人
特別障害給付金	0人

## 国保加入者数と平均保険税額 (2024年4月1日)

加入者数	平均保険税収額(医療分)	
世帯数	被保険者数	平均保険税収額(医療分)
1,509世帯	2,149人	8万8,134円/世帯 6万1,623円/人

## 医療 MEDICAL

### 町立八丈病院のべ患者数 (2023年度)

区分	一般診療							
	計	内科	外科	産婦人科	小児科	リハビリ	透析	その他
入院	1万103人	7,875人	2,030人	126人	72人			
外来	3万4,857人	1万6,361人	5,771人	1,051人	4,219人	4,869人	2,586人	0人

区分	臨時診療												
	計	耳鼻咽喉科	精神神経科	整形外科	甲状腺内科	皮膚科	糖尿病内科	腎臓内科	消化器内科	神経内科	眼科	泌尿器科	循環器内科
外来	1万840人	1,187人	2,128人	1,426人	336人	1,279人	1,239人	306人	214人	118人	2,272人	321人	14人

### 後期高齢者医療給付の状況 (2023年度)

区分	受診件数	費用額	保険者負担分	一部負担金	
療養の給付等	入院	1,093件	5億7,300万1,100円	10億2,085万6,368円	9,692万1,255円
	入院外	1万1,700件	2億6,608万9,770円		
	歯科	4,369件	5,014万7,880円		
	調剤	9,610件	1億9,866万9,540円		
	食事療養	1,020件	2,623万2,373円		
訪問看護	18件	363万6,960円			
療養費等	462件	526万2,161円	464万9,964円	61万2,197円	
計	2万7,252件	11億2,303万9,784円	10億2,550万6,332円	9,753万3,452円	

※受診件数の計に食事療養の件数は含まない

### 国保医療給付の状況 (一般被保険者分) (2023年度)

区分	受診件数	受診日数	費用額	保険者負担分	一部負担金	一部負担金	
療養の給付等	入院	564件	6,784日	3億1,561万7,040円	5億7,392万6,049円	1億8,830万760円	1,929万4,945円
	入院外	1万1,533件	1万7,063日	2億5,190万4,470円			
	歯科	5,648件	7,378日	5,573万5,220円			
	調剤	8,708件	1万423枚	1億4,467万8,600円			
	食事療養	525件	1万7,079回	1,127万8,934円			
訪問看護	46件	223日	230万7,490円				
療養費等	472件		424万4,561円	306万1,098円	118万3,463円	0円	
計	2万6,971件	3万1,448日	7億8,576万6,315円	5億7,698万7,147円	1億8,948万4,223円	1,929万4,945円	

※受診件数の計に食事療養の件数は含まない

※受診日数の計に調剤の枚数及び食事療養の日数は含まない

## ■小・中学校の状況 (2024年5月1日)

校種	校数	児童・生徒数	学級数	教員数
小学校	3校	318人	20学級	42人
中学校	3校	141人	11学級	47人

## ■高等学校の状況 (2024年5月1日)

生徒数	全日制	定時制	教員・職員数
126人	11人	11人	62人

2023年度卒業生

※東京都立八丈高等学校調べ

卒業後の進路	全日制	定時制	割合
大学短大進学者	13人	12人	27%
専門学校等	19人	17人	39%
就職進学	0人	0人	0%
就職	12人	11人	24%
その他	5人	2人	10%
計	49人	42人	100%

## ■学校施設の現況 (2024年5月1日)

学校名	構造	面積 m <sup>2</sup>	教室数		校地面積/m <sup>2</sup>	校地面積/m <sup>2</sup> 内 運動場	付属建物/m <sup>2</sup>
			普通	特別			
三根小学校	RC3階建	3,980	8	13	16,048	9,102 (芝生5,900含む)	体育館RC= 1,088 倉庫S= 22
大賀郷小学校	RC3階建	2,645	6	11	11,351	5,798 (芝生2,771含む)	体育館RC= 790 倉庫CB= 20、S= 22 地域・学校連携施設RC= 148
三原小学校	RC2階建	2,179	6	10	5,975	2,436 (芝生2,436含む)	体育館RC= 695 倉庫S= 22
富士中学校	RC2階建 CB	2,220 6	3	13	23,852	17,378 (芝生848含む)	体育館RC= 743 倉庫CB= 40、S= 9
大賀郷中学校	RC2階建 RC平屋	2,008 63	5	8	16,742	6,800 (芝生1,715含む)	体育館RC= 848 倉庫CB= 60、S= 13 地域・学校連携施設RC= 150
三原中学校	RC2階建	2,239	3	10	14,874	8,739 (芝生2,731含む)	体育館RC= 800 倉庫S= 116

※RC=鉄筋コンクリート、CB=コンクリートブロック、S=鉄骨

## ■共同調理場方式完全給食 (2023年度、2024年度)

年度	給食数 (1日あたり)	給食予定日数	給食費用単価 (1食あたり)				平均月額給食費			
			小学校			中学校	小学校			中学校
			低学年	中学年	高学年		低学年	中学年	高学年	
2023	614食	192日 (うち米飯週3.5回)	236.98円	269.16円	289.92円	331.56円	4,104円	4,669円	4,933円	5,606円
2024	610食	190日 (うち米飯週3.5回)	236.98円	269.16円	289.92円	331.56円	4,093円	4,649円	5,008円	5,727円

※2004年度より無償化のため、保護者負担はなし

## ■学校給食の状況 (2024年5月1日)

校種・校数	児童・生徒数	教職員等人数
小学校 (3校)	318人	42人
中学校 (3校)	141人	57人
給食人員計	558人	

## ■英会話教室 (2023年度)

クラス数	19クラス
受講者数	122人

## ■婦人会の状況 (2024年4月1日)

	三根	大賀郷	櫻立	中之郷	末吉	計
会員数	229人	59人	32人	43人	20人	383人

※八丈島連合婦人会調べ

## ■図書館利用状況 (2023年度)

開館日数	276日	
利用者数	一般	10,960人
	児童	7,990人
	2,970人	
平均利用者数	40人/日	
蔵書数		40,066冊
視聴覚ライブラリー	ビデオ保有数	30巻
	DVD保有数	1,218枚

## ■指定文化財等件数 (2024年4月1日)

区分	件数 (件)					
	国 指定分	国 登録分	国 選択分	都 指定分	町 指定分	総数
天然記念物	1	0	0	0	7	8
有形文化財	0	2	0	18	39	59
無形文化財	0	0	2	0	0	2
無形民俗文化財	0	0	1	3	0	4
史跡・旧跡	0	0	0	6	2	8
計	1	2	3	27	48	81

地域を定めなくて指定されている  
管内に存在する国天然記念物

アカッコ  
カラスバト  
イジマムシクイ  
カムリウミスズメ  
オカヤドカリ

## 公民館施設状況 (2024年4月1日)

公民館名	完成年度	面積 m <sup>2</sup>					計
		集会室	厨房	図書会議室	和室	その他	
三 根	2018	272	63	35	73	575	1,018
大 賀 郷	1984	253	60	30	75	328	746
檜 立	1975	198	22	22	99	249	590
中 之 郷	1973	201	24	24	94	221	564
末 吉	1978	242	26	20	97	229	614

## 体育施設状況 (2024年4月1日) ※南原スポーツ公園は条例上は町立公園に該当するが、用途を考慮し、その設備を本項目に記載する

施設名	完成年度	面積 m <sup>2</sup>	構造	概要	
富士グラウンド (富士野球場)	1988	12,521	内野:混合土 外野:ロングパイル人工芝 外周:砂	両翼:98m 中堅:120m 外野部分:人工芝サッカーコートとして利用可 少年サッカーコート1面 フットサルコート3面	
富士ゲートボール場	1990	4,483	透水性砂入り人工芝	コート:15.0m×20.0m 3面 休憩所:平屋鉄筋コンクリート造、49.5m <sup>2</sup>	
八丈町 コミュニ ティ センタ ー	ボウリング場	1971	347		レーン:4本
	体育館	1971	599	砂入り人工芝	コート:425m <sup>2</sup>
	テニスコート	1995	1,368	砂入り人工芝	コート:2面
檜立屋内運動場	1991	650	体育館	鉄筋コンクリート	
檜立運動場		4,450	クレー		
中之郷屋内運動場	1987	650	体育館	鉄筋コンクリート	
中之郷運動場		5,557	クレー		
末吉屋内運動場	1992	650	体育館	鉄筋コンクリート	
末吉運動場		4,425	クレー		
南原 スポ ーツ 公園	サッカー場	2006	19,200	天然芝(野芝)	サッカーコート2面:ピッチ寸法105m×68m 管理棟:平屋鉄筋コンクリート造、315.90m <sup>2</sup>
	野球場	2011	11,750	内野:人工芝 外野:人工芝	両翼:92m 中堅:116m 付帯施設:ジョギングコース、芝生広場、壁打ち練習板

## スポーツ・文化活動の状況 (2023年度)

### スポーツ

種目	人数	活動状況	
野 球	一般・児童 210人	島内大会(一般、0B、少年学童)等開催 その他、通常活動	
バレーボール	一般・児童 183人	島内大会(一般、少年学童)等開催 その他、通常活動	
サ ッ カ ー	一般・児童 252人	島外チームとの交流大会、ジュニア大会等開催 その他、通常活動	
バスケットボール	一般・児童 95人	島内交流戦等実施 その他、通常活動	
卓 球	一般・児童 86人	島内大会(一般、シニア、少年学童)等開催 その他、通常活動	
武 道	柔 道	一般・児童 30人	(昇級審査会) 武道会開催、その他、通常活動
	剣 道	一般・児童 30人	
テニス(硬式)	29人	各種大会開催	
マ ラ ソ ン	第43回 八丈島パブリックロードレース 参加者:580人 第45回 八丈島駅伝大会 天候不良のため中止		
町民体育大会	島内5地域で実施		
ゲートボール	86人		
ゴ ル フ	25人		

### 文化活動

事業名	活動状況
團 伊 玖 磨 記 念 コ ン サ ー ト	第53回八丈島團伊玖磨メモリアルコンサート 出演者:加藤洋朗(コーディネーター)、澤畑恵美(ソプラノ)、相澤政宏(フルート)、河野紘子(ピアノ)、仁賀広大(バリトン)、八丈町立小中学校児童生徒有志
八 丈 島 島 民 大 学 座 講	1回目「土の力と海の技」 2回目「弁護士がつなぐ あなたと法律」
	子ども招待公演事業「ファミリーコンサート チェロとマリンバと遊ぼう」、「あびの実クリスマスコンサート」 あそび体験事業「演劇ワークショップ」、「ぶらり abinomi」、「あびの実アートワークショップ」 映画鑑賞事業 「長靴をはいたネコと9つの命」、「紅の翼」
八 丈 島 文 化 フェスティバル	島内文化団体による舞台公演及び作品展示
八 丈 島 伝 統 文 化 継 承	八丈太鼓や地域の踊りなどを子どもたちに継承するための取り組み 「八丈島芸能文化祭」実施予定だったがスケジュールの都合により、中止。
八 丈 島 ウィンズ フェスティバル	島外の団体との交流・共演を通して、子どもたちの豊かな心を養うを目的としたイベント 甘粕宏和(指揮者)、八丈ウィンズフェス特別合同バンド(島内小学生、高校生、島外参加者等)
八 丈 島 小 島 自 然 体 験	子どもたちの小島への渡航体験。歴史、文化、自然体験活動を実施
婦 人 学 級	教室・・・料理、生け花、寄せ植え、ゲートボール、卓球、絵手紙、踊り

## 八丈島歴史民俗資料館 (2023年度)

開 館	2018年6月9日	展示品				
入館者数	5,596人	考古関係	民俗関係	歴史関係	その他	計
		約 110点	約 50点	5点	2点	167点

## 八丈島地熱館 (2023年度)

開館 2013年8月31日

※2021年2月1日から地熱発電所新設工事のため休館中

## 環境衛生施設数 (2024年4月1日)

区分	許可等件数 件
理 容 所	9
美 容 所	16
ク リ ー ニ ン グ 所	3
コインオペレーション ク リ ー ニ ン グ 施 設	3
公 衆 浴 場	7
ホ テ ル ・ 旅 館	28
簡 易 宿 所	55
興 行 場	2
プ ー ル (学 校 プ ー ル 含 む)	16
水 道 施 設	16
小規模貯水槽水道等	32
温 泉 利 用 施 設	10
墓 地 な ど	50
特 定 建 築 物	7
計	254

※東京都島しょ保健所八丈島出張所調べ

## ごみ処理取扱量 (2023年度)

施 設	八丈町クリーンセンター 機械化バッチ燃焼式焼却炉
処 理 能 力	一日あたり17.00ト(8時間運転×2炉)
焼却処理総量	2,396.10ト

区 分	クリーンセンター処理量		
	収集 ト	持込 ト	計 ト
燃 や せ る ご み	1,744.18	651.92	2,396.10
資 源 ご み (飲 料 缶)	23.45	0.54	23.99
空 き び ん	65.8	33.84	99.64
発 泡 ス チ ロ ー ル	1.85	0.10	1.95
金 属 ご み	47.84	36.58	84.42
有 害 ご み	2.79	1.30	4.09
計	1,885.91	724.28	2,610.19

その他のごみ		
資 源 ご み	ダ ン ボ ー ル	369.55ト
	新 聞 紙 ・ 雑 誌 ・ 雑 紙	93.36ト
	古 着	10.31ト
	ペ ッ ト ボ ト ル	31.76ト
島 外 搬 出 ご み	不 燃 性 粗 大	173.73ト
	廃 自 動 車	624台
	リ サ イ ク ル 家 電	1,769台

## 家庭用生ゴミ堆肥化容器 (コンポスト) 貸与実績 (2023年度)

容量	件数
130ℓ	18件
230ℓ	59件
計	77件

## 火葬・改葬 (2023年度)

火葬	112件
改葬	13件
計	125件

## し尿・浄化槽汚泥収集運搬実績 (2023年度)

総 量	し 尿	10,021,830ℓ
	浄化槽汚泥	4,278,100ℓ
		5,743,730ℓ
し 尿 収 集 件 数		1,557件
浄化槽汚泥収集件数		1,365件

## 合併処理浄化槽の状況 (2023年度)

汚水処理人口	3,038人
普及率	44.7%

※%は、少数第2位を四捨五入

## 水道事業 (2023年度)

給 水 人 口	6,775人	
普 及 率	99.7%	
水 源 取 水 能 力	表 流 水	2,030m <sup>3</sup> /日
	地 下 水	4,230m <sup>3</sup> /日
	湧 水	3,910m <sup>3</sup> /日
	計	10,170m <sup>3</sup> /日
有 収 水 量	年 間 有 収 水 量	1,084,181m <sup>3</sup>
	平 均 有 収 水 量	90,348m <sup>3</sup> /月
		2,962m <sup>3</sup> /日
	一人あたりの平均有収水量	427ℓ/日
給 水 収 益	年 間 給 水 収 益	2億6,577万1,665円
	平 均 給 水 収 益	2,214万7,639円/月
	一 人 当 り の 平 均 給 水 収 益	3,191円/月
	給 水 栓 数	5,800栓

## 水道料金 (2024年4月1日)

口径	装置料金	水道料金			
		第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
13mm	760円	1~10m <sup>3</sup> 120円/m <sup>3</sup>	11~20m <sup>3</sup> 150円/m <sup>3</sup>	21~50m <sup>3</sup> 240円/m <sup>3</sup>	51m <sup>3</sup> 以上 290円/m <sup>3</sup>
20mm	900円				
25mm	1,150円	1~20m <sup>3</sup> 180円/m <sup>3</sup>	21~50m <sup>3</sup> 270円/m <sup>3</sup>	51~100m <sup>3</sup> 340円/m <sup>3</sup>	101m <sup>3</sup> 以上 390円/m <sup>3</sup>
30mm	1,930円				
40mm	2,070円	1~50m <sup>3</sup> 320円/m <sup>3</sup>	51~100m <sup>3</sup> 370円/m <sup>3</sup>	101~500m <sup>3</sup> 420円/m <sup>3</sup>	501m <sup>3</sup> 以上 470円/m <sup>3</sup>
50mm	4,590円				
75mm	5,700円	1~100m <sup>3</sup> 380円/m <sup>3</sup>	101~500m <sup>3</sup> 430円/m <sup>3</sup>	501~1,000m <sup>3</sup> 480円/m <sup>3</sup>	1,001m <sup>3</sup> 以上 530円/m <sup>3</sup>
臨時用 (工事等)	6,000円	530円/m <sup>3</sup>			

### 町営バス運行実績 (2023年度)

	走行距離		輸送人員		収入金額	
一般乗合	140,011.2km	74.4%	9万5,789人	79.5%	1,415万3,114円	16.7%
貸切	48,099.2km	25.6%	2万4,756人	20.5%	7,041万9,217円	83.3%
計	188,110.4km	100.0%	12万545人	100.0%	8,457万2,331円	100.0%

### 航空貨物取り扱い高

(2023年1月～12月)

移出	490ト	移入	155ト
----	------	----	------

※東京都八丈支庁調べ

### 町営バス台数

(2024年4月1日)

種類	乗車定員	台数
乗合	中型車	59人乗り 2台
	小型車	58人乗り 1台
貸切	小型車	31人乗り 1台
	大型車	52人乗り 1台
	大型車	49人乗り 2台
	中型車	36人乗り 1台
		35人乗り 3台
計		11台

路線数(系統数) 3路線5系統

### 民営バス台数

(2024年11月1日)

業者数	1業者	
種類	乗車定員	台数
小型車	24人乗り	1台
	22人乗り	1台
	13人乗り	1台
計		3台

### 観光バス貸切(ガイド付)料金

(2024年4月1日)

区分	大型料金 (34名以上)	中型料金 (21～33名)	小型料金 (1～20名)
1周コース	10万5,600円	9万5,700円	8万5,800円
半周コース	6万8,200円	6万1,600円	5万5,000円
送迎(ガイド無し)	3万7,400円	3万3,000円	2万8,600円

※上記料金は目安であり、実際の時間・走行距離により運賃は変わります

### 八丈島内郵便局の状況 (2024年12月1日)

区分	名称	集配
直営	八丈島郵便局	
	三根郵便局	○
	八丈島檜立郵便局	
	中ノ郷郵便局	○
	末吉郵便局	

### 電力の状況 (2023年度)

認可出力	内燃力発電	15,100kw
	地熱発電	2019年3月29日廃止
日最大電力	最大電力	8,640kw
	発生日	2023年8月1日

※東京電力パワーグリッド(株)東京総支社島嶼業務センター八丈島事務所調べ

### タクシー台数

(2024年11月1日)

区分	業者数	台数
1台で営業している業者	0業者	0台
2台以上で営業している業者	4業者	15台
計	4業者	15台
内 ジャンボタクシー使用業者	3業者	3台
内 福祉タクシー使用業者	0業者	0台

### トラック台数

(2024年4月1日)

総業者数	10業者
トラック台数(1ト車以上)	56台

※(株)東京都トラック協会八丈島支部調べ

### テレビ放送

(2024年12月1日)

名称	開局日
東京都八丈中継局	2009年3月3日
東京都八丈末吉中継局	2010年11月1日
東京都八丈洞輪沢中継局	2009年3月5日

※デジタル中継局開局情報(総務省)を基に八丈町が作成

### 海上貨物取り扱い高

(2023年1月～12月)

分類	移出(ト)	移入(ト)	
農水産品	米・雑穀・豆	0	171
	野菜・果物	10	1,902
	その他農産品	2,825	74
	畜産品	102	3,792
	水産品	2,103	3,807
林産品	林産物	1,486	3,355
鉱産品	砂利・砂	0	38,591
	車両	56	6,312
金属機械工業品	非鉄金属	0	7
	金属製品	164	7,024
	その他機械・部品	2	3
化学工業品	セメント	0	5,140
	その他窯業品	125	2,814
	LPG・LNG	0	2,759
	重油	0	10,922
	石油製品	952	5,011
	化学肥料	0	0
	その他化学工業品	1	0
軽工業品	飲料	217	1,860
	製造食品	114	117
	その他・食料工業品	1	1
雑工業品	日用品	2,068	3,098
	その他製造工業品	49	0
特殊品	金属くず	0	46
	動植物性製造飼肥料	1	968
	廃棄物	1,079	203
	廃土砂	941	29
	輸送用容器	5,890	6,246
	再利用資材	470	1,245
	取り合わせ品	3,634	16,190
分類不能のもの	9	1,038	
計	22,299	122,725	

※港湾調査(国土交通省)を基に八丈町が作成  
※移出入いずれか1ト以上の実績があるもののみ記載

### 自動車台数 (2024年3月31日)

車種	台数	管轄・備考	
普通自動車	736台	自動車検査登録情報協会	
小型自動車	1,578台		
	内 三輪以上	1,492台	自動車検査登録情報協会
	内 二輪(小型二輪)	86台	自動車検査登録情報協会
軽自動車	4,693台		
	内 三輪以上	4,579台	八丈町
	内 二輪(軽二輪)	114台	八丈町
大型特殊自動車	158台	自動車検査登録情報協会	
小型特殊自動車	125台	八丈町	
原動機付自転車	582台	八丈町	
計	7,872台		
平均保有台数	1.16台/人	1.94台/世帯	

※東京都八丈支庁調べ

## ■八丈町都市計画区域

1972年2月22日付東京都知事に申請  
1973年1月5日全域を都市計画区域（区域区分非設定）に指定

## ■都道と町道（2024年4月1日）

	都道	町道
延長	59,250m	428,516m
面積	725,478㎡	1,482,799㎡
舗装率	100.00%	42.13%

※東京都八丈支庁調べ

## ■公園と児童遊園地（2024年4月1日）

施設名	管理者	面積㎡	備考
東京都立八丈植物公園	東京都	224,068	散歩、休息、遊戯、鑑賞
底土園地	東京都	987	散歩、休息、遊戯
底土野営場	東京都	13,145	野営、炊事、休息
南原園地	東京都	8,600	散歩、休息
大湯浦園地	東京都	12,232	散歩、休息、遊戯
登龍園地	東京都	1,851	散歩、休息
大賀郷園地	東京都	129,796	散歩、休息、遊戯
護神山公園（護神山緑地）	八丈町	12,438	都市計画緑地、散歩、休息
底土海浜公園	八丈町	14,720	都市計画公園、散歩、休息
八丈プラザ公園	八丈町	26,016	都市計画公園、野営、炊事、散歩、休息
南原スポーツ公園	八丈町	59,797	都市公園、サッカー場、野球場
神湊児童遊園地	八丈町	1,447	散歩、休息、遊戯
稲葉児童遊園地	八丈町	2,128	散歩、休息、遊戯
大里児童遊園地	八丈町	730	散歩、休息、遊戯
樫立児童遊園地	八丈町	1,484	散歩、休息、遊戯

※東京都八丈支庁調べ

## ■都市計画道路（2024年4月1日）

八丈都市計画道路3・4・1号 底土・空港・八重根線		
延長	約	7,352m
幅員		18m
交通広場	底土	約 6,600㎡
	八重根	約 5,200㎡
都市計画決定日		1979年3月29日
延伸決定日		1989年3月20日

区間	事業認可	認可区間	完成年度
第1期	1980年1月16日	空港～倉の坂交差点 2,062m	1986年度
第2期	1986年6月19日	倉の坂交差点～底土交通広場 1,690m	1999年度
第3期	1989年10月25日	八重根交通広場～西見交差点 1,960m	2003年度
第4期	1995年3月1日	西見交差点～空港 1,640m	2011年度

※東京都八丈支庁調べ

## ■八丈島空港の施設状況（2024年4月1日）

種別	地方管理空港	
供用開始日	1962年5月1日	
政令指定日	1958年12月25日	
空港の位置	北緯	33°06'51"
	東経	139°47'00"
	標高	89.3m
飛行場用地（場内道路含む）	総面積	762,554㎡
	国有地	335,401㎡
	所有地	427,153㎡
対象機種	八重根	エアバス320-271N
	八重根	ボーイング737-800

基本施設	滑走路	着陸帯	誘導路	エプロン
	延長 2,000m 幅員 45m SIWL 24ト (舗装厚 30cm)	延長 2,120m 幅員 150m	延長 85m 幅員 23m	面積 15,300㎡ 3バース
ターミナルビル	飛行場灯火			
3階建 延床面積 3,975.44㎡	飛行場灯台、簡易式進入灯、進入角指示灯、滑走路灯、滑走路端灯、滑走路末端識別灯、滑走路中心線灯、過走帯灯、誘導路灯、誘導路中心線灯、風向灯、エプロン灯			

※東京都八丈支庁調べ

## ■港湾施設（2024年4月1日）

種類	港名	管理者	設立年月日	対象船舶	港湾施設	備考
地方港湾	神湊港（底土港）	東京都	1953年3月31日	小型船 500ト～5,000ト	岸壁(-6.0～7.5m) 310m 船客待合所 一棟 輸送管設備 一式 夜間荷役照明 一式 船揚場 1,320㎡ 荷捌用地 11,270㎡	神湊港(底土)船客待合所 2014年7月1日供用開始
	八重根港	東京都	1953年3月31日	500ト～5,000ト	岸壁(-6.0～7.5m) 230m 船客待合所 一棟 輸送管設備 - 夜間荷役照明 - 船揚場 - 荷捌用地 1,399㎡	八重根港船客待合所 2012年2月1日供用開始
避難港	洞輪沢港					1954年7月2日指定

※東京都八丈支庁調べ

## 町営住宅の現況 (2024年3月31日)

地域	団地名	構造	戸数(戸) 間取り別			計
			1K, 1DK, 1LDK	2K, 2DK, 2LDK	3K, 3DK, 3LDK	
三根	群ヶ平第2団地	耐火	0	0	16	16
	中道団地	簡耐・耐火	13	36	15	64
	富士見団地	耐火	5	10	8	23
	神湊第1団地	耐火	24	0	0	24
	神湊第3団地	耐火	11	6	6	23
	桜平団地	耐火	13	8	8	29
	新道団地	耐火	2	8	2	12
	丘里団地	耐火	0	12	4	16
小計	8団地		68	80	59	207
大賀郷	原山団地	耐火	0	6	6	12
	八蔵団地	耐火	6	0	48	54
	寺山団地	耐火	11	7	20	38
	八重根団地	耐火	12	0	0	12
小計	4団地		29	13	74	116
樫立	湯浜団地	簡耐	0	0	8	8
	康政里住宅	木造	0	0	2	2
	東六里住宅	木造	0	0	6	6
	康政里第2住宅	木造	0	0	6	6
	江能里住宅	木造	0	0	3	3
小計	5団地		0	0	25	25
中之郷	上浦団地	簡耐	0	0	8	8
	中之郷団地	耐火	5	2	8	15
	粥倉住宅	木造	0	0	2	2
	粥倉第2住宅	木造	0	0	2	2
	藍ヶ里住宅	木造	0	0	4	4
	尾越住宅	木造	0	0	2	2
	尾越第2住宅	木造	0	0	4	4
	中里住宅	木造	0	0	2	2
	三原住宅	木造	0	0	4	4
	三原第2住宅	木造	0	0	1	1
	藍ヶ江住宅	木造	0	0	2	2
上浦住宅	木造	0	0	2	2	
小計	12団地		5	2	41	48
末吉	末吉団地	耐火	2	2	4	8
	瀬戸団地	耐火	8	2	5	15
	神子尾住宅	木造	0	0	2	2
	道ヶ沢住宅	木造	0	0	2	2
小計	5団地		10	4	15	29
合計	34団地		112	99	214	425

## 警察署の概要 (2024年4月1日)

区分	設置数	職員数
本署	1ヶ所	32人
駐在所	6ヶ所	6人

※警視庁八丈島警察署調べ

## 少年事案取り扱い 件数 (刑法犯のみ) (2023年1月~12月)

罪種	件数
粗暴犯	0件
窃盗	0件
その他特別法犯	2件
計	2件

※警視庁八丈島警察署調べ

## 犯罪件数

(2023年1月~12月)

罪種	件数
凶悪犯	2件
粗暴犯	4件
盗犯	21件
知能犯	0件
その他	6件
計	33件

※警視庁八丈島警察署調べ

## 民有家屋などの棟数 (2024年1月1日)

区分	棟数	木造	木造以外	総数
個人	棟数	3,925棟	1,072棟	4,997棟
	平均床面積	82.7㎡	106.1㎡	87.7㎡
法人	棟数	280棟	393棟	673棟
	平均床面積	90.6㎡	270.6㎡	195.7㎡
合計	棟数	4,205棟	1,465棟	5,670棟
	平均床面積	83.2㎡	150.2㎡	100.5㎡

## 消防団などの状況 (2024年4月1日)

区分	人数(人)								総数	
	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機能別団員		
消防団	本部	1	2	0	0	1	1	12	0	17
	三根	0	0	1	1	7	11	21	13	54
	大賀郷	0	0	1	1	6	19	26	11	64
	樫立	0	0	1	1	4	9	6	10	31
	中之郷	0	0	1	1	5	11	4	13	35
	末吉	0	0	1	1	4	7	1	8	22
計	1	2	5	5	27	58	70	55	223	
消防本部								職員 28人		

## 消防施設など (2024年4月1日)

区分	施設数	箇所					総数
		三根	大賀郷	樫立	中之郷	末吉	
防火水槽	40㎡以上	77	68	20	22	20	207
	40㎡未満	2	5	0	1	1	9
消火栓		3	0	0	1	0	4
詰所		1	1	1	1	1	5
分所		0	0	0	0	0	0
器具置場		1	0	0	0	1	2
総数		84	75	21	25	23	228

## 消防車両の状況

(2024年4月1日)

種類	台数
消防ポンプ自動車	7台
指揮車	2台
照明電源車	2台
救急車	2台
可搬ポンプ	3台
計	16台

## 原因別救急出動件数

(2023年度)

事故種別	件数
火災事故	3件
自然災害	0件
水難	4件
交通事故	11件
労働災害	4件
運動競技	1件
一般負傷	91件
加害	0件
自損行為	3件
急病	345件
転院搬送	35件
その他	4件
計	501件

## 交通事故件数

(2023年1月~12月)

件数	148件
内 飲酒が原因のもの	0件

※警視庁八丈島警察署調べ

## ■一般会計決算（純計）（2023年度）

決算収支の状況	歳入総額 (A)	109億1,454万3千円
	歳出総額 (B)	105億7,816万7千円
	歳入歳出差引額 (A-B) (C)	3億3,637万6千円
	翌年度へ繰越すべき財源 (D)	5,297万9千円
	実質収支 (C-D) (E)	2億8,339万7千円
	単年度収支 (F)	1億9,669万5千円
	積立金 (G)	0円
	繰上償還額 (H)	0円
	積立金取崩額 (I)	0円
	実質単年度収支 (F+G+H-I)	1億9,669万5千円
指数等	基準財政需要額	35億8,129万1千円
	基準財政収入額	10億33万5千円
	標準財政規模	39億201万2千円
	財力指数	0.269
	単年度	0.279
	経常収支比率	85.8%

## ■特別会計決算（2023年度）

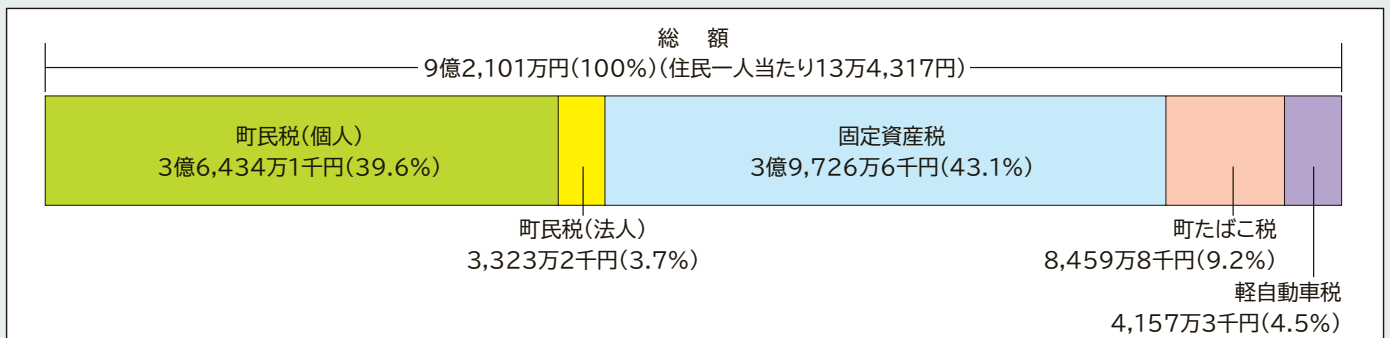
会計別	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (A-B)
介護保険	11億734万7千円	10億3,486万円	7,248万7千円
国民健康保険	10億8,533万8千円	10億5,974万円	2,559万8千円
後期高齢者医療	2億3,825万3千円	2億3,818万8千円	6万5千円

## ■企業会計決算（2023年度）

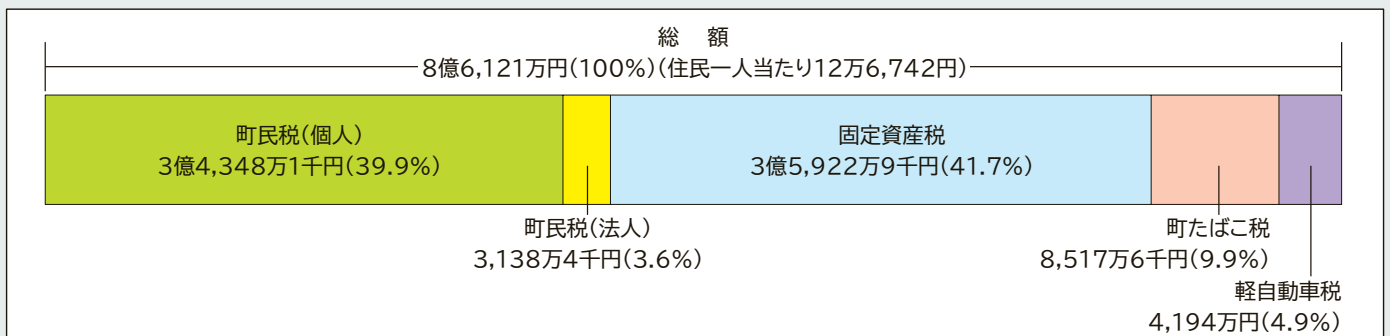
会計別	総収益 (A)	総費用 (B)	当年度純利益(損失) (A-B)
水道事業	4億7,524万2千円	4億3,215万7千円	4,308万5千円
一般旅客自動車運送事業	1億7,878万8千円	1億8,118万8千円	-240万0千円
病院事業	14億2,912万4千円	14億6,437万6千円	-3,525万2千円
浄化槽設置管理事業	4,732万3千円	5,107万5千円	-375万2千円

※浄化槽設置管理事業は、2021年度より、特別会計から企業会計へ移管

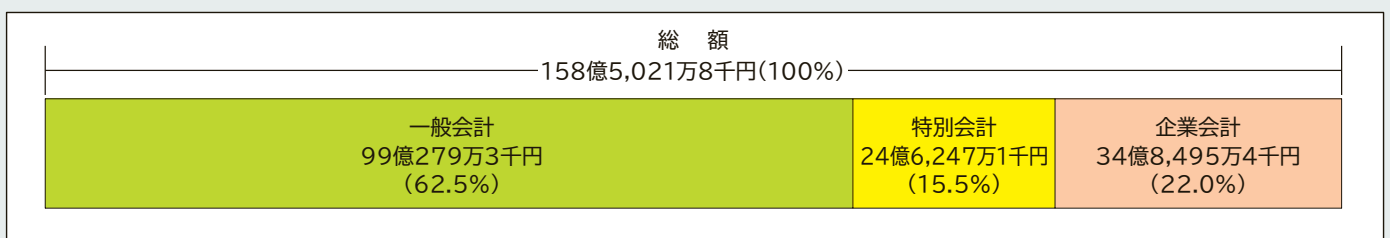
## ■税目別町税収入決算額（2023年度）



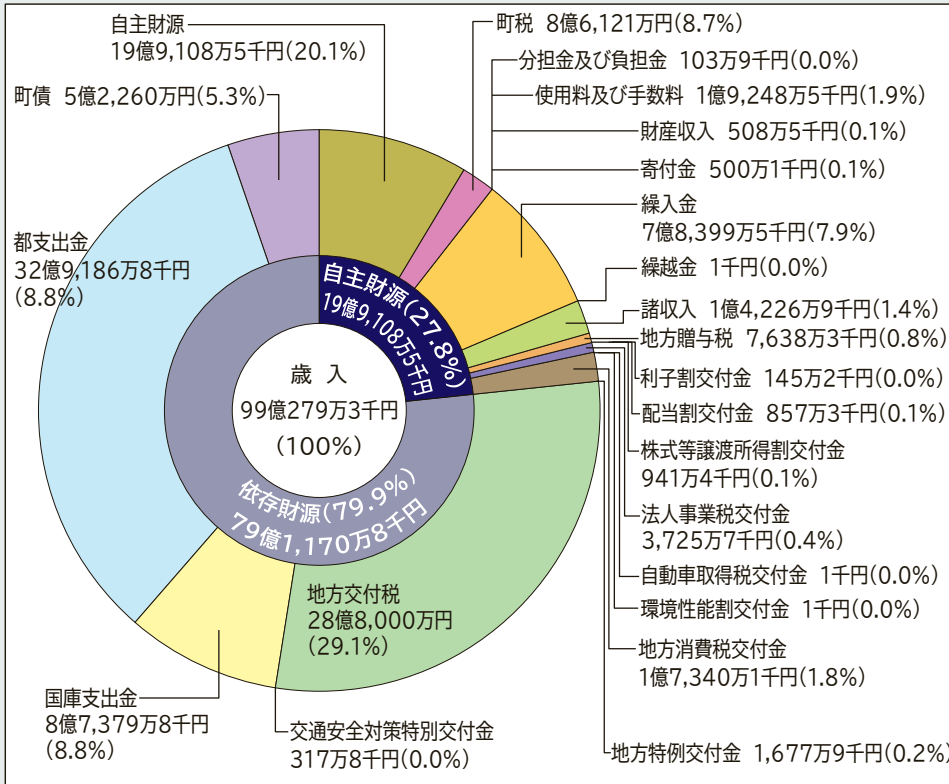
## ■税目別町税収入予算額（2024年度）



## ■当初予算（2024年度）



## ■一般会計歳入予算額(当初予算)(2024年度)



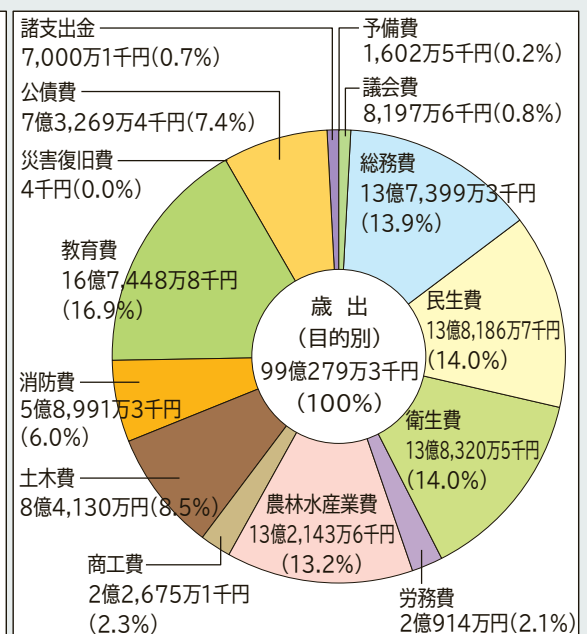
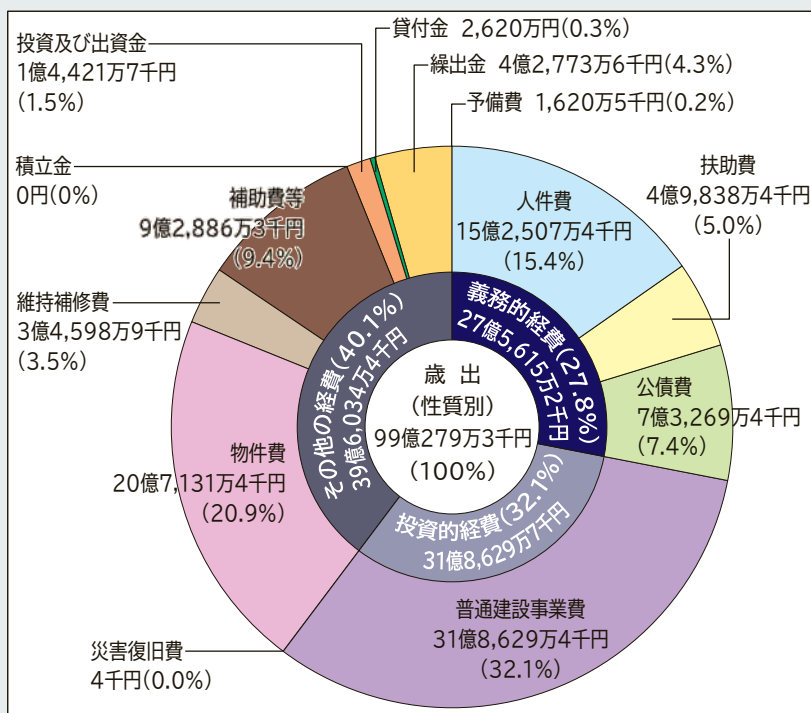
## ■特別会計(当初予算)(2024年度)

会計別	当初予算額
介護保険	10億9,960万8千円
国民健康保険	11億1,895万6千円
後期高齢者医療	2億4,390万7千円

## ■企業会計予算額(当初予算)(2024年度)

会計別	当初予算額
水道事業	12億2,447万3千円
一般旅客自動車運送事業	1億8,618万8千円
病院事業	19億6,367万9千円
浄化槽設置管理事業	1億1,061万4千円

## ■一般会計歳出予算額(当初予算)(2024年度)

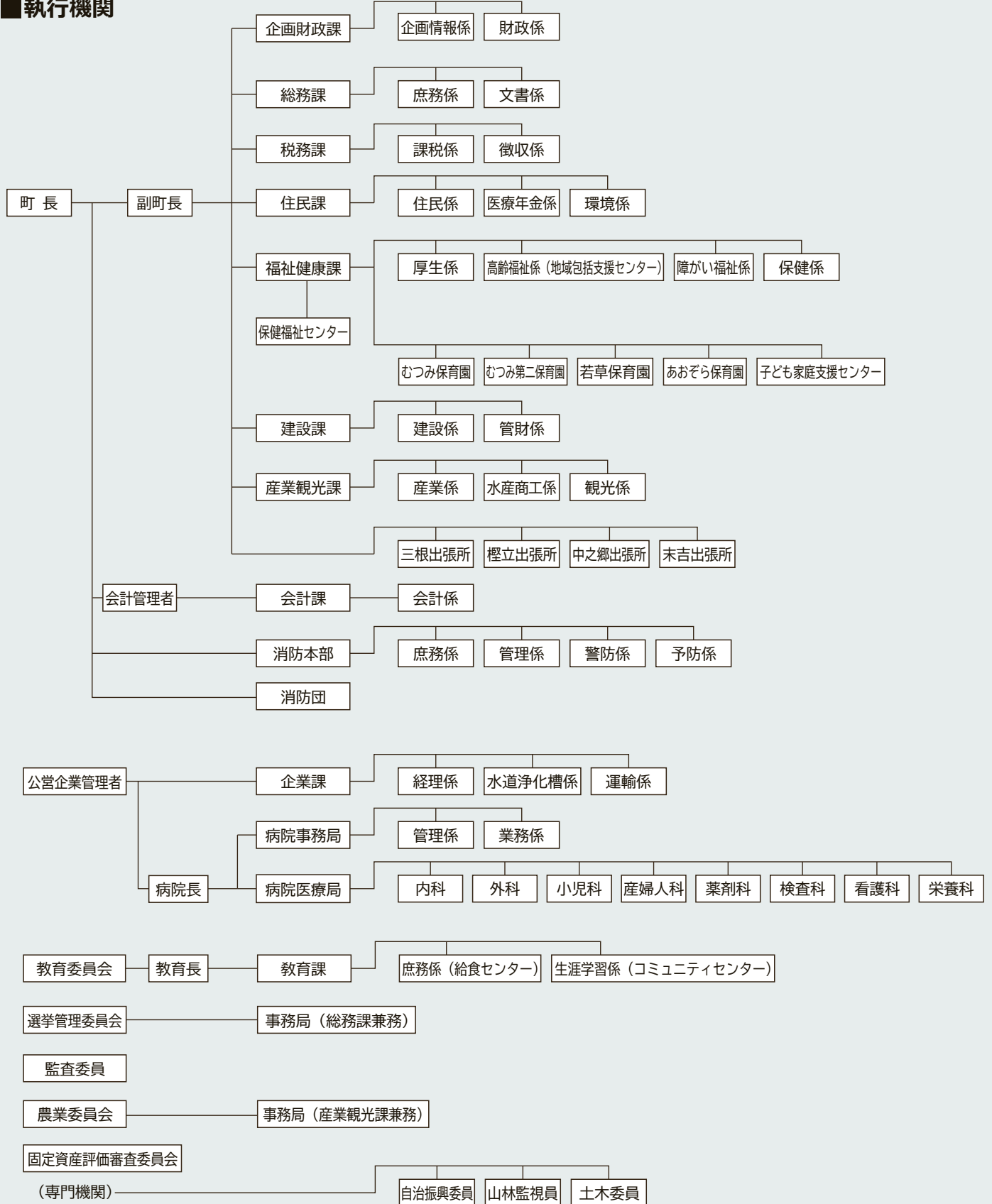


## ■八丈町機構図 (2024年4月1日現在)

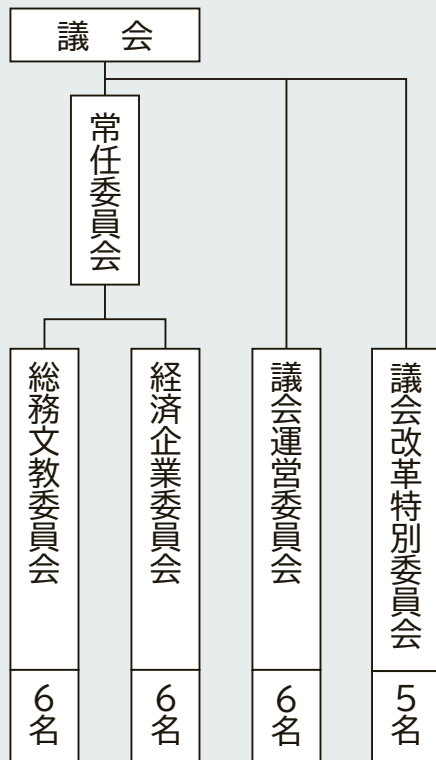
### ■議決機関



### ■執行機関



## ■ 議会構成 (2024年11月1日)



## ■ 党派別議員数 (2024年11月1日)

党派	人数
自由民主党	1人
公明党	2人
無所属	9人
計	12人

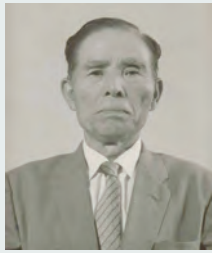
## ■ 町議会会議開催状況 (2023年1月~12月)

会議名		回数
本会議	定例会	4回
	臨時会	3回
総務文教委員会		0回
経済企業委員会		0回
議会運営委員会		5回
全員協議会		1回
総務文教委員協議会		0回
経済企業委員協議会		0回

## ■ 町長提出付議事件件数 (2023年1月~12月)

種類	回数						
	原案可決	修正可決	否決	継続審査	審議未了	撤回	
地方自治法第96条第1項議決事件	条例 (第1号)	12	0	0	0	0	0
	予算 (第2号)	40	0	0	0	0	0
	決算 (第3号)	8	0	0	0	0	0
	第4号から第14号までの議案	9	0	0	0	0	0
地方自治法第96条第1項第15号及び第96条第2項を含むその他全ての議案		22	0	0	0	0	0
専決処分議案 (地方自治法第179条)		7	0	0	0	0	0
専決処分議案 (地方自治法第180条第2項)		0	0	0	0	0	0

■ 歴代町議会議長



初代  
**沖山 篤平**  
昭和29年11月～  
昭和30年9月



第2代目  
**田村 雅雄**  
昭和30年9月～  
昭和31年9月



第3代目  
**奥山 文一郎**  
昭和31年9月～  
昭和32年10月



第4・5代目  
**浅沼 常道**  
昭和32年10月～  
昭和34年6月



第6代目  
**大澤 市助**  
昭和34年6月～  
昭和35年7月



第7代目  
**沖山 勇雄**  
昭和35年7月～  
昭和36年7月



第8代目  
**松木 敏成**  
昭和36年7月～  
昭和37年10月



第9代目  
**金川 吉乃助**  
昭和37年10月～  
昭和38年11月



第10代目  
**菊池 弘**  
昭和38年11月～  
昭和39年11月



第11代目  
**浅沼 次作**  
昭和39年11月～  
昭和40年11月



第12代目  
**菊池 常弘**  
昭和40年11月～  
昭和41年10月



第13代目  
**奥山 文一郎**  
昭和41年10月～  
昭和43年10月



第14代目  
**沖山 規矩太郎**  
昭和43年10月～  
昭和45年10月



第15代目  
**長戸路 義光**  
昭和45年10月～  
昭和49年10月



第16代目  
**笹本 直衛**  
昭和49年10月～  
昭和53年10月



第17代目  
**沖山 温和**  
昭和53年10月～  
昭和55年1月



第18代目  
**小宮山 松夫**  
昭和55年1月～  
昭和57年10月



第19代目  
**菊池 正明**  
昭和57年10月～  
昭和61年10月



第20代目  
浅沼 道夫

昭和61年10月～  
平成2年10月



第21代目  
浅沼 道徳

平成2年10月～  
平成6年10月



第22代目  
奥山 太一

平成6年10月～  
平成10年10月



第23代目  
田村 六郎

平成10年10月～  
平成14年10月



第24代目  
長戸路 義郎

平成14年10月～  
平成18年10月



第25代目  
冲山 宗春

平成18年10月～  
平成22年10月



第26代目  
小澤 一美

平成22年10月～  
平成26年10月



第27代目  
土屋 博

平成26年10月～  
平成30年10月



第28代目  
奥山 博文

平成30年10月～  
平成31年2月



第29代目  
奥山 幸子

平成31年3月～  
令和4年10月

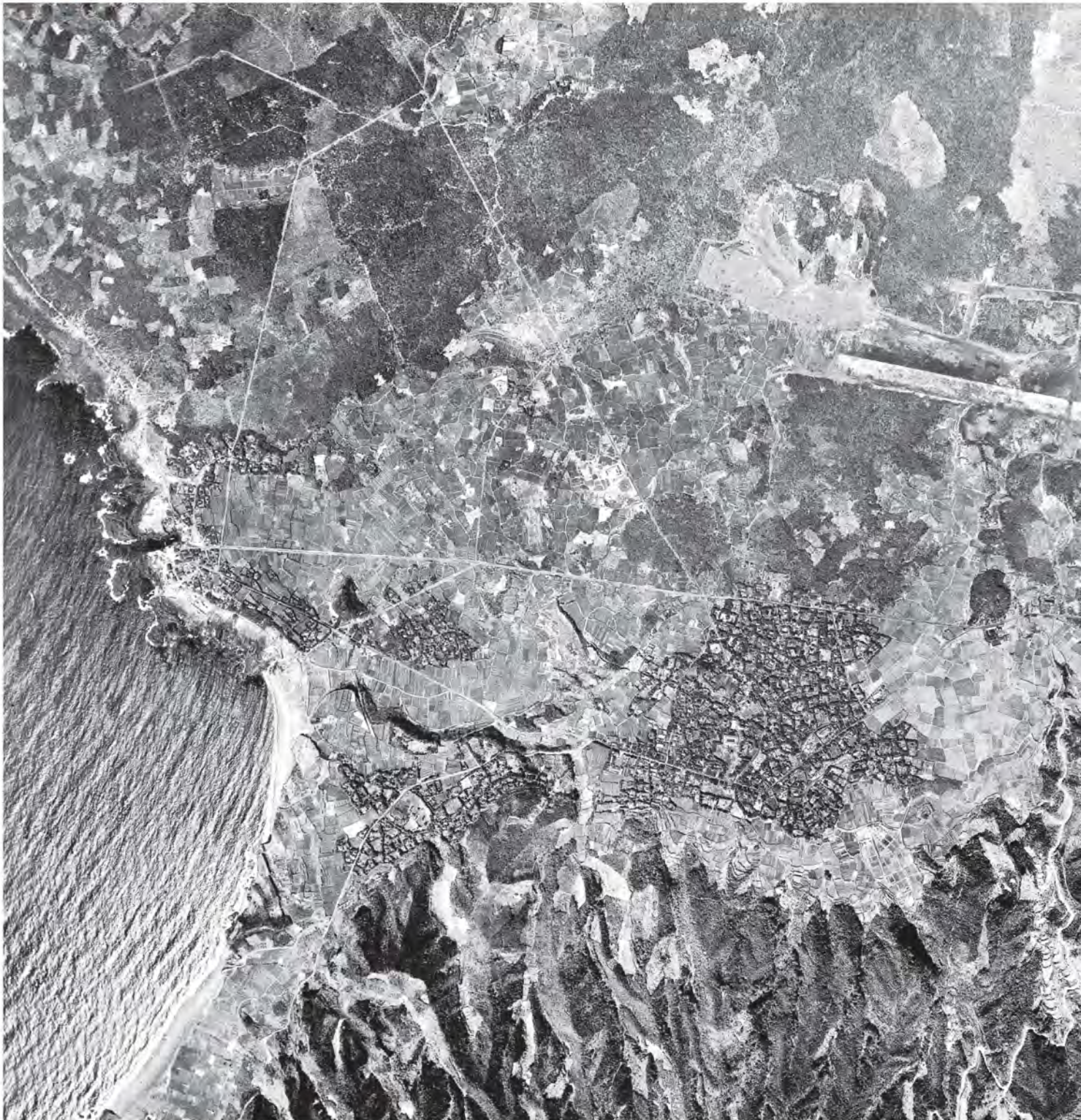


第30代目  
山本 忠志

令和4年10月～

# 1949年に空から撮影された八丈島

● 大賀郷地域、三根地域



1949(昭和24)年に撮影された米軍の航空写真を見ると、当時の八丈島は集落がコンパクトにまとまっていて、山の裾野から海岸線まで田畑が広がっていることがわかります。八丈町が誕生する6年前ですが、民家は石垣と防風林で囲まれているのも特徴です。林業や養蚕が盛んだったので、集落付近の山には桑の木が植えられ、製炭用の樹木は標高の高いところまで活用さ

れていました。

写真のほぼ中央部は日本軍が作った飛行場ですが、滑走路は未整備の状態です。海岸も八重根、神湊ともにまだ棧橋や防波堤などの商港施設はありません。島民が結成した八丈島接岸港促進連盟の運動の成果などにより底土に接岸港が完成したのは1965年でした。

白く浮かび上がって見える道路は、町道、都道とも現



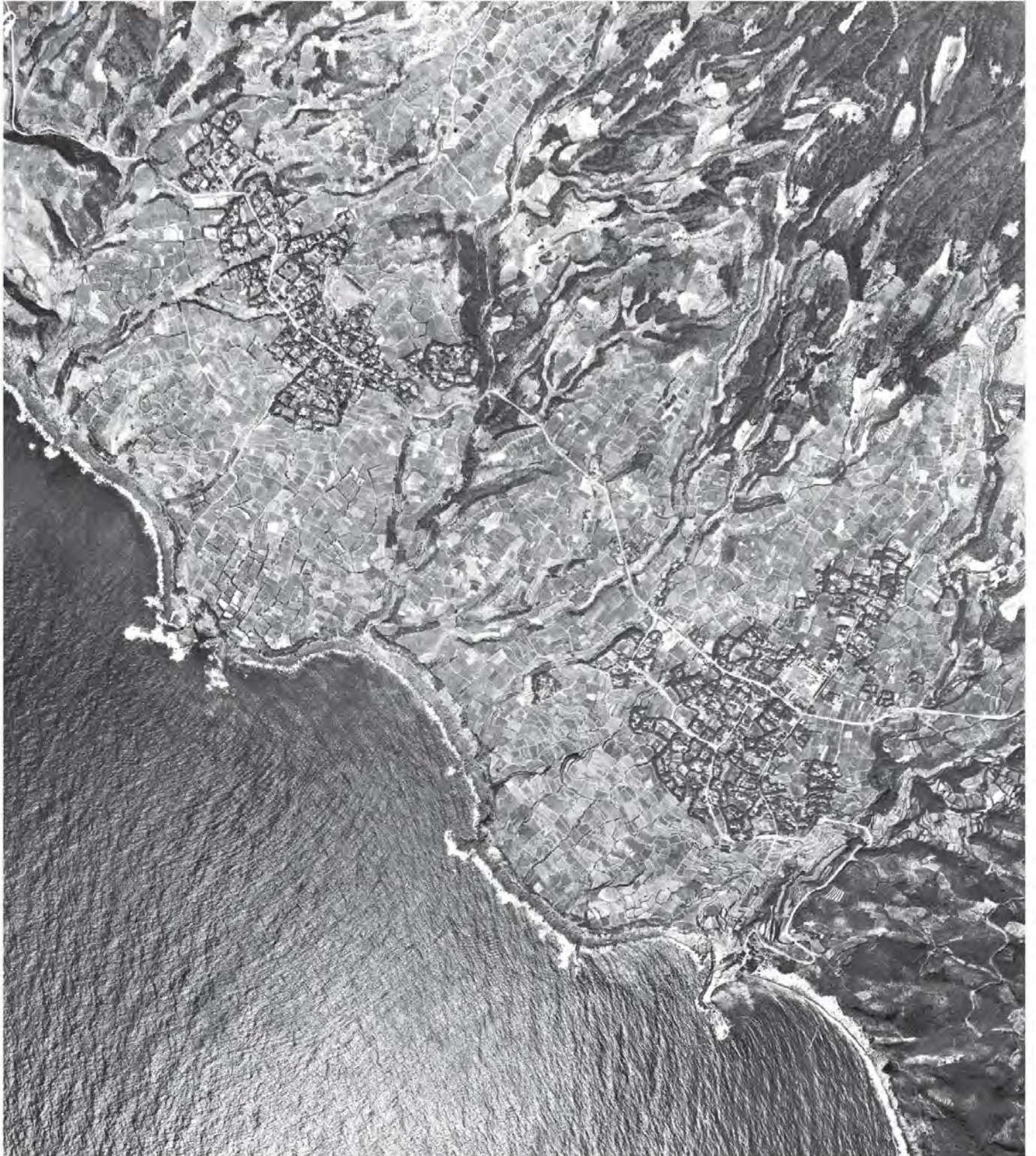
在とほぼ同じ線形であるのが確認できます。

滑走路の下にある黒く丸い固まりは樹木に覆われた大賀郷護神山です。大賀郷地域の集落は東里、金土川、向里などに民家が集中し、大里、八重根にもまとまった集落が見られます。三根地域は、矢崎から底土方面に向かう東畑の先まで広範囲に民家が連なっていますが、底土など海岸付近はまだ宅地化されていませんでし

た。神止山の南の区画された土地は、旧飛行場跡の払い下げを受けた旧三根村が、村民に分譲したものです。

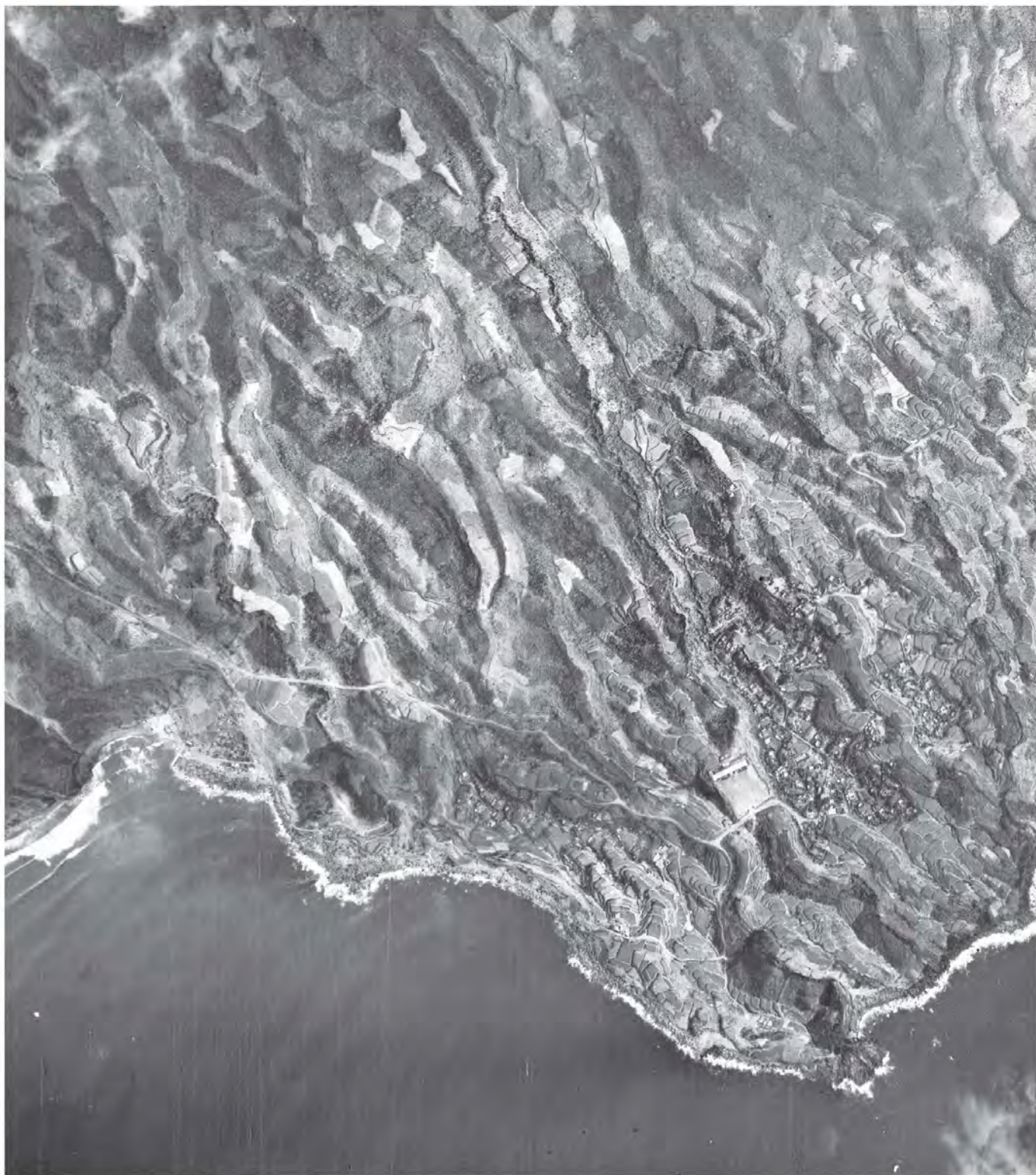
(写真=南海タイムス社所蔵)

● 檜立地域、中之郷地域



檜立と中之郷地域は中央を通る幹線道路をはさんで居住地が形成されています。民家は石垣で囲まれ、その上に防風林の椿などが植えられていました。土地の高度利用が進んでおり、空から見る田畑はまるでパッチワークのようです。林業や養蚕業のおかげで里山は隅々まで管理され、緑は再生産されていました。

● 末吉地域



末吉はテングサ漁をはじめ漁獲高は島内一を誇り、村の財政は豊かでした。小学校の立派な木造校舎は絵葉書にもなりました。集落は主に小学校の東側にあり、海側を下っていく神子尾から洞輪沢にかけても民家は点在しています。平坦地が少ないため、急傾斜地にも棚田を作って農業を営んでいたことがわかります。



## 付記

記念誌を発行するにあたり、昭和、平成、令和にわたる多くの資料を改めて見直しました。八丈町の町勢要覧や事務概況、八丈島誌、八丈支庁の管内概要、南海タイムスなどが主で、古い時代のものは、公的資料で同じ項目を調べても年度区分のずれや、分類の仕方、数字のとらえ方などで、データが異なることもありましたが、少しでも時代の状況や空気を感じてもらえれば幸いです。出典の記載がない写真や図表の多くは、これまで八丈町の刊行物で使用されたものです。

八丈町は町制施行から10年ごとの節目に、町勢要覧の記念誌を発行してきましたので、これが7冊目となります。1964年に発行した1冊目の「町制10周年記念」の冒頭には、八丈町の紋章に込めた未来のまちづくりへの想いが綴られています。改めてここに全文を再録します。

### 町章……

鳥は平和の象徴にして、広く人類に愛されている。八丈島はその昔、鳥も通わぬと追分に唄われる程の未開地を連想させたが、現実には反対である。

世界に無二の多鳥島でもある。400余種にも及ぶ鳥こそ八丈の象徴といえるのである。そのうち、つばめは北はシベリヤから南の端まで暖地を求めて移動する小鳥で、その間害虫を駆除して人間に繁栄と平和をもたらす益鳥である。

八丈町は航空路の整備により空からの文化交流を主軸として経済開発を期待し、産業に観光に飛躍への躍動は内外に充実しており、つばめのように大空を自由に飛び、平和を愛し、忍耐と努力により一大楽園八丈を建設し、もって住民の福祉と繁栄が永久であることを象徴として、この紋章を制定するものである。

東京都八丈町 町勢要覧  
「はちじょう 2024」  
令和7年3月発行



町創施行 70 周年

企画・発行

八丈町企画財政課企画係

東京都八丈島八丈町大賀郷 2551 番地 2

電話 04996 - 2 - 1120

URL <https://www.town.hachijo.tokyo.jp/>

編集・印刷

有限会社南海タイムス社

東京都八丈島八丈町大賀郷 2522 - 1

電話 04996 - 2 - 3456